

科目名	仏教と文化A Buddhism and Culture A			
教員名	坂 輪 宣 敬		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			○
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	仏教の基本と豊かな文化的展開を学ぶ			
授業の 概要・目的	仏教の重要な、かつ基本的な事項を学び、さらにインド、中国の文化的、美術的な展開をスライドを参照しつつ学んでゆく。			
授業の 到達目標	仏教文化の理解を通して自我意識の確立と慈悲にあふれた共生の思いを育む			
授業計画	1. 仏教とは何か (1)学問と信仰 (2)宗派 (3)仏教系大学			
	2. 仏教とは何か (4)			
	3. 仏教とは何か (5)			
	4. 仏の教えとは何か (1)			
	5. 仏の教えとは何か (2) ※外部講師による授業			
	6. 法華経 ほけきょう という教え (1)			
	7. 法華経 ほけきょう という教え (2) ※これまでの講義をもとにレポートを書く			
	8. インドにおける仏教のはじまりと展開			
	9. インドにおける仏教の文化 アショーク王、ストゥーパ、石窟寺院			
	10. 中国における仏教の受容 仏教初伝、翻訳、教相判釈			
	11. 中国における仏教美術 三大石窟の仏像と壁画			
	12. 仏教ワールド (1) 所作を学ぼう			
	13. 仏教ワールド (2) 仏教文学の深さを知る			
	14. 仏教ワールド (3) 世界の諸事情にふれる・レポートを書く			
	15. レポートによるまとめ			
評価方法	小レポート(第 7・14 回目 : 40%)と期末試験 (60%) による評価とします。 ただし、2/3 以上出席しなければ成績を評価しません。			
テキスト ※必ず購入	とくに使用しません。			
参考書 ※必要に応じ購入	授業の初めに紹介します。			
受講条件 ルール等				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	折々コピーを配布します。それを良く読んで、次回の授業に臨んでください。			

科目名	仏教と文化B				Buddhism and Culture B	
教員名	渡 邊 彰 良			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					○
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	日本人が知っておくべき仏教とその文化を学ぶ					
授業の 概要・目的	日本に深く根ざした仏教文化について学ぶとともに、海外の仏教文化(世界遺産等)にも視線を向ける。また、当校にゆかりの江戸の法華信仰についても紹介する。					
授業の 到達目標	日本を紹介する上で欠かせない、仏教と文化に関する基礎的な知識を得る。 アジア各地の仏教寺院・世界遺産等を知ること、世界宗教としての仏教の広がりを理解する。					
授業計画	1. 導入 仏教と文化～源氏物語から宮沢賢治まで					
	2. 仏教とその歴史 インドから日本まで～蓮華手菩薩の旅					
	3. 仏教の教えと経典 法華経からたどる結集・貝葉経・大蔵経					
	4. 平安時代に花開いた仏教文化					
	5. 課外授業 江戸を通じて見る仏教文化					
	6. 鎌倉時代 今に続く鎌倉新仏教のはじまりと広がりを見せる文化					
	7. 戦国時代 動乱の京に咲いた仏教文化					
	8. 生活文化としての仏教 年中行事					
	9. 生活文化としての仏教 儀礼					
	10. 江戸の仏教文化(繰り弁・講談・落語)					
	11. 文化としてみる仏像・伽藍					
	12. 世界遺産を通じて見る仏教文化「インド・中央アジア・シルクロード」					
	13. 世界遺産を通じて見る仏教文化「東南アジアの国々」					
	14. 世界遺産を通じて見る仏教文化「中国・韓国」					
	15. 江戸に花開いた法華文化					
評価方法	期末試験(60%)、講義中の小課題・感想文・ワークショップ(40%)					
テキスト ※必ず購入	講義中にプリントを配布する。					
参考書 ※必要に応じ購入	『お寺の教科書』,監修頼富本宏,樫出版社,2013 年 『日本のしきたり 冠婚葬祭のなぜ?』,ダイヤモンド社,2008 年					
受講条件 ルール等	理解度を深めるための「クイズ」や、考えながら学ぶための「ワークショップ」などを行うことで、教員から受講生への一方通行でない、双方向性のある授業を行う。 積極的に発言し、授業に参加することを希望する。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	講義冒頭の小テスト等で前回講義の理解度をチェックするので、配布プリントやノートに目を通して復習すること。(15 分×2 回程度) 校外授業に際しては、前もって事前学習を指示するので、予習をすること。時間については概ね1時間程度を目安とする。					

科目名	文学 Literature			
教員名	高 橋 汐 子		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	源氏物語を読む			
授業の 概要・目的	源氏物語の正編(光源氏の生涯)を中心に、物語の核となる場面を抽出して読んでいく。あらすじを追うだけではなく、原文(古文)を味わうことを目的とするが、物語内容に初めて触れる学生にも解るよう、人物関係や時代背景の説明も行っていく。			
授業の 到達目標	1. 日本文化への理解を深める。 2. 源氏物語の概略を掴む。 3. 古文に親しむ。			
授業計画	1. 源氏物語の背景			
	2. 母桐壺の更衣			
	3. 若紫との出会い			
	4. 藤壺との密通事件			
	5. 葵上の死			
	6. 須磨流離			
	7. 明石の君と明石の姫君			
	8. 六条院世界			
	9. 栄華への道			
	10. 女三宮の降嫁			
	11. 柏木との密通事件			
	12. 紫の上の病			
	13. 光源氏世界の終焉			
	14. 光が消えた後の世界へ			
	15. まとめ			
評価方法	レポート試験			
テキスト ※必ず購入	秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男編 『源氏物語読本』 筑摩書房			
参考書 ※必要に応じ購入	鈴木日出男編 『源氏物語ハンドブック』 三省堂 その他、授業内で紹介する			
受講条件 ルール等	源氏物語がどのような物語なのかを知りたいと思っている学生を対象としている。授業に意欲的に取り組むことを条件とし、欠席や私語は慎むこと。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	次週の範囲の原文と現代語訳を必ず読んでくること。			

科目名	哲学概論			Outline of Philosophy	
教員名	染 山 教 潤			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	人間の倫理思想を理解する				
授業の概要	1. 生命科学、人間についての知識を理解し、人間のあり方を考える 2. 人間の進化が結果として得た「倫理」の歴史をたどり、現在の到達点を理解する 3. 自分の生き方を考える				
授業の 到達目標	1. 人間の特性を明らかにし、人間についての知識を理解し、人間のあり方を考える 2. 行為の善悪を判断するとき、その基準となる思想を「倫理思想」という 3. その「倫理思想」を学び、自らの生き方を考える				
授業計画	1. [1]「私がいまここに居る」ことの重要性を考える				
	2. [2]人間の起源を求めて ①宇宙の誕生 ②地球の誕生 ③生命の誕生				
	3. ④生命の進化 ⑤陸に進出する生命 ⑥サルからヒトへ				
	4. ⑦ヒトの進化と現代人の誕生				
	5. [3]人間とはなにか ①生態学から見た人間像(直立二足歩行と言語)				
	6. ②大脳生理学から見た人間像 ③言語をもつ動物としての人間像				
	7. [4]倫理思想史をふり返る ①ギリシャの自然哲学とソクラテス				
	8. ②宗教思想 仏教、儒教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教				
	9. ③デカルトとベーコン ④ベンサム				
	10. ⑤カント、ヘーゲル、マルクス、エンゲルス				
	11. ⑥無意識の心理学 フロイト、ユング				
	12. 一番新しい思想 バンク・ミケルセンのノーマライゼーションの思想				
	13. あらためて人間とは何か				
	14. まとめ①				
	15. まとめ②				
評価方法	筆記試験を中心としてレポートも参考に、理解度を評価する。				
テキスト ※必ず購入	使用しない。授業内容をまとめたプリント資料を配布。				
参考書 ※必要に応じ購入	吉野源三郎『君たちはどう生きるか』(ポプラ社) 峰島旭雄『概説西洋哲学史』(ミネルヴァ書房) 『NHK スペシャル 地球進化』DVD 全 6 巻(NHK 出版)				
受講条件 ルール等	必要に応じて DVD 教材を使用する。 試験は持ち込み(何でも)可。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	プリントを読んで疑問点をまとめておくこと。				

科目名	歴史学				History	
教員名	梶 暁 美			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					○
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	建築デザインからみる日本と西洋の文化的背景					
授業の 概要・目的	歴史を縦と横のラインでとらえることにより、ものごとを多角的に考えられるようになることを目標とします。講義はパワーポイントで画像を見ながら行います。					
授業の 到達目標	異文化を学ぶことにより、民族や宗教を理解できるようになる					
授業計画	1. 縄文・弥生時代(リーダーの登場)/エジプト・メソポタミア(四大文明)					
	2. 飛鳥・奈良時代(仏教伝来の影響)/ギリシャ・ローマ(ヨーロッパの古典)					
	3. 平安貴族と寝殿造 / ビザンチン(ギリシャ正教のデザイン)					
	4. 平等院鳳凰堂は癒しの空間 / イスラム(人物崇拝禁止のデザイン)					
	5. 貴族の住居と武家の住居 / ロマネスク(ローマカソリックの台頭)					
	6. 南北朝時代の無法者 / ゴシック(ローマカソリックの全盛期)					
	7. 鹿苑寺金閣と義満の野望 / イタリアルネサンス1(古典の再生)					
	8. 室町時代のインテリアコーディネーター / イタリアルネサンス2					
	9. 織田信長・下克上の造形 / フランスルネサンス					
	10. 豊臣秀吉と千利休 / イタリアバロック(装飾過多のデザイン)					
	11. 二条城二の丸御殿にみる書院造 / フランスバロック					
	12. 桂離宮のモダン/ロココ・ネオクラシック(女性のファッションリーダー)					
	13. 日光東照宮の再評価 / ナポレオンの造形・アンピール様式					
	14. 産業革命後の近代デザイン					
	15. まとめ。DVD鑑賞					
評価方法	期末試験(第 14 回目に実施 60%)・授業時間内のプレゼンテーション(第 13 回目に締め切り 30%)とミニレポート(10%)による評価とします。ただし 2/3 以上出席しなければ成績を評価しません。					
テキスト ※必ず購入	適宜プリント配布					
参考書 ※必要に応じ購入	問題集を配布しますので、予習・復習に活用してください。					
受講条件 ルール等	高校時代、歴史が苦手だった学生に特に受講してほしい。歴史の概念が変わるかもしれません。もちろん歴史の大好きな学生也大歓迎です。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	初回に配付する年表で、学習する時代を確認すること。					

科目名	法学概論(日本国憲法)			Outline of Law B Japanese Constitution	
教員名	竹 腰 幸 綱			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	憲法と現代社会				
授業の 概要・目的	最近のニュースや、過去の事件とこれに対する裁判所の判断(判例)を通じて、憲法の基本的な考え方を学びます。最新のニュースを扱う予定なので、取り上げる事件の一部は前期の授業から変更する予定です。				
授業の 到達目標	憲法の基本的な考え方を学ぶことで、現代社会の中で起こっている憲法問題について、自分の考えを持てるようにすることが目標です。				
授業計画	1. ガイダンス・授業運営方法				
	2. 憲法とは何か				

科目名	経済学概論(経済のしくみ)				Outline of Economics	
教員名	東 浩一郎			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	経済の仕組みを理解する					
授業の 概要・目的	お金を使って生活に必要なものを買ったり、アルバイトをしてお金を稼ぐなど、私たちは日常生活で当たり前のように経済に接しています。しかし、その仕組みとなると複雑怪奇に見えてあまり深く考えようとしません。これらを整理し、経済と社会の仕組みが理解できるように授業を行います。					
授業の 到達目標	① 日常生活における経済活動を経済学から理解できるようになる ② 政府・企業・家計の関係から、世の中の仕組みを理解できる ③ 経済学を使って、積極的に社会を分析し、行動できる視点を獲得する					
授業計画	1. ガイダンス(成績評価基準、授業概要)、経済と経済学					
	2. 経済の発生(人類史と経済の関係)					
	3. お金の発生と役割					
	4. お金から派生する様々な概念(銀行、マネーストック、金融商品等々)					
	5. 労働の意義(社会的存在としての人間)					
	6. 資本主義的な賃金労働の仕組みと問題(なぜバイトの時給は安いのか)					
	7. 賃金制度の変遷と現状(能力主義、裁量労働制など)					
	8. 市場メカニズムと政府の役割					
	9. 富って何?(GDPの計測方法と家事労働ほか)					
	10. 日本の借金と税制					
	11. 現代の課題 1: 企業へのコンピュータ普及がもたらした功罪					
	12. 現代の課題 2: 非正規労働、格差・貧困(労働基準法と現実)					
	13. 現代の課題 3: 外部効果と公害、環境問題、原発					
	14. 現代の課題 4: アベノミクスの功罪					
	15. 望ましい経済とはどのような状態なのか、一緒に考えてみよう					
評価方法	定期試験(100%) ただし、欠席が 6 回以上になると成績評価はできません。					
テキスト ※必ず購入	なし(適宜講義資料を配布します)					
参考書 ※必要に応じ購入	高校の時に使った政治経済や現代社会の教科書や資料集					
受講条件 ルール等	平易に説明しますので積極的に受講してください。数学はほぼ使いません。 私語は授業妨害として厳しく注意します。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	毎日、ニュース番組を見たり新聞を読んだりして、今、何が起きているのかを知り、自分としての考えをまとめておいてください。常識にとらわれる必要はなく、授業も、一人ひとりの考えを大切にしながら進めます。					

科目名	フィジカル・エクササイズA(体育実技) Physical Exercise A			
教員名	森 田 ゆ い		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	生涯スポーツの理論と実践			
授業の 概要・目的	スポーツ活動を通して仲間とのコミュニケーションを図り、スポーツの楽しみ方や生活の質(QOL)との関連について理解する。			
授業の 到達目標	身体活動を通して、心身をコントロールし、メンテナンスすることの快適さや必要性を実感し、生涯にわたって土台となる健康な身体づくりを目指す。			
授業計画	1. ガイダンス、事前調査、種目決定			
	2. ストレッチ、ダンスエクササイズ、クールダウン～身体を準備しよう			
	3. エアロビクスダンス①			
	4. エアロビクスダンス②			
	5. バドミントン①			
	6. バドミントン②			
	7. バスケットボール①			
	8. バスケットボール②			
	9. テニス①			
	10. テニス②			
	11. 選択種目①			
	12. 選択種目②			
	13. 選択種目③			
	14. 選択種目④			
	15. 総括、活動の振り返り、事後調査			
評価方法	授業への積極的な参加と活動状況(通常点)と実技点によって評価します。※但し、3/2 以上出席しなければ成績を評価できません。			
テキスト ※必ず購入	教科書は指定せず、適宜資料を配布する。			
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。			
受講条件 ルール等	1. 実技授業の為、欠席のないように心がけ、遅刻は減点対象とする。 2. 運動に適した体操着に必ず着替え、アクセサリ類は怪我防止のため外すこと。 3. 体育館使用時間には、必ず「体育館シューズ」を持参すること。 ※施設の使用状況により、種目が前後する可能性があります。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 日ごろより、基本的な生活習慣を心がけること。 2. 活動を通して、リフレッシュする心地よさを味わい、快適な学生生活へとつなげること。 3. 用具の整理整頓に努めること(当番制)			

科目名	フジナル・エクササイズB(体育実技)				Physical Exercise B
教員名	森 田 ゆ い			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	生涯スポーツの理論と実践				
授業の 概要・目的	スポーツ活動を通して仲間とのコミュニケーションを図り、スポーツの楽しみ方や生活の質(QOL)との関連について理解する。				
授業の 到達目標	身体活動を通して、心身をコントロールし、メンテナンスすることの快適さや必要性を実感し、生涯にわたって土台となる健康な身体づくりを目指す。				
授業計画	1. ガイダンス、事前調査、種目決定				
	2. ストレッチ、ダンスエクササイズ、クールダウン～身体を準備しよう				
	3. ダンスエクササイズ①				
	4. ダンスエクササイズ②				
	5. バレーボール①				
	6. バレーボール②				
	7. バレーボール③				
	8. フットサル①				
	9. フットサル②				
	10. フットサル③				
	11. 選択種目①				
	12. 選択種目②				
	13. 選択種目③				
	14. 選択種目④				
	15. 総括、活動の振り返り、事後調査				
評価方法	授業への積極的な参加と活動状況(通常点)と実技点によって評価します。※但し、3/2 以上出席しなければ成績を評価できません。				
テキスト ※必ず購入	教科書は指定せず、適宜資料を配布する。				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	1. 実技授業の為、欠席のないように心がけ、遅刻は減点対象とする。 2. 運動に適した体操着に必ず着替え、アクセサリ類は怪我防止のため外すこと。 3. 体育館使用時間には、必ず「体育館シューズ」を持参すること。 ※施設の使用状況により、種目が前後する可能性があります。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 日ごろより、基本的な生活習慣を心がけること。 2. 活動を通して、リフレッシュする心地よさを味わい、快適な学生生活へとつなげること。 3. 用具の整理整頓に努めること(当番制)				

科目名	健康科学(体育講義)				Health & Science
教員名	森 田 ゆ い			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				○
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	健康科学の基礎知識				
授業の 概要・目的	健康に関する基本的な知識を学び、自身の健康管理に役立てる。心と身体の健康についてディスカッションを行い、自身の「健康観」やそして健康維持に役立つ手法を生み出し、その内容について発表する。				
授業の 到達目標	1. 健康に関する基本的な知識や問題意識を高める。 2. 心と身体の健康について理解を深め、自分オリジナルの「健康観」と健康維持の手法を模索する。				
授業計画	1. ガイダンス、授業概要、事前調査				
	2. 近年の現状と問題点～問題意識を高めよう				
	3. 近年の現状と問題点～気になるワードを挙げてみよう				
	4. 運動と健康 その1				
	5. 運動と健康 その2				
	6. 心と身体 その1				
	7. 心と身体 その2				
	8. 健康維持の手法				
	9. 「健康観」について				
	10. プレゼンテーションガイダンス				
	11. プレゼンテーション①				
	12. プレゼンテーション②				
	13. プレゼンテーション③				
	14. 私の考える「健康観」と健康維持の手法				
	15. 前期総括、事後調査				
評価方法	課題提出、プレゼンテーション試験(第 11～13 回に実施 40%)とレポート試験(60%)により評価する。但し、3/2 以上出席しなければ成績を評価できません。				
テキスト ※必ず購入	教科書は指定せず、必要な資料を配布する。				
参考書 ※必要に応じ購入	授業テーマに沿って、適宜紹介する。				
受講条件 ルール等	1. 欠席、遅刻、早退のないように心がけ、授業中の私語は厳禁。 2. 受け身で受講するだけでなく、自ら問題意識を立ち上げて調査し、プレゼンテーションも行う講座である。積極的に取り組むことを期待する。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1. 日常的に「健康」に関する情報や題材に興味を持ち、問題意識を育てること。 2. 自身の健康状態に関心を持ち、生活習慣と健康状態の関係を意識して過ごすこと。 3. プレゼンテーションでは、人前でしっかり発表する準備を整えておくこと。				

科目名	基礎演習A			Basic Study A	
教員名	東・飯田・奥坊・中岡・中島			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	日本と世界で起きていることを理解する				
授業の 概要・目的	・現代社会の諸課題を取り上げ議論する ・資料収集、分析、発表の仕方を学ぶ ・基礎学力(文章理解、数的処理)をつける				
授業の 到達目標	・社会の一員であることを自覚し、各自が社会に対する視角を獲得する ・資料を分析し、それを分かりやすくまとめることができるようになる				
授業計画	1. オリエンテーション 1(図書館オリエンテーション・学内システム)				
	2. オリエンテーション 2(図書館オリエンテーション・学内システム)				
	3. 全体学習(求めらる情報モラル、ネットリテラシー)				
	4. グローバリゼーションとナショナリズム(時事問題を知ると共に文章理解力をつける)				
	5. 文章から論点を抜き出し要約する方法を覚える(グループワーク)				
	6. テーマを決めて、それについて調べてみよう				
	7. 全体学習				
	8. レポート作成指導				
	9. レポート発表・情報分析の手法				
	10. 人間の尊厳(時事問題を知ると共に文章理解力をつける)				
	11. 文章から論点を抜き出し要約する方法を覚える(グループワーク)				
	12. テーマを決めて、それについて調べてみよう				
	13. 全体学習				
	14. レポート作成指導				
	15. レポート発表・全体まとめ				
評価方法	① 発表レポート ② 授業への参加状況(討論、意見交換、理解力) ※評価はP／Fの2段階です。				
テキスト ※必ず購入	『2015 年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集『時事力』基礎編(3・4 級対応)』(毎日新聞社)				
参考書 ※必要に応じ購入	新聞各紙 その他、適宜授業内で紹介します				
受講条件 ルール等	インターネットは重要なツールですが、これだけに頼らず必ず文献を調べたり、自分で分析したりする力を身につけましょう。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	必ず新聞には目ととおしてください。自宅で購読していない場合は、図書館にあるので、授業の合間や放課後を利用して読んでおくこと。				

科目名	基礎演習B Basic Study B			
教員名	東・飯田・奥坊・中岡・中島		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	日本と世界で起きていることを理解する			
授業の 概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸課題を取り上げ議論する ・資料収集、分析、発表の仕方を学ぶ ・基礎学力(文章理解、数的処理)をつける 			
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員であることを自覚し、各自が社会に対する視角を獲得する ・資料を分析し、それを分かりやすく発表できるようになる 			
授業計画	1. 全体学習・オリエンテーション			
	2. スピーチテーマの設定と文献検索			
	3. 基礎学力(一般常識・数的処理)			
	4. 転換期の日本(時事問題を知る共に文章理解力をつける)			
	5. スピーチ中間発表・グループワーク・スピーチ原稿作成指導			
	6. 地球環境の現在(時事問題を知る共に文章理解力をつける)			
	7. グループワーク(情報分析・図解)			
	8. 全体学習			
	9. スピーチ原稿作成指導・基礎学力(一般常識・文章理解・数的処理)			
	10. スピーチ原稿作成指導・基礎学力(一般常識・文章理解・数的処理)			
	11. スピーチ発表			
	12. 基礎学力(一般常識・数的処理・文章表現)・レポート作成指導			
	13. 基礎学力(一般常識・数的処理・文章表現)・レポート作成指導			
	14. 基礎学力(一般常識・数的処理・文章表現)・レポート発表			
	15. レポート発表・全体まとめ			
評価方法	① 発表レポート ② 授業への参加状況(討論、意見交換、理解力) ※評価はP/Fの2段階です。			
テキスト ※必ず購入	『2015 年度版 ニュース検定公式テキスト&問題集『時事力』基礎編(3・4 級対応)』(毎日新聞社)			
参考書 ※必要に応じ購入	新聞各紙 その他、適宜授業内で紹介します			
受講条件 ルール等	インターネットは重要なツールですが、これだけに頼らず必ず文献を調べたり、自分で分析したりする力を身につけましょう。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	必ず新聞には目ととおしてください。自宅で購読していない場合は、図書館にあるので、授業の合間や放課後を利用して読んでおくこと。			
科目名	自己理解と他者理解		Self Understanding & Others Understanding	

教員名	飯 田 宮 子			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	聞くよるこびと語るよるこび				
授業の 概要・目的	カール・ロジャースによる対人コミュニケーション論を読み、コミュニケーションを通して自己理解と他者理解が促されるプロセスについて学ぶ。				
授業の 到達目標	尊重の心理：傾聴、受容、共感の大切さを学ぶ。				
授業計画	1. コミュニケーションの意味				
	2. 自己の経験と他者の経験				
	3. 聞くこと(傾聴すること)				
	4. 成長を促すコミュニケーション				
	5. 萎縮させるコミュニケーション				
	6. 聞いてもらうこと(傾聴を得ること)				
	7. 受容				
	8. 孤独				
	9. 一致の状態：真実				
	10. 不一致の状態：偽り				
	11. 真実を伝える喜び				
	12. 偽りがもたらす攻撃性				
	13. 無条件の肯定的配慮				
	14. 共感的理解				
	15. 相互援助				
評価方法	通常の学習態度(出席状況と授業参加態度)および筆記試験により評価する。				
テキスト ※必ず購入	参考文献コピーを配布します。				
参考書 ※必要に応じ購入	『人間尊重の心理学』カール・ロジャース／畠瀬直子監訳 創元社 『ロジャース全集』1～23 岩崎学術出版社				
受講条件 ルール等	出席重視				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業内容(キーワード)を復習する。 前回の授業内容を小テストにて確認する。				

科目名	異文化理解			Cross-Cultural Understanding	
教員名	中 島 智			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	グローバル時代の地域文化				
授業の 概要・目的	グローバル時代に必要なのは英語、ICT だけではない。本授業では、自文化(日本の地域文化)への理解を基軸としながら異文化を理解し尊重する素養を深めることを目指します。				
授業の 到達目標	・文化多様性の重要性について理解できるようになる ・異文化理解の視点から地域文化を見つめ直し、理解できるようになる ・グループ学習を通して、主体性や思考力、チームワークなどの能力を高めることができる				
授業計画	1. オリエンテーション グループの組成				
	2. 文化とは何か				
	3. 文化と文明の違いを考える(1)				
	4. 文化と文明の違いを考える(2)				
	5. 文化多様性とは何か				
	6. グループ研究報告①				
	7. 日本の風土(1)				
	8. 日本の風土(2)				
	9. 里山にみる日本の生活文化(1)				
	10. 里山にみる日本の生活文化(2)				
	11. グループ研究報告②				
	12. 内発的発展を考える(1)				
	13. 内発的発展を考える(2)				
	14. 異文化理解とコミュニケーション				
	15. まとめ				
評価方法	毎回の小テスト、小レポートに加え、発表、定期試験などの総合評価で判断します。 なお、小テストは前回の復習、小レポートは授業内容の要約(箇条書き)と質問です。				
テキスト ※必ず購入	なし				
参考書 ※必要に応じ購入	上田紀行『生きる意味』(岩波新書)岩波書店、2005 年 今森光彦『カラー版 里山を歩こう〈Part2〉』(岩波ジュニア新書)岩波書店、2008 年				
受講条件 ルール等	グループ単位で課題研究を課すので、最後まで出席できること。また準備学習についても主体的に取り組めることが条件。なお、必修科目であることに留意して下さい。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	グループ単位で特定の課題について研究を進め、Power Point を活用したプレゼンテーションを 2 回行います(授業計画参照)。スクリプト(2400 字程度)と Power Point のスライド(7～8 枚)、レジュメ(A4 用紙 1 枚程度)を作成し、10 分間の研究報告を行います。				

科目名	ジェンダー論					Gender Studies	
教員名	横 山 道 史			授業区分	〈現〉基礎教育科目		
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択		
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得						
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					○	
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立						
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					◎	
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮						
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得						
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮						
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得						
授業表題	女と男の視点からみる 21 世紀日本社会						
授業の 概要・目的	われわれが所与のものと思なしてしまいがちな性・性別の枠組みを相対化する作業を中心に講義します。「デートDV」「恋愛結婚」「婚活・妊活」など、私たちの日常に潜む「性」の問題について考察・理解し、男女の新しいあり方を構想する視野の獲得を目指します。						
授業の 到達目標	1. 「性」の自明性を疑うことができる 2. 「性」の多様性を尊重できるようになる 3. 男女の新しい関係性のあり方を構想する視野が身に付く						
授業計画	1. 授業方法および授業方針についての説明						
	2. 「性」／「性別」とは何か？						
	3. 「性差」とは何か？——男らしさ、女らしさについて						
	4. 近代「家族」の変容と行方						
	5. 「婚活現象」を読み解く						
	6. 人口減少社会と男女共同参画社会 1						
	7. 人口減少社会と男女共同参画社会 2						
	8. 生殖医療の最前線——近代「家族」再考						
	9. 男性問題の最前線——イクメン、草食男子、男らしさ						
	10. 労働とジェンダー						
	11. 男女雇用機会均等法再考						
	12. ハラスメント社会を読み解く						
	13. デートDVと恋愛						
	14. ジェンダーとダイバーシティ						
	15. 予備日：総括						
評価方法	試験(70%)および授業内小テスト(30%)により評価します。						
テキスト ※必ず購入	教科書は特に定めないが、参考文献を適宜紹介する。						
参考書 ※必要に応じ購入	加藤秀一『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』朝日新聞社、2006 伊藤公男・他 2 名『女性学・男性学』有斐閣、2002						
受講条件 ルール等	私語は授業妨害とみなし減点対象となります。ただし、授業内容に関する質問等はその限りではない。授業第一回目に、受講ルールについて説明するのでその内容に十分に留意し受講を決定すること。						
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	キーワードについての小テストを授業開始 5 分程度実施するので、それにきちんと回答できるように、授業内容の復讐を 1 時間程度行うことを推奨する。						

科目名	自然科学概論(日常生活と科学)				Outline of Natural Science	
教員名	横 山 道 史			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	地域環境問題の基礎知識					
授業の 概要・目的	日々の活動によって生じる生活環境問題について学ぶことを通して、私たちの生活を見直す視点を身に着けることを目標とします。環境問題発生のメカニズム、対策等を、具体的な環境問題の事例に即しながら学びます。					
授業の 到達目標	1 日常生活の積み重ねが、環境問題へとつながるそのメカニズムを理解することができる 2 環境問題への気づきからライフスタイルの見直しをすることができる					
授業計画	1. 授業方法および授業方針についての説明					
	2. 大気汚染発生のメカニズムと対策—PM2.5 とは何か					
	3. 水環境の変遷—川再生の取り組みから					
	4. 上下水道と生活排水処理					
	5. 化学物質の健康影響と安全管理					
	6. 放射性物質の健康影響と安全管理					
	7. リスク論—偶然を飼い馴らす					
	8. 悪臭と騒音					
	9. 世界の食料問題・日本の食糧問題					
	10. エネルギー問題とは何か					
	11. ゴミとリサイクル					
	12. 社会的ジレンマとしての環境問題					
	13. ライフサイクル・アセスメント					
	14. 環境低負担型社会の構築へ向けて					
	15. 予備日:総括					
評価方法	試験(70%)および授業内小テスト(30%)により評価します。					
テキスト ※必ず購入	教科書は特に定めませんが、参考文献を適宜紹介する。					
参考書 ※必要に応じ購入	岡本博司『環境科学の基礎』東京電機大学出版局、2002 藤倉良・藤倉まなみ『文系のための環境科学入門』有斐閣コンパクト、2008 日本化学学会編『暮らしと環境科学』東京化学同人、2003					
受講条件 ルール等	私語は授業妨害とみなし減点対象となります。ただし、授業内容に関する質問等はその限りではない。授業第一回目に、受講ルールについて説明するのでその内容に十分に留意し受講を決定すること。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	キーワードについての小テストを授業開始 5 分程度実施するので、それにきちんと回答できるように、授業内容の復讐を 1 時間程度行うことを推奨する。					

科目名	ゼミナール A Seminar A			
教員名	東 浩一郎		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	現代社会の仕組みを理解する			
授業の 概要・目的	現代社会の諸問題の中からテーマを選び、全員で資料を調べたり議論したりします。最後に、各自の研究テーマを決めて後期につなげます。			
授業の 到達目標	① 社会を理解する視角を獲得する ② 資料を分析しまとめる力を身につける ③ みんなで議論し、課題を発見し解決する能力を身につける			
授業計画	1. オリエンテーション、授業の進め方について考える			
	2. 前期テーマ設定、資料収集、分析、発表方法について検討する			
	3. 役割分担と資料収集・分析(最後にグループごとに成果発表)			
	4. 校外授業			
	5. 資料発表、輪読、討論			
	6. 資料発表、輪読、討論			
	7. 研究成果の発表			
	8. 中間まとめと前期後半の計画策定			
	9. 役割分担と資料収集・分析(最後にグループごとに成果発表)			
	10. 校外授業			
	11. 資料発表、輪読、討論			
	12. 資料発表、輪読、討論			
	13. 研究成果の発表			
	14. 各自の研究テーマ策定			
	15. 夏休みの課題設定、学習発表会に向けてのテーマ設定			
評価方法	授業内発表(50%)、授業への参加状況(50%)			
テキスト ※必ず購入	なし(ゼミで議論して選定)			
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介します。毎日、新聞を読んでもください。			
受講条件 ルール等	ゼミは学生が作っていく授業です。積極的に参加し、授業内で一回も発言をしないということがないようにしてください。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	① 毎回、次回の範囲に目を通しておいてください。 ② 発表資料は、時間内での指導をもとに、各自自宅でも作成してください。			

科目名	ゼミナール B Seminar B			
教員名	東 浩一郎		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	現代社会の仕組みを理解する			
授業の 概要・目的	学習発表会に向けてみんなで研究するとともに、各自の研究を進めゼミ論文を作成します。			
授業の 到達目標	① 社会を理解する視角を獲得する ② 学習発表会で研究成果を発表する ③ ゼミ論文を作成する			
授業計画	1. オリエンテーション、夏休みの課題点検、後期に向けた個人面談			
	2. 論文執筆に必要な決まりについて			
	3. 学習発表会準備開始、個人研究開始、SMW 企画準備開始			
	4. 資料収集、分析、SMW 準備			
	5. 校外授業			
	6. 資料収集、分析(最後にグループごとに成果発表)			
	7. 学習会に向けた資料作成、SMW 準備、ゼミ論文作成指導			
	8. 学習会に向けた資料作成、SMW 総括、ゼミ論文作成指導			
	9. 学習会に向けた資料作成、ゼミ論文作成指導			
	10. 学習会に向けた資料作成、ゼミ論文作成指導			
	11. 学習会に向けた資料完成、リハーサル等			
	12. 学習発表会総括、ゼミ論文指導			
	13. ゼミ論文中間発表、指導			
	14. ゼミ論文最終発表、講評			
	15. ゼミ論文最終発表、講評			
評価方法	ゼミ論文			
テキスト ※必ず購入	なし(ゼミで議論して選定)			
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介します。毎日、新聞を読んでもください。			
受講条件 ルール等	ゼミは学生が作っていく授業です。積極的に参加し、授業内で一回も発言をしないということがないようにしてください。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	① 毎回、次回の範囲に目を通しておいてください。 ② 発表資料は、時間内での指導をもとに、各自自宅でも作成してください。			
科目名	ゼミナール A Seminar A			
教員名	飯 田 宮 子		授業区分	〈現〉基礎教育科目

年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	自由に表現する心を育てる。				
授業の 概要・目的	学生が興味・関心を持つ童話や昔話(文学作品)を読み、その内容を心理学的に分析・考察し、レポートにまとめる。最後に朗読・創作など学生独自の研究発表を行う。				
授業の 到達目標	前期はレポート提出、後期は学生のオリジナル作品を発表する。				
授業計画	1. 授業の流れと作業の説明				
	2. 図書館利用:基礎文献、資料検索				
	3. 学生による文献の講読とまとめ				
	4. 学生による文献の講読とまとめ				
	5. 学生による文献の講読とまとめ				
	6. 学生による文献の講読とまとめ				
	7. 学生による文献の講読とまとめ				
	8. 学生による文献の講読とまとめ				
	9. 学生による文献の講読とまとめ				
	10. 学生による文献の講読とまとめ				
	11. 学生による文献の講読とまとめ				
	12. レポートの書き方				
	13. レポートに書き方				
	14. レポート提出				
	15. 解説				
評価方法	通常の学習態度(出席状況と授業参加態度)およびレポート提出／作品発表により評価する。				
テキスト ※必ず購入	参考文献コピーを配布します。				
参考書 ※必要に応じ購入					
受講条件 ルール等	出席重視				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	興味・関心を持つ童話などの内容と日常での経験との関連を見つける努力をすること。				

科目名	ゼミナール B Seminar B			
教員名	飯 田 宮 子		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	自由に表現する心を育てる。			
授業の 概要・目的	学生が興味・関心を持つ童話や昔話(文学作品)を読み、その内容を心理学的に分析・考察し、レポートにまとめる。最後に朗読・創作など学生独自の研究発表を行う。			
授業の 到達目標	前期はレポート提出、後期は学生のオリジナル作品を発表する。			
授業計画	1. 授業の流れと作業の説明			
	2. 図書館利用:基礎文献、資料検索			
	3. 学生による文献の講読とテーマ探し			
	4. 学生による文献の講読とテーマ探し			
	5. 学生による文献の講読とテーマ探し			
	6. 学生による文献の講読とテーマ探し			
	7. 学生による文献の講読とテーマ探し			
	8. 学生による文献の講読とテーマ探し			
	9. 学生による文献の講読とテーマ探し			
	10. 学生による文献の講読とテーマ探し			
	11. 学生による文献の講読とテーマ探し			
	12. 研究発表			
	13. 研究発表			
	14. 研究発表			
	15. 解説			
評価方法	通常の学習態度(出席状況と授業参加態度)およびレポート提出／作品発表により評価する。			
テキスト ※必ず購入	参考文献コピーを配布します。			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	出席重視			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	興味・関心を持つ童話などの内容と日常での経験との関連を見つける努力をすること。			

科目名	ゼミナール A Seminar A			
教員名	中 岡 典 子		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	現代社会を知る			
授業の 概要・目的	私たちを取り巻く現代社会の文化・諸事情・諸問題について関心を広げ、自ら選んだトピックについて、調査、分析、考察する力を養うことを目標とする。			
授業の 到達目標	研究口頭中間発表とゼミ論文作成の準備を行う。			
授業計画	1. ガイダンス			
	2. テーマ探し			
	3. 図書館利用 基礎文献の検索			
	4. 基礎文献の講読			
	5. 基礎文献の講読			
	6. 基礎文献の講読			
	7. トピック発表			
	8. トピック発表			
	9. 論文構成の仕方			
	10. 調査			
	11. 調査			
	12. 調査			
	13. 前期の論文提出・口頭中間発表			
	14. 前期の論文提出・口頭中間発表			
	15. まとめ			
評価方法	研究口頭中間発表、レポート作成、共同作業を総合的に評価する。			
テキスト ※必ず購入	特になし、適宜資料他、プリント配布			
参考書 ※必要に応じ購入	適宜、授業内提示			
受講条件 ルール等	ゼミでは共同作業やゼミ生同志の学び合いを重視します。前期は、論文のテーマ探しに時間を掛け、互いにそのテーマについて意見を交わしながら、それぞれ調査をすすめ、その中間口頭発表が前期の課題です。年間を通してお互いの調査・研究を通しての学び合い、その最終仕上げが後期のゼミ論文集作成となります。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	テーマ探しの個人作業、基礎文献参照、参考資料さがし、レポート作成			

科目名	ゼミナール B Seminar B			
教員名	中 岡 典 子		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	現代社会を知る			
授業の 概要・目的	私たちを取り巻く現代社会の文化・諸事情・諸問題について関心を広げ、自ら選んだトピックについて、調査、分析、考察する力を養うことを目標とする。			
授業の 到達目標	学習発表会でパワーポイントを使つての口頭発表、及びゼミ論文集作成			
授業計画	1. 後期授業のガイダンス			
	2. ゼミ論文のアウトライン作成			
	3. 参考資料のリスト作成			
	4. 調査・個人指導			
	5. 調査・個人指導			
	6. 後期口頭中間発表			
	7. 後期口頭中間発表			
	8. パワーポイント作成			
	9. パサーポイント作成(アニメーションの活用、ノート作成)			
	10. 学習発表会に向けての準備			
	11. ゼミ論文作成への個人指導			
	12. ゼミ論文作成への個人指導			
	13. ゼミ論文作成への個人指導			
	14. ゼミ論文最終稿の提出/ 口頭発表			
	15. まとめ			
評価方法	研究発表、論文作成、共同作業を総合的に評価する。			
テキスト ※必ず購入	特になし、適宜資料他、プリント配布			
参考書 ※必要に応じ購入	適宜、授業内提示			
受講条件 ルール等	ゼミでは、ゼミ生同志の学び合いと互いの共同作業を重視します。後期は文化祭でのゼミ活動、セルフマネジメントでのゼミ活動、学習発表会では、ゼミ生としての研究成果発表に参加します。そして、集大成として各自論文を仕上げ、ゼミの論文集を発行します。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	パワーポイントの準備・作成・ノートの作成にあたり、未完成部分は、各自自学学習ですすめていくこと。また、卒業論文の完成に向けての準備も同じく、調査、データ収集、まとめ等は、授業外での準備学習が重要となる。大学のコンピュータを利用するか、自宅のコンピュータで、マイペースで準備をすすめること。			

科目名	ゼミナール A Seminar A			
教員名	中 島 智		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	書をもって、まちに出よう			
授業の 概要・目的	この授業は、観光学を「まちづくり」「観光交流」「地域文化」活動を通して理論的・実践的に学ぶことが目的です。1 年次に修得したコミュニケーションに関する知識を地域社会の中で実際に活かすことをめざします。前期は輪読レジュメの作成をはじめ学問の基本的な方法を身に付けます。			
授業の 到達目標	・地域・文化・観光について自分なりの視点を持ち、学生生活を有意義なものにできる ・実践的活動への参加を通して、主体性や思考力、チームワークなどの能力を高めることができる			
授業計画	1. オリエンテーション			
	2. プロジェクトの組成(個人・グループ) / 堀の内をあるくみるさく			
	3. 観光とは			
	4. 観光と地域文化			
	5. 研究計画の発表 / まわしよみ新聞			
	6. 観光と食文化			
	7. 多様化する観光			
	8. エコツーリズムとグリーン・ツーリズム / 研究合宿の企画検討			
	9. アート・文化とツーリズム			
	10. ホスピタリティと観光			
	11. 顧客満足と観光 / 研究合宿の企画決定→準備			
	12. ワークショップという場			
	13. ファシリテーションという技術 / 高校生と楽しむワークショップの企画			
	14. おもてなしが届くマーケティング / 研究合宿の内容確定			
	15. プロジェクト進捗報告 / 高校生と楽しむワークショップの確定			
評価方法	プロジェクトの進捗状況			
テキスト ※必ず購入	山口一美編『はじめての観光魅力学』創成社、2011 年 中野民夫『ファシリテーション革命』(岩波アクティブ新書)岩波書店、2003 年			
参考書 ※必要に応じ購入	白土健・望月義人編『観光を学ぶ』八千代出版、2015 年 中野民夫『みんなの楽しい修行:より納得できる人生と社会のために』春秋社、2014 年			
受講条件 ルール等	仲間と共に学ぶ中で面白いと思うテーマを見つけ、参加する(Participate)→記録する(Document)→考察する(Think)→提案する(Propose)というスタイルで研究を進めます。この PDTP 手法により「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を伸ばします。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	USB とクリアファイルなどに活動の記録、収集した資料、写真(画像)を保存していきます。それらのコンテンツを適宜整理し編集しながら、卒業論文の完成をめざします。 なお、報告者は報告までに担当教員までプレゼン内容の事前確認を済ませてください。			

科目名	ゼミナール B				Seminar B	
教員名	中 島 智			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	2 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	夢をもって、社会に出よう					
授業の 概要・目的	この授業は、観光学を「まちづくり」「観光交流」「地域文化」活動を通して理論的・実践的に学ぶことが目的です。これまでに修得したコミュニケーションに関する知識を地域社会の中で実際に活かすことをめざします。後期は自分の考えを相手に伝え、理解させる基礎能力を身に付けます。					
授業の 到達目標	・地域・文化・観光について自分なりの視点を持ち、将来の生き方を展望することができる ・実践的活動への参加を通して、主体性や思考力、チームワークなどの能力を高めることができる					
授業計画	1. オリエンテーション					
	2. 地元学とエコミュージアム					
	3. まち歩きを考える					
	4. 観光まちづくりとは何か					
	5. 住民主体のまちづくり・観光を進めるしくみ					
	6. パートナーシップによるガバナンスの形成					
	7. プロジェクト進捗報告					
	8. まちに賑わいをもたらす地域商業					
	9. 美しく創造的な街並みをつくる地域デザイン					
	10. 共同報告に向けた準備					
	11. 共同報告					
	12. 個人報告に向けた準備					
	13. 個人報告①					
	14. 個人報告②					
	15. まとめ					
評価方法	プロジェクトの成果(卒業論文)					
テキスト ※必ず購入	山口一美編『はじめての観光魅力学』創成社、2011 年 中野民夫『ファシリテーション革命』(岩波アクティブ新書)岩波書店、2003 年					
参考書 ※必要に応じ購入	石原武政・西村幸夫編著『まちづくりを学ぶ 地域再生の見取り図』有斐閣、2010 年 湯浅誠『ヒーローを待っていても世界は変わらない』(朝日文庫)朝日新聞出版、2015 年					
受講条件 ルール等	仲間と共に学ぶ中で面白いと思うテーマを見つけ、参加する(Participate)→記録する(Document)→考察する(Think)→提案する(Propose)というスタイルで研究を進めます。この PDTP 手法により「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を伸ばします。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	USB とクリアファイルなどに活動の記録、収集した資料、写真(画像)を保存していきます。それらのコンテンツを適宜整理し編集しながら、卒業論文の完成をめざします。 なお、報告者は報告までに担当教員までプレゼン内容の事前確認を済ませてください。					

科目名	ゼミナール A Seminar A			
教員名	有 泉 正 二		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	自分の言葉と視点によって問いを生み出し論じる力を養う			
授業の 概要・目的	一年を通じて自分が世の中の事象を論じる意義を考え続ける。ゼミの特長を活かして他人からの指摘をきちんと受け止め、自分に足りない点を成長させる。			
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・修正をいわず内容の充実した論文を作成できる ・学生相互で話し合い、ゼミを企画・運営できるようになる ・他人の発表に対して必ずコメントができる 			
授業計画	1. ガイダンス			
	2. 研究の方法			
	3. テーマの探し方			
	4. アイデアのつなげ方①			
	5. アイデアのつなげ方②			
	6. 論文の読み方			
	7. 前期ゼミプロジェクト(Ⅰ) — 論文を知る①—			
	8. 前期ゼミプロジェクト(Ⅰ) — 論文を知る②—			
	9. 前期ゼミプロジェクト(Ⅰ) — 論文を知る③—			
	10. 作品のとらえ方			
	11. 前期ゼミプロジェクト(Ⅱ) — 作品を分析する①—			
	12. 前期ゼミプロジェクト(Ⅱ) — 作品を分析する②—			
	13. 前期ゼミプロジェクト(Ⅱ) — 作品を分析する③—			
	14. 前期ゼミプロジェクト(Ⅲ) — アイデアを作品化する①—			
	15. 前期ゼミプロジェクト(Ⅲ) — アイデアを作品化する②—			
評価方法	課題作業への取り組み方 ゼミの合同成果物への関わり方			
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。必要に応じて参考資料を配付する。			
参考書 ※必要に応じ購入	大澤真幸『〈問い〉の読書術』朝日新書, 2014 年. 小松貴『裏山の奇人 野にたゆたう博物学』東海大学出版部, 2014 年. 中村かれん『クレイジー・イン・ジャパン ベてるの家のエスノグラフィ』医学書院, 2014 年.			
受講条件 ルール等	毎回必ず全員がゼミで発言すること			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・次週のゼミまでに出された課題は発表できるようきちんと準備をしておく ・研究と関わりがある資料、情報、アイデアを見つけたときは書き出してファイルしておく ・他人の研究テーマに関しても必ず資料を読んでおくこと 			

科目名	ゼミナール B Seminar B			
教員名	有 泉 正 二		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	自分の言葉と視点によって問いを生み出し論じる力を養う			
授業の 概要・目的	一年を通じて自分が世の中の事象を論じる意義を考え続ける。ゼミの特長を活かして他人からの指摘をきちんと受け止め、自分に足りない点を成長させる。			
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・修正をいわず内容の充実した論文を作成できる ・学生相互で話し合い、ゼミを企画・運営できるようになる ・他人の発表に対して必ずコメントができる 			
授業計画	1. 発展的な研究に向けたガイダンス			
	2. 前期ゼミ活動報告の展示・発表			
	3. 文章による表現の仕方			
	4. 個人研究一次報告①			
	5. 個人研究一次報告②			
	6. 個人研究一次報告③			
	7. 学習成果発表会に向けた話し合い			
	8. 学習成果発表会に向けた研究調査			
	9. 個人研究中間報告①			
	10. 個人研究中間報告②			
	11. 学習成果発表会に向けた全体活動			
	12. 論文作成			
	13. 論文仕上げのための検討会			
	14. 研究論文の完成			
	15. 講評			
評価方法	研究論文 学習成果発表会などへの関わり方			
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。必要に応じて参考資料を配付する。			
参考書 ※必要に応じ購入	トーマス・トウェイツ著、村井理子訳『ゼロからトースターを作ってみた』飛鳥新社、2012 年。 小林朋道『なぜヤギは、車好きなのか？』朝日新聞出版、2012 年。 渡部雄吉、乙一(文・構成)『張り込み日記』ナナクロ社、2014 年。			
受講条件 ルール等	毎回必ず全員がゼミで発言すること			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・個人研究の進捗状況を話せるよう、月ごとに要旨をまとめておく ・研究報告担当日にはレジュメを用意する ・毎月一度は図書館か大型書店に行って参考資料を探す 			

科目名	社会学概論A(社会を学ぶ)				Sociology A
教員名	有 泉 正 二			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	社会学的な思考を理解する				
授業の 概要・目的	社会学がどのような問い方や視点で世の中の事象を見つめ、出来事を説明しようとしているのかを、社会学が生み出した方法論や基本的な知見(トピック)を通じて学習する。				
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会」を考える視点を持つことができる ・人間の集まりに生じる不思議な力を発見できる ・「常識」と呼ばれている事柄を見つめ直すことができるようになる 				
授業計画	1. 社会学を学ぶためのガイダンス				
	2. 問いとしての「社会」				
	3. 「社会」の見つけ方				
	4. 「社会的」なものの姿				
	5. 社会学の方法(Ⅰ)				
	6. 社会学の方法(Ⅱ)				
	7. 社会的ジレンマ				
	8. 予言の自己成就				
	9. 意図せざる結果(Ⅰ)				
	10. 意図せざる結果(Ⅱ)				
	11. 社会化				
	12. アイデンティティ				
	13. 社会関係の力学				
	14. 権力システム				
	15. 社会の中にいる人間・人間の中にある社会				
評価方法	定期試験および講義内レポート				
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。必要に応じて参考資料を配付する。				
参考書 ※必要に応じ購入	橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』PHP研究所, 2014 年. 若林幹夫『未来の社会学』河出書房新社, 2014 年. 『現代思想 特集:社会学の行方』(vol.42-16), 青土社, 2014 年.				
受講条件 ルール等	高校までの社会科(地理・歴史・政経・倫理)と無関係ではないが、暗記中心で正解があるというイメージとは大きく異なるので、勘違い(敬遠)しないように。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で起こる理不尽な出来事や事件の記事には目を通しておくこと ・板書を写したノートやプリントを見返して次の授業に臨むこと 				

科目名	社会学概論B(近現代の社会)			Sociology B	
教員名	有 泉 正 二			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	現代社会の特徴および諸問題を考察する				
授業の 概要・目的	自分の行動が現代社会に特有のものであることを理解し、しかも地球規模の諸問題とも無関係ではない(=自分の生き方が社会と密接に関連している)ことを認識できるようにする。				
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸問題を生み出す背景を知ることができる ・人間として避けられない課題(生命倫理)に対して理解を深めることができる ・テーマ自由の社会科学系レポートを作成できるようになる 				
授業計画	1. 社会学的レポート作成のためのガイダンス				
	2. 現代社会の特徴を知る(Ⅰ) —消費社会—				
	3. 現代社会の特徴を知る(Ⅱ) —市場化が生み出すゴミ—				
	4. 現代社会の特徴を知る(Ⅲ) —お金が生み出す飢え—				
	5. 「現代社会と私」 学期末レポート計画案(収集データ)の発表				
	6. 社会問題を身近に感じる(Ⅰ) —無縁社会:人知れず死んでいく人々—				
	7. 社会問題を身近に感じる(Ⅱ) —リスク社会:自己責任を迫られる人々—				
	8. 社会問題を身近に感じる(Ⅲ) —貧困拡大社会:助けてもらえない人々—				
	9. 「現代社会と私」 学期末レポート中間報告(進捗状況)の発表				
	10. これからの社会問題を論じる(Ⅰ) —「誰」と「誰」が「誰の子」を産むのか—				
	11. これからの社会問題を論じる(Ⅱ) —誰でも「子どもをもつ親」になれるのか—				
	12. これからの社会問題を論じる(Ⅲ) —誰でも「自分の親」を知ることができるのか—				
	13. これからの社会問題を論じる(Ⅳ) —命を選んだり「産まれたい権利」はあるのか—				
	14. 現代日本社会の行く末を考える(Ⅰ) —原発問題・基地問題の論理—				
	15. 現代日本社会の行く末を考える(Ⅱ) —地方消滅の論理—				
評価方法	レポート計画書、中間報告書、学期末レポート (各レポートの形式・提出期限などの詳細は、授業時に発表する)				
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。必要に応じて参考資料を配付する。				
参考書 ※必要に応じ購入	小林亜津子『生殖医療はヒトを幸せにするのか』光文社新書, 2014 年. 仲村清司・宮台真司『これが沖縄の生きる道』亜紀書房, 2014 年. 山下祐介『地方消滅の罅』ちくま新書, 2014 年.				
受講条件 ルール等	計画書、中間報告書を期限内に提出していない場合は、学期末レポートを受け付けない。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・世界食糧デー、派遣労働法、生活保護、生殖医療などの新聞記事が出たらよく読むこと ・レポート作成のために関連書籍を探して一冊以上読むこと 				

科目名	コミュニケーション基礎演習 Basic Seminar for Communication			
教員名	有 泉 正 二		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			○
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	コミュニケーションの基本姿勢を身につける			
授業の 概要・目的	コミュニケーションを感じる力を養う。そのために、自分のコミュニケーション能力に気づくだけでなく、相手のために意識して行動に移せるようなコミュニケーションを目指す。			
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にとってコミュニケーションしやすい人物になることができる ・話し合いの基本を理解できる ・コミュニケーションの中で自分の特徴を活かせるようになる 			
授業計画	1. コミュニケーション基礎演習参加に向けてのガイダンス			
	2. 自分を知る／相手を知る(Ⅰ) — 偏愛マップ —			
	3. 自分を知る／相手を知る(Ⅱ) — 身体に基づくコミュニケーション感覚 —			
	4. 相手をサポートする(Ⅰ) — リフレーミング —			
	5. 相手をサポートする(Ⅱ) — 傾聴 —			
	6. グループワークに向けて			
	7. グループワーク A(Ⅰ) — お気に入りのシェア —			
	8. グループワーク A(Ⅱ)			
	9. 今ここにいない人に想いを伝える — 手紙 —			
	10. グループワーク B(Ⅰ) — まじめな話し合いの機会 —			
	11. グループワーク B(Ⅱ)			
	12. グループワーク C(Ⅰ) — コラボレーション企画 —			
	13. グループワーク C(Ⅱ)			
	14. グループワーク C(Ⅲ)			
	15. グループワーク C(Ⅳ)			
評価方法	各回の演習課題・参加態度・学期末課題レポート			
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。必要に応じて参考資料を配付する。			
参考書 ※必要に応じ購入	水戸美津子『ナースのためのレポートの書き方』中央法規, 2014 年. 斎藤孝『余計な一言』新潮新書, 2014 年. 佐藤綾子『非言語表現の威力』講談社現代新書, 2014 年.			
受講条件 ルール等	コミュニケーションの演習は自分一人で行うものではないので、欠席は相手にも迷惑がかかることを忘れずに。とくに人数が増えるグループワークの場合は、役割が分担されるため欠席するとメンバー全員の演習が成立しなくなることを自覚してほしい。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・出された課題は次週の演習で実施できるようきちんと準備をしておくこと ・普段の生活から接する相手のことを考えながらコミュニケーションをとること 			

科目名	コミュニケーション学概論			Outline of Communications Study	
教員名	有 泉 正 二			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	コミュニケーションの研究法				
授業の 概要・目的	言語・心理・社会など多方面から「コミュニケーション」を学ぶことで理解の幅を広げる。また、他人との関わり方を見つめ直し、現代に求められるコミュニケーションのあり方を探る。				
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に行っているコミュニケーションの成り立ちを学ぶことができる ・ビジネス・心理・観光といった専門分野にも関連づけて考えることができる ・現代のコミュニケーションに関して自分の意見を持つことができる 				
授業計画	1. コミュニケーションを学ぶためのガイダンス				
	2. コミュニケーション学の領域				
	3. コミュニケーションの基本モデル				
	4. 日常のコミュニケーション分析(Ⅰ) ―暮らしの中の言葉―				
	5. 日常のコミュニケーション分析(Ⅱ) ―「見知らぬ人」同士の出会い―				
	6. 日常のコミュニケーション分析(Ⅲ) ―私たちはなぜ「おしゃべり」ができるのか―				
	7. コミュニケーションが社会に及ぼす影響(Ⅰ) ―うわさ―				
	8. コミュニケーションが社会に及ぼす影響(Ⅱ) ―詐欺―				
	9. コミュニケーションが社会に及ぼす影響(Ⅲ) ―世論―				
	10. コミュニケーション・スキルを考える(Ⅰ) ―通じ合う―				
	11. コミュニケーション・スキルを考える(Ⅱ) ―わかり合う・認め合う―				
	12. コミュニケーションの現状(Ⅰ) ―モバイル・メディアにおけるやりとり―				
	13. コミュニケーションの現状(Ⅱ) ―コミュニケーション不全―				
	14. コミュニケーションの現状(Ⅲ) ―ネット依存・メディア中毒―				
	15. 現代に求められるコミュニケーションのあり方				
評価方法	定期試験および講義内レポート				
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。必要に応じて参考資料を配付する。				
参考書 ※必要に応じ購入	東田直樹『跳びはねる思考』イースト・プレス, 2014 年. 長田政一編『つながる／つながらない』の社会学』弘文堂, 2014 年. 辻大介・是永論・関谷直也『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣, 2014 年.				
受講条件 ルール等	本講義は現代コミュニケーション専攻全学生対象の必修科目なので座席を指定する				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から日常会話で使う言葉やコミュニケーションの仕方で気づいた点をメモする ・板書を写したノートやプリントを見返して次の授業に臨むこと 				
科目名	ボランティア			Volunteer	

教員名	中 島 智			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	わたしと社会が変わるボランティア				
授業の 概要・目的	実社会でのボランティア活動への参加を通して、学生一人ひとりが個性的な対話力を育みながら、自己と社会の関係を見つめ直すことが、この授業の目的です。				
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リアルな社会の現実や課題と向き合い、粘り強くかつ創造的に挑戦できるようになる ・他者に対する想像力を養い、協力しあう姿勢を身につける ・人や活動との出会いを通して自分が本当にやりたいことを探求し、自ら動き出す力がつく 				
授業計画	1. オリエンテーション 授業計画及び成績評価方法の説明、履修上の注意				
	2. 市民活動と NGO・NPO ボランティアとはワクワク生きること				
	3. 本学におけるボランティア活動の事例紹介				
	4. 企業の社会貢献とソーシャル・アントレプレナーシップ				
	5. ボランティア活動の事例研究(1) まちづくりや環境問題について考える				
	6. 「滅私奉公」と「滅公奉私」 ワクワク生きることを阻害しているのは何か？				
	7. 「反対話」から「対話」へ 自分と他者を尊重できる関係性をつくろう				
	8. ボランティア活動の事例研究(2) 子育て・親育ちの活動について考える				
	9. 中間発表(交流会)各自、資料やフィールドノートを持ち寄り、中間報告				
	10. ボランティアコーディネーション(1) 人と社会をつなぐための仕組みとは				
	11. ボランティアコーディネーション(2) ボランティア組織の運営				
	12. 協働による地域文化活動(1)				
	13. 協働による地域文化活動(2)				
	14. 最終発表 活動先の紹介・問題の発見・解決策の提案				
	15. まとめ 社会人として学び続けることの意味を考えることで、全体の総括に代える				
評価方法	毎回の小レポート、フィールドノートや発表(PowerPoint のスライド)等により総合的に評価します。活動先でどれだけ悩んだか、それをどう乗り越えたのかを重視して評価します。				
テキスト ※必ず購入	安藤雄太監修『ボランティアまるごとガイド:参加のしかた・活動のすべて』ミネルヴァ書房、2012 年				
参考書 ※必要に応じ購入	山脇直司『社会とどう関わるか』(岩波ジュニア新書)岩波書店、2008 年 アタナーズ・ペリファン 南谷桂子『隣人祭り』ソコト新書、2008 年				
受講条件 ルール等	本授業は、学生の自主的なボランティア活動を支援することを目指しています。したがって、教室での授業以外に、30 時間以上のボランティア活動を行うことが前提です。詳細は授業時に説明します。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	「ウェルカム・トラブル」が合言葉。失敗は失点になりません。ただし、学生だからという甘えは許されません。失敗を恐れるよりも、勇気を出して挑戦を。活動先では問題にどう対処するかを考え合い、誠実な姿勢で取り組むことが大切です。また教室での授業ではボランティアに関わるキーワードを取り上げるので、自分で説明できるように復習しておきましょう。				

科目名	プレゼンテーション				Presentation	
教員名	細 江 哲 志			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎	
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				○	
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	プレゼンテーションの実践を通じて他者とコミュニケーションする力を身につける					
授業の 概要・目的	<p>この授業の目的は、パソコンやインターネットを活用しながら、プレゼンテーション(発表)とコミュニケーション(対話)を身につけることにあります。特に、下記の3つの力について、様々な演習を通じて習得していきます。</p> <p>(1) 情報を探す力 各種の情報リソース(情報源)、インターネット、そして人と人のつながりを活用しながら、自分が求めている情報を探し出していく力を身につけます</p> <p>(2) 表現する力 他者に情報を伝えるための手法について、Microsoft PowerPoint を用いながら学びます。発表スライドの作成方法や、「ストーリー(わかりやすい流れのある話)」の構築について実践を通じて身につけます。</p> <p>(3) 共に価値をつくりだす力 グループワークを通じてより良いプレゼンテーション資料を作ったり、また、プレゼンテーションを通じて観客と新しいことを一緒に考えるなど、他者との対話を通じて「新しい価値をつくる」体験をしていきます。</p>					
授業の 到達目標	大学での学びに必要となる各種のプレゼンテーション技法を習得する。社会人になってからも応用できるようなビジネスコミュニケーションの基本を習得する。					
授業計画	1. ガイダンス&自己紹介ドキュメントの作成					
	2. 各種のPCスキルの確認(Windows の基本操作、MS-Office の基本操作の確認)					
	3. PowerPoint の操作(1) 文字・図形・デザインの適用等					
	4. PowerPoint の操作(2) アニメーション・他形式のデータとの連携等					
	5. 1枚スライドによるプレゼンテーションの実践(1) 資料の作成					
	6. 1枚スライドによるプレゼンテーションの実践(2) 発表					
	7. ビジネスの現場におけるプレゼンテーション作法					
	8. 「PREP」を用いた情報のまとめかた					
	9. グループワークで情報の整理をするには(KJ 法)					
	10. 中間発表(テーマに基づいたグループプレゼンテーションの実践)					
	11. 理想的なプレゼンテーションのパターンを考える(1)					
	12. 理想的なプレゼンテーションのパターンを考える(2)					
	13. 理想的なプレゼンテーションのパターンを考える(3)					
	14. 期末発表に向けたスライド資料の作り込みと発表の準備					
	15. 期末発表会					
評価方法	授業内に指示される課題、中間課題、期末発表会、及びに平常点にて評価する。					
テキスト ※必ず購入	(特になし。必要な資料については授業にて配布する)					
参考書 ※必要に応じ購入	プレゼンテーション・パターン: 創造を誘発する表現のヒント 慶應義塾大学出版会 井庭 崇					
受講条件 ルール等	PC の利用は必須である。また、スマートフォンやデジタルカメラなど、日常的なデジタルツールを有効活用することが求められる。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	講義内容を公開している Web ページを確認し、毎回の講義内容を理解しながら学習を進めていくことが期待される。授業で出される課題については、適宜メールなどで連絡を取ったり、提出することが求められる。					

科目名	日本語表現法 I				Japanese Composition I	
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	大学、社会の中で使用される日本語を認識し、使っていこう。					
授業の 概要・目的	基本的なアカデミック・ジャパニーズを学び、社会人として適切な言語表現ができるようにする。					
授業の 到達目標	社会の中で使われている文章表現に触れ、深く理解し、それについての自身の意見を適切な形で発信できるようにする。					
授業計画	1. オリエンテーション					
	2. 私の〈お気に入り〉紹介					
	3. 原稿用紙の使い方等					
	4. フォーマルな文章の書き方(1)					
	5. フォーマルな文章の書き方(2)					
	6. フォーマルな文章の書き方(3)					
	7. 客観的な文章とは					
	8. 箇条書きの書き方、グラフの説明のしかた(1)					
	9. グラフの説明のしかた(2)					
	10. パラグラフ・ライティング					
	11. 読解(1)					
	12. 読解(2)					
	13. 読解(3)					
	14. 練習問題(1)					
	15. 練習問題(2)					
評価方法	毎回のことばクイズ(20%)、提出物(30%)、期末試験(40%)、授業への積極的な参加態度(10%) 2/3 以上出席がなければ成績はできません。					
テキスト ※必ず購入	プリントを配布します。					
参考書 ※必要に応じ購入						
受講条件 ルール等	社会人として求められる基礎的な日本語の運用力をつけるようにします。そのために、真剣な態度で授業に臨むようにしてください。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	毎回のことばクイズの勉強、課題の取り組み等の学習時間を確保してください。					

科目名	日本語表現法Ⅱ				Japanese Composition Ⅱ	
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	言葉を使って広がる世界や深まる知識を実感しよう。					
授業の 概要・目的	資料やデータを収集し、それを深く読み込み、他者に説明する発表を行うことができる構 成力、コミュニケーション力を身につける。					
授業の 到達目標	情報収集力、情報分析力、構想力、表現力を駆使して、2 回の発表を行う。					
授業計画	1. オリエンテーション 「社会不満足」(1)					
	2. 「社会不満足」(2)					
	3. 「社会不満足」(3)					
	4. 「社会不満足」(4)					
	5. 「社会不満足」(5)					
	6. 「社会不満足」(6)					
	7. 「社会不満足」(7)発表					
	8. レポートの書き方					
	9. アンケート調査(1)					
	10. アンケート調査(2)					
	11. アンケート調査(3)					
	12. アンケート調査(4)					
	13. アンケート調査(5)					
	14. アンケート調査(6)発表					
	15. 反省、レポート提出					
評価方法	2 回の発表(40%)、提出物(40%)、相互評価(10%)、授業への積極的な参加(10%) 2/3 以上出席がなければ成績はできません。					
テキスト ※必ず購入	『社会不満足』乙武洋匡対談(中央法規)ISBN:978-4805850732					
参考書 ※必要に応じ購入						
受講条件 ルール等	グループで協働作業をしていきます。協調的な姿勢をもって授業に参加できる学生の参 加を望みます。また主体的に活動に参加できる取り組むことも受講条件とします。 また、できるだけ自宅でも PC(メールを含む)が使える環境を整えてください。USB メモリも 用意してください。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	読解作業、調査、資料作成、レポート作成などを授業外でもしてください。					

科目名	日本語表現法 I ※留学生				Japanese Composition I	
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	大学生として必要な日本語を学ぼう。					
授業の 概要・目的	大学や社会で必要になる日本語が表現できるようになる。					
授業の 到達目標	日本語を使う上でのルールを知り、それを使って簡単だが、論理的な日本語の文章を表現できるようになる。					
授業計画	1. オリエンテーション					
	2. 1 課 表記 ^{ひょうき} のしかた					
	3. 1 課 表記 ^{ひょうき} のしかた					
	4. 2 課 文体					
	5. 2 課 文体					
	6. 3 課 書きことば					
	7. 3 課 書きことば					
	8. 4 課 正しい構造 ^{こうぞう} の文					
	9. 4 課 正しい構造 ^{こうぞう} の文					
	10. 4 課 正しい構造 ^{こうぞう} の文					
	11. 5 課 文のつながり					
	12. 5 課 文のつながり					
	13. 5 課 文のつながり					
	14. 作文					
	15. まとめ					
評価方法	課題 ^{かだい} の提出 ^{ていしゅつ} (40%)、期末テスト(50%)、授業参加態度(10%) 2/3 以上出席がなければ成績はできません。					
テキスト ※必ず購入	『小論文への 12 のステップ』友松悦子 (スリーエーネットワーク ISBN:978-4-88319-488-9)					
参考書 ※必要に応じ購入						
受講条件 ルール等	留学生 ^{りゅうがくせい} は全員 ^{ぜんいん} 出席 ^{しゅつせき} してください。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	宿題 ^{しゅくだい} をかならずしてきてください。また、毎回 ^{まいかい} 簡単 ^{かんたん} な新聞 ^{しんぶん} 記事 ^{きじ} を読んだり、それについて意見を言ったりします。自分でも興味 ^{きょうみ} がある新聞記事をもってきてください。					

科目名	日本語表現法Ⅱ※留学生			Japanese Composition Ⅱ	
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	大学生として必要な日本語を学ぼう。				
授業の 概要・目的	大学や社会で必要になる日本語が表現できるようになる。				
授業の 到達目標	日本語を使う上でのルールを知り、それを使って簡単だが、論理的な日本語の文章を表現できるようになる。				
授業計画	1. <small>じどうし たどうし うけみ</small> 自動詞・他動詞、受身				
	2. 6 課 小論文によく使われる表現				
	3. 6 課 小論文によく使われる表現				
	4. 7 課 段落				
	5. 7 課 段落				
	6. 8 課 要約文				
	7. 8 課 要約文				
	8. 9 課 説明文				
	9. 9 課 説明文				
	10. 10 課 意見文				
	11. 10 課 意見文				
	12. 11 課 事実を示す文				
	13. 12 課 小論文のはじめとおわり				
	14. 作文				
	15. まとめ				
評価方法	<small>か だ い ていしゆつ</small> 課題 の 提出 (40%)、期末テスト(50%)、授業参加態度(10%) 2／3 以上出席がなければ、成績は出ません。				
テキスト ※必ず購入	<small>しょうろんぶん</small> 『小論文 への 12 のステップ』友松悦子(スリーエーネットワーク ISBN:978-4-88319-488-9) *前期 と 同じです。				
参考書 ※必要に応じ購入					
受講条件 ルール等	<small>りゆうがくせい ぜんいんしゆつせき</small> 留学生 は 全員 出席 してください。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<small>しゆくだい しんぶん きじ</small> 宿題 を かならずしてきてください。また、毎回簡単な 新聞 記事 を読んだり、それについて 意見を言ったりします。自分でも 興味 がある新聞記事をもってきてください。				

科目名	日本語中級A ※留学生選必				Intermediated Jpanese A
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	中級 の 日本語 をしっかり 勉強 しよう				
授業の概要・目的	基本的 な文法で、日本語の 幅 を 広 げよう。				
授業の到達目標	・基本的な日本語を使いながら、自分の 意見 を話したり、書いたりすることができる。				
授業計画	1. オリエンテーション、漢字				
	2. 漢字、会話、読解				
	3. 漢字、会話、読解				
	4. 漢字、会話、読解				
	5. 漢字、会話、読解				
	6. 漢字、会話、読解				
	7. 漢字、会話、読解				
	8. 漢字、会話、読解				
	9. Show and Tell				
	10. 漢字、会話、読解				
	11. 漢字、会話、読解				
	12. 漢字、会話、読解				
	13. 漢字、会話、読解				
	14. 漢字、練習 問題				
	15. 漢字、練習問題				
評価方法	毎回の漢字クイズ 30%、宿題 の 提出 20%、期末 テスト 40%、授業 参加 態度 10% 2/3 以上出席がなければ 成績 はできません。				
テキスト ※必ず購入	プリントをくばります。				
参考書 ※必要に応じ購入					
受講条件 ルール等	基本的 な日本語力をつける 留学生 はかならずきてください。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	漢字クイズのための勉強、Show and Tell の、準備 ことばの 意味 を 調 べるなどなど。				

科目名	日本語中級B ※留学生選必				Intermediated Japanese B	
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	中級 の 日本語 をしっかり 勉強 しよう					
授業の 概要・目的	基本的 な文法で、日本語の 幅 を 広 げよう。					
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的 な 日本語 を 使いながら、自分 の 意見 を 話したり、書 いたりすることができる。 日本語能力試験 N2 のための日本語力をつける。 					
授業計画	1. 漢字、会話、読解					
	2. 漢字、会話、読解					
	3. 漢字、会話、読解					
	4. 漢字、会話、読解					
	5. 漢字、会話、読解					
	6. 漢字、会話、読解					
	7. 漢字、Show and Tell					
	8. 漢字、会話、読解					
	9. 漢字、会話、読解					
	10. 漢字、会話、読解					
	11. 漢字、会話、読解					
	12. 漢字、会話、読解					
	13. 漢字、会話、読解					
	14. 漢字、練習問題					
	15. 漢字、練習問題					
評価方法	毎回の 漢字クイズ 30%、宿題の 提出 20%、期末 テスト 40%、授業 参加 態度 10% 2/3以上 出席 がなければ 成績 はできません。					
テキスト ※必ず購入	プリントをくばります。					
参考書 ※必要に応じ購入						
受講条件 ルール等	基本的 な日本語力をつける 留学生 はかならずきてください。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	漢字クイズのための勉強、Show and Tell の 準備、ことばの 意味 を 調 べるなど。					

科目名	日本語上級A ※留学生選必				Advanced Japanese A	
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	上のレベルの日本語の力をつけよう。					
授業の 概要・目的	大学生活や社会において必要となる日本語リテラシーを身につける。					
授業の 到達目標	情報収集力、情報分析力をもって、複雑なテキストを読み進められるようになる。 他者とのコミュニケーションを通して、自分の意見や主張を発信することができる。					
授業計画	1. オリエンテーション、					
	2. 漢字、読解、聴解					
	3. 漢字、読解、聴解					
	4. 漢字、読解、聴解					
	5. 漢字、読解、聴解					
	6. 漢字、読解、聴解					
	7. 漢字、読解、聴解					
	8. 漢字、読解、聴解					
	9. 漢字、読解、聴解					
	10. 漢字、読解、聴解					
	11. 漢字、読解、聴解					
	12. 漢字、読解、聴解					
	13. 漢字、読解、聴解					
	14. 練習問題					
	15. 練習問題					
評価方法	提出物 30%、毎回の漢字クイズ 20%、期末試験 40%、授業態度 10% 2/3 以上出席がなければ成績はできません。					
テキスト ※必ず購入	クラス内でプリントを配ります。					
参考書 ※必要に応じ購入						
受講条件 ルール等	長く複雑な文章をたくさん読んでいくので、ことばの意味調べなど授業の準備をしっかりとしてください。 積極的な意見交換をしていきます。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	毎回の宿題、漢字クイズの勉強、ことばの意味調べなど。					

科目名	日本語上級B ※留学生選必				Advanced Japanese B	
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	上のレベルの日本語の力をつけよう。					
授業の 概要・目的	大学生活や社会において必要となる日本語リテラシーを身につける。					
授業の 到達目標	情報収集力、情報分析力をもって、複雑なテキストを読み進められるようになる。 他者とのコミュニケーションを通して、自分の意見や主張を発信することができる。					
授業計画	1. 漢字、読解、聴解					
	2. 漢字、読解、聴解					
	3. 漢字、読解、聴解					
	4. 漢字、読解、聴解					
	5. 漢字、読解、聴解					
	6. 漢字、読解、聴解					
	7. 漢字、読解、聴解					
	8. 漢字、読解、聴解					
	9. 漢字、読解、聴解					
	10. 漢字、読解、聴解					
	11. 漢字、読解、聴解					
	12. 漢字、読解、聴解					
	13. 漢字、読解、聴解					
	14. 練習問題					
	15. 練習問題					
評価方法	提出物 30%、毎回の漢字クイズ 20%、期末試験 40%、授業態度 10% 2/3 以上出席がなければ成績はできません。					
テキスト ※必ず購入	クラス内でプリントを配ります。					
参考書 ※必要に応じ購入						
受講条件 ルール等	長く複雑な文章をたくさん読んでいくので、ことばの意味調べなど授業の準備をしっかりとしてください。 積極的な意見交換をしていきます・					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	毎回の宿題、漢字クイズの勉強、ことばの意味調べなど。					

科目名	日本事情A Studies on Japan A			
教員名	松 本 明 香		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	日本の社会や文化について学ぼう。			
授業の 概要・目的	社会や文化についてのテキストを読み、問題点 ^{もんだいてん} や 課題 ^{かだい} を 考 ^{かんが} え、話し合う。			
授業の 到達目標	日本の社会や文化について説明でき、自分の意見を発表することができる。			
授業計画	1. オリエンテーション 日本の社会の問題とは？			
	2. 1 課 住宅事情			
	3. 2 課 結婚と女性の社会進出			
	4. 3 課 高齢化社会			
	5. 4 課 日本料理			
	6. 5 課 平等社会と中流意識			
	7. 6 課 教育			
	8. 8 課 日本の経営			
	9. 9 課 日本人の労働観			
	10. 11 課 社会保障と社会参加活動			
	11. 12 課 年中行事			
	12. 13 課 政治のしくみ			
	13. 14 課 日本の歴史(1)			
	14. 15 課 日本の歴史(2)			
	15. まとめ			
評価方法	提出物 ^{ていしゅつぶつ} (最終レポート ^{さいしゅうレポート} 含む) 40%、発表 ^{はつぴょう} 40%、相互評価 ^{そうごひやうか} 10%、授業参加態度 ^{じゅぎょうさんかたいど} 10% 2/3以上出席 ^{いじょうしゅつせき} がなければ成績 ^{せいせき} はできません。			
テキスト ※必ず購入	『日本を話そう 15 のテーマで学ぶ日本事情』[第 3 版]The Japan Times (ISBN:978-4789010634)			
参考書 ※必要に応じ購入	適宜 ^{てきぎょうかい} 紹介します。			
受講条件 ルール等	できるだけ自宅でも PC 作業ができるようにしてください。USB メモリも用意すること。 留学生メインの授業ですが、日本社会 ^{にほんしゃかい} について学びたい日本人学生も受講可。ただし、遅刻、欠席しないこと、課題 ^{かだい} に主体的 ^{しゅたいてき} に 取り組む ^{とく} こと、留学生と積極的 ^{せつぎよくてき} に 関わる ^が ことを条件とします。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	課題 ^{かだい} 発表 ^{はつぴょう} の 準備 ^{じゅんび} 、最終レポート ^{さいしゅうレポート} など。			

科目名	日本事情B			Studies on Japan B	
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	防災 という 視点 から日本社会を考えよう。				
授業の 概要・目的	資料を読み、他者にインタビューし、プレゼンテーションを実行するというあらゆるコミュニケーション手段を用いて、「防災」という観点から日本社会の問題、課題を考える。				
授業の 到達目標	色々な方法で情報を集め、それを分析し、仲間と検討し、発表という形で発信できる日本語能力をつける。また、日本社会における防災という問題について、自分の問題として、深く考えることができるようになる。				
授業計画	1. オリエンテーション、「三つの大震災」(1)				
	2. 「三つの大震災」(2)				
	3. 「三つの大震災」(3)				
	4. 「三つの大震災」(4)発表				
	5. 「一日前インタビュー」(1)				
	6. 「一日前インタビュー」(2)				
	7. 「一日前インタビュー」(3)発表				
	8. 東京消防庁 池袋防災館 見学				
	9. 防災館見学の報告準備				
	10. 防災館見学の報告発表				
	11. 「私の街の防災を考える」(1)				
	12. 「私の街の防災を考える」(2)				
	13. 「私の街の防災を考える」(3)				
	14. 「私の街の防災を考える」(4)				
	15. 「私の街の防災を考える」(5)発表				
評価方法	発表 40%、提出物(レポート含む)40%、相互評価シート 10%、授業参加度 10% 2/3 以上出席がなければ成績はできません。				
テキスト ※必ず購入	特になし				
参考書 ※必要に応じ購入	特になし				
受講条件 ルール等	できるだけ家でも PC(メールを含む)が使える環境を整えてください。USB メモリも用意すること。留学生メインの授業ですが、日本人学生も受講可。ただし、意欲と行動力がある学生の参加を望みます。				
準備学習の	それぞれの課題の準備、レポート作成等。				

(予習・復習) 内容と分量	
------------------	--

科目名	日本語能力試験対策(N1)A				Studies for JLPT(N1)A	
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	日本語能力試験 N1 合格をめざそう。					
授業の 概要・目的	JLPT N1 に対応する日本語力をつけ、使えるようにする。					
授業の 到達目標	JLPT N1 に必要になる語彙力、聴解力、読解力をつける。					
授業計画	1. JLPT 模擬問題(1)					
	2. JLPT 模擬問題(2)					
	3. JLPT 模擬問題(3)					
	4. 語彙 クイズ、読解、聴解					
	5. 語彙クイズ、読解、聴解					
	6. 語彙クイズ、読解、聴解					
	7. 語彙クイズ、読解、聴解					
	8. 語彙クイズ、読解、聴解					
	9. 語彙クイズ、読解、聴解					
	10. 語彙クイズ、読解、聴解					
	11. 語彙クイズ、読解、聴解					
	12. 語彙クイズ、読解、聴解					
	13. 語彙クイズ、読解、聴解					
	14. 語彙クイズ、練習問題					
	15. 語彙クイズ、練習問題					
評価方法	語彙クイズ 20%、宿題提出 30%、期末試験 40%、授業参加態度 10% 2/3 以上出席がなければ成績はできません。					
テキスト ※必ず購入	必要に応じてプリントを配布します。					
参考書 ※必要に応じ購入						
受講条件 ルール等	・日本語能力試験を受験する人は受講してください。 ・宿題はかならず提出すること。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	語彙クイズのための勉強、文法の宿題。聴解は授業で実施したあとスクリプトをわたします。それをみて、知らなかったことばや表現を復習してください。					

科目名	日本語能力試験対策(N1)B			Studies for JLPT(N1)B	
教員名	松 本 明 香			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	日本語能力試験 N1 合格をめざそう。				
授業の 概要・目的	JLPT N1 合格。それに必要な高度な日本語力をつけ、使えるようにする。				
授業の 到達目標	JLPT N1 合格のために必要になる語彙力、聴解力、読解力をつける。				
授業計画	1. JLPT 模擬問題(1)				
	2. JLPT 模擬問題(2)				
	3. JLPT 模擬問題(3)				
	4. 語彙クイズ、読解(実践問題)、聴解				
	5. 語彙クイズ、読解(実践問題)、聴解				
	6. 語彙クイズ、読解(実践問題)、聴解				
	7. 語彙クイズ、読解(実践問題)、聴解				
	8. 語彙クイズ、読解(実践問題)、聴解				
	9. 語彙クイズ、読解(実践問題)、聴解				
	10. 語彙クイズ、読解(実践問題)、聴解				
	11. 語彙クイズ、読解(実践問題)、聴解				
	12. 語彙クイズ、読解(実践問題)、聴解				
	13. 語彙クイズ、読解(実践問題)、聴解				
	14. 語彙クイズ、練習問題				
	15. 語彙クイズ、練習問題				
評価方法	語彙クイズ 20%、宿題提出 30%、期末試験 40%、授業参加態度 10% 2/3 以上出席がなければ成績はできません。				
テキスト ※必ず購入	必要に応じてプリントを配布します。				
参考書 ※必要に応じ購入					
受講条件 ルール等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力試験を受験する人は受講してください。 ・文法は宿題で各自取り組んでください。かならず提出すること。 				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	語彙クイズのための勉強、文法の宿題。聴解は授業で実施したあとスクリプトをわたします。それを見て、知らなかったことばや表現を復習してください。				

科目名	手話 Sign Language			
教員名	加 地 雄 一			授業区分
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	身ぶり、手ぶり、表情を使ったコミュニケーション			
授業の 概要・目的	手話は手だけでなく表情も使うので、勉強するとコミュニケーション能力が高まります。手話や聴覚障害について、正確な基礎知識を身につけます。手話や指文字、ジェスチャー等を使ったコミュニケーション・ゲームを通じて、コミュニケーション能力を養います。			
授業の 到達目標	手話や指文字を使ってあいさつや自己紹介ができる。 昔話(桃太郎や浦島太郎)程度の内容の手話を読み取ることができる。 手話や聴覚障害について、正確な基礎知識を身につける。			
授業計画	1. ガイダンス(毎回、手話や指文字の学習とコミュニケーション・ゲームをします)			
	2. 手話という言葉			
	3. 手話の種類:「日本手話」と「日本語対応手話」			
	4. 音のない世界			
	5. ユニバーサルデザイン			
	6. 聴覚障害			
	7. 情報保障			
	8. 手話の歴史			
	9. マイノリティ言語としての手話			
	10. 言語発達と手話			
	11. ベビーサイン, シニアサイン			
	12. 手話と芸術			
	13. 手話と教育			
	14. 手話とろう文化			
	15. 手話通訳			
評価方法	平常点(毎回の小レポートなど)50% 試験(手話や指文字による表現)50% 授業に2/3以上出席しなければ成績評価の対象になりません。			
テキスト ※必ず購入	特に使用しません。			
参考書 ※必要に応じ購入	手話辞典があると便利です。例えば、下記のものがおすすめです。 『わたしたちの手話 学習辞典』(全日本ろうあ連盟出版局・ISBN:4904639022)			
受講条件 ルール等	毎回、講義とは別に手話の学習とコミュニケーション・ゲームをします。 安心して参加できるコミュニケーション・ゲームを用意しています。 皆さんの積極的な参加を期待しています。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	手話や指文字は授業の中で繰り返し学習しますので、その分しっかりと復習をして資料を見ずに表現できるようにしましょう。授業外の時間に受講生同士で「指文字しりとり」をしたり、声を出さずにジェスチャーや表情、口の形で相手に何かを伝える練習をしましょう。			

科目名	韓国語 I Korean I			
教員名	鄭 恩 姫		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	アンニョンハセヨ！			
授業の 概要・目的	韓国語の文字と発音，語彙と文法の基礎を学ぶ。「聞く，話す，読む，書く」4 技能の総合的学習を通じ，コミュニケーション能力の基礎を養う．また韓国の文化や観光地、K-pop などの紹介を通じ異文化の理解を深める．			
授業の 到達目標	ハングルの読み書きが出来、挨拶から簡単な自己紹介まで韓国語で表現できるようになることを目指す．			
授業計画	1. オリエンテーション：韓国語の概要			
	2. 文字と発音(1)：母音(1)			
	3. 文字と発音(2)：母音(2)			
	4. 文字と発音(3)：子音(1)			
	5. 文字と発音(4)：子音(2)			
	6. 挨拶のことば：こんにちは，さようなら			
	7. 体言＋です(1)，体言＋でいらっしゃいますか			
	8. ～は，体言＋と申します			
	9. ～が，丁寧化語尾			
	10. ～から，固有語数詞			
	11. 否定の指定詞，こそあど			
	12. 用言の活用(1)：用言とは			
	13. 用言の活用(2)：語基の作り方			
	14. 用言の活用(3)：母音語幹の用言(一部)			
	15. 前期の授業内容の復習			
評価方法	平常点(出席状況，授業における参加の態度)と学期末の定期試験を基に評価する．			
テキスト ※必ず購入	野間秀樹・村田寛・金珍我『Campus Corean はばたけ！韓国語』朝日出版社 (必ず購入すること)			
参考書 ※必要に応じ購入	授業において適宜に紹介する．			
受講条件 ルール等	語学の授業であるため出席は必須である．各自の理解度を把握するため，授業内で随時小テストを行う．適宜ビデオなどの映像による教材も導入する予定である．			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	語学の上達には復習が大変重要である． 各自毎回の授業内容を復習できるチャレンジ問題を行う(2・3 分程度)			

科目名	韓国語Ⅱ				KoreanⅡ	
教員名	鄭 恩 姫			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	アンニョンハセヨ！					
授業の 概要・目的	韓国語の文字と発音，語彙と文法の基礎を学ぶ。「聞く，話す，読む，書く」4 技能の総合的学習を通じ，コミュニケーション能力の基礎を養う。挨拶から簡単な会話まで韓国語で表現できるようになることを目指す。また韓国料理の実習やチマチョゴリ(韓服)の試着、韓国の伝統的な遊びなどの体験を通じ異文化の理解をさらに深める。 校外授業ではコリアタウン(新大久保)に行く予定である。					
授業の 到達目標	韓国語でネイティブに場所を尋ねる(駅はどこですか)，買い物をする(これはおいくらですか)，食べ物を注文する(キムチチゲ下さい)などの簡単な会話ができるようになることを目指す。					
授業計画	1. 前期の授業内容の復習					
	2. 確認法，～するでしょう？					
	3. 子音語幹の用言，～も，～に					
	4. 母音語幹の用言					
	5. 否定形(1)，不可能形					
	6. 接続形(1)：～するので					
	7. 尊敬形，～と					
	8. 接続形(2)：～すれば					
	9. hada と hada 用言					
	10. 接続形(3)：～して，～しながら					
	11. 相談法：～しましょうか？					
	12. 過去形					
	13. 用言の活用(4)					
	14. 用言の活用(5)					
	15. 総復習					
評価方法	平常点(出席状況，授業における参加の態度)と学期末の定期試験を基に評価する。					
テキスト ※必ず購入	野間秀樹・村田寛・金珍我『Campus Korean はばたけ！韓国語』朝日出版社 (必ず購入すること)					
参考書 ※必要に応じ購入	授業において適宜に紹介する。					
受講条件 ルール等	語学の授業であるため出席は必須である。各自の理解度を把握するため，授業内で随時小テストを行う。適宜ビデオなどの映像による教材も導入する予定である。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	語学の上達には復習が大変重要である。 各自毎回の授業内容を復習できるチャレンジ問題を行う(2・3 分程度)					

科目名	言語学概論B				Outline of Linguistics B	
教員名	中 岡 典 子			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	言語学入門					
授業の 概要・目的	人間のみに許されている高度なコミュニケーション手段である言葉の特性について、音声面と統語面を取りあげ、分析方法を学び、人間と言語のかかわりについて理解を深める。					
授業の 到達目標	音声面、構造面の分析方法の基本を学び、基本的な分析ができ、人間言語に関する理解を深まること					
授業計画	1. ガイダンス 人間言語の特徴					
	2. 自閉症と失語症					
	3. 音の構造 言語音の分類と体系					
	4. 聞こえ度による分析					
	5. 音節構造とリズム					
	6. 日本語と英語の音節上の相違					
	7. 統語論 生成文法の基本的考え方					
	8. 言語の普遍性					
	9. 標識つき樹形図					
	10. 句構造規則					
	11. X-バー規約にそって文の分析					
	12. 表層構造と深層構造					
	13. 短文の構造 複文の構造					
	14. 専門用語の確認					
	15. まとめ					
評価方法	次の2点を総合的に評価します。 ① 毎回の学習成果 ② 学期末試験結果					
テキスト ※必ず購入	配布資料					
参考書 ※必要に応じ購入	適宜、授業内で提示					
受講条件 ルール等	出席重視、課題への取り組み重視					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	前回の授業のキーワード、及び音の分析方法や、文の分析方法等の基本を復習すること。次回の授業のミニテストで確認					

科目名	コミュニケーションのための基礎英語A			Basic English for Communication A	
教員名	中 岡 典 子			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	英語文法事項の基礎固め、英語リーディング能力養成				
授業の 概要・目的	・e-learning 教材を使い英語文法事項の基礎固め。 ・トピック教材で、読解の基礎力をつけ、テーマに関する理解を図る				
授業の 到達目標	・e-learning 教材の設定目標は TOEIC450 点となっており、指定する文法 Unit の終了はその通過点とする。 ・英文読解の基礎力を身につける。				
授業計画	1. ガイダンス				
	2. 英語の文の造り				
	3. //				
	4. 動詞の時制 現在				
	5. //				
	6. リーディング ①				
	7. //				
	8. 疑問文 否定文				
	9. //				
	10. リーディング ②				
	11. //				
	12. 動詞の時制 過去				
	13. //				
	14. 動詞と時制 総復習				
	15. まとめ				
評価方法	次の 2 点による総合評価 1. 授業または自主学習の e-learning 成果 2. 定期試験結果				
テキスト ※必ず購入	プリント教材配布 e-learning 教材				
参考書 ※必要に応じ購入	特に無し				
受講条件 ルール等	e-learning は、指定された unit をクリアすること 辞書を持参し、授業には積極的に取り組むこと				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	e-learning 教材は、自宅でも学習可。予習は特に必要ないが、復習は要。 リーディング教材の予習・復習(単語の確認、構文の確認、訳)は必須。				

科目名	コミュニケーションのための基礎英語B			Basic English for Communication B	
教員名	中 岡 典 子			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	長文読解の基礎力育成				
授業の 概要・目的	・トピック教材を用いて読解力育成をめざし、テーマに関する理解を深める。 ・長文読解で不可欠な関係代名詞節、分詞、不定詞、動名詞等の基礎理解を図る。 ・e-learning 教材を使い、英文法事項の基礎固めをする。				
授業の 到達目標	文構造を正確にとらえた長文読解力をつけ、テーマに関する理解を深める				
授業計画	1. ガイダンス				
	2. 関係代名詞節(基本編)				
	3. //				
	4. Reading ①				
	5. //				
	6. 受身形 / 分詞				
	7. 不定詞 / 動名詞				
	8. Reading ②				
	9. //				
	10. 関係代名詞節(応用編)				
	11. //				
	12. Reading ③				
	13. //				
	14. 関係代名詞節の基本の確認				
	15. まとめ				
評価方法	次の 2 点を総合的に評価します。 ①定期試験結果 ②e-learning の成果				
テキスト ※必ず購入	プリント教材配布 e-learning 教材				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜提示				
受講条件 ルール等	e-learning で、指定された unit をクリアすること 辞書を持参し、授業には積極的に取り組むこと				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	e-learning 教材は、自宅でも学習可。予習は特に必要ないが、復習は要。 リーディング教材の予習・復習(単語の確認、構文の確認、訳)は必須。				

科目名	英語A			Remedial English	
教員名	中 岡 典 子			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	英語のリズムと発音の基礎				
授業の 概要・目的	英語音声学の基礎を学び、個々の発音やリズム、音連結の仕組みなどを理解する。また、英語の歌、マザーグース、英文の音読練習を重ね、英語のリズムや発音に習熟する。				
授業の 到達目標	英語発音の基本を学び、課題文をしっかりした音量と英語らしいリズムで音読できること				
授業計画	1. ガイダンス				
	2. リズム： 強勢拍リズム		英語の歌とマザーグース		
	3. ・語強勢のしくみ(辞書から読み取る単語のリズム)		〃		
	4. ・文強勢野しくみ		〃		
	5. 子音： 子音の分類： 調音点と調音法		〃		
	6. ・閉鎖音/鼻音/流音		〃		
	7. ・摩擦音/半母音/破擦音		音読課題 2		
	8. ・子音連結とリエゾン		〃		
	9. 母音： 音節構造の核としての母音		音読課題 3		
	10. ・個々の母音の発音		〃		
	11. ・二重母音 と あいまい母音		音読課題 4		
	12. 音調 ・音調の単位と音調核		〃		
	13. ・下降調と上昇調		〃		
	14. 学習の確認と音読課題		〃		
	15. まとめ				
評価方法	次の2つを総合的に評価 ① 平常の課題への積極的取り組み ② 音読課題 と 筆記試験				
テキスト ※必ず購入	『英語のリズムと発音の基礎』 プリント配布				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜提示				
受講条件 ルール等	演習中心の授業です。発音のしくみを理解した上で、コンピューター内在の音声ソフトを利用して、音読練習を行います。声をしっかり出すようにしましょう。なお、マザーグースや英語の歌も音読課題の一部として活用し、楽しみながら発音練習に取り組んでもらいます。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	毎回の復習、及び課題文の音読練習を繰り返し、習熟を図る。				

科目名	英会話 Basic English Conversation			
教員名	Corey Blanc		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	Basic English Conversation			
授業の概要	The aim of this class is to teach key language and listening skills that students can use in Japan, or when traveling abroad. Students will practice dialogs with partners, and make short presentations to the class.			
授業の 到達目標	Students will be able to understand and respond to basic conversation in English.			
授業計画	1. Let's start!			
	2. Family			
	3. Time			
	4. Music			
	5. Transportation			
	6. Sport's			
	7. TV			
	8. Work			
	9. Vacation			
	10. School			
	11. Movies			
	12. Restaurants			
	13. Shopping			
	14. Money			
	15. Travel			
評価方法	Students will be given a grade based on their participation and effort on in class activities, and presentations.			
テキスト ※必ず購入	Topic Talk, David Breen, EFL Press			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	Attendance is mandatory, and students expected to be punctual.			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	Review previous lesson's new vocabulary for in class quiz each week.			

科目名	地域研究A				Area Studies A	
教員名	東 浩一郎			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	戦跡を歩く					
授業の 概要・目的	戦後 70 年となりますが、世界では戦火が絶えません。日本でも安保法制化が議論されています。「過去」の戦争について調べ実際に歩くことで、「今」の平和について考えます。					
授業の 到達目標	① 戦争をせずに国際的な対立を解決することの大切さを理解する ② 社会に対する各自の視角を獲得し積極的に意見表明できるようになる					
授業計画	1. オリエンテーション(授業概要、成績評価基準等の説明)					
	2. 戦争をキーワードに世界地図を見してみる①イスラム国はなぜ生まれたのか					
	3. 戦争をキーワードに世界地図を見してみる②日本と近隣諸国の関係					
	4. 日本が経験した戦争					
	5. 校外授業①(平和記念展示資料館見学(新宿))					
	6. 校外授業で得たことをまとめ発表する					
	7. なぜ戦争は起こるのか考えてみよう					
	8. 戦争を防ぐ様々な制度や各国の取り組み					
	9. 難民支援、戦地の医療活動などにおける NGO、NPO の役割					
	10. 校外授業②(東京大空襲戦災資料センター見学(江東区))					
	11. 校外授業で得たことをまとめ発表する					
	12. 沖縄戦の歴史					
	13. 沖縄の戦後と今					
	14. 戦後 70 年の意味を考えてみよう					
	15. レポート発表・全体まとめ					
評価方法	レポート、授業への参加状況					
テキスト ※必ず購入	なし(適宜講義資料を配布します)					
参考書 ※必要に応じ購入	岩波書店編集部編『これからどうする ～未来のつくり方～』(岩波書店) 君島東彦『平和学を学ぶ人のために』(世界思想社) 新崎盛暉ほか『観光コースではない沖縄』(高文研)					
受講条件 ルール等	希望者は、最後の 2 回(第 14 回～15 回)の授業を校外授業(沖縄戦跡ツアー)に変更します。その場合、実施時期は 9 月初め、費用は 3 泊 4 日で約 45,000 円かかります。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	毎日、新聞を読んだりニュースを見たりする習慣をつけてください。とりわけ自宅で新聞を購読していない場合は、必ず図書館で新聞を読んでください。					

科目名	地域研究B			Area Studies B	
教員名	中 島 智			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	すぎなみの地域観光をデザインする				
授業の 概要・目的	都市型エコツーリズムのアプローチを用いたフィールドワークを通して、本学の立地する地域の文化やそれを活かした地域づくり・観光について実践的に学びます。具体的には、学校周辺地域を対象に、地域資源を発掘し、新しい地域観光を構想することを目指します。				
授業の 到達目標	・エコまち歩きプログラムの開発を通して地域と観光の関わりについて理解できるようになる ・杉並の特徴や魅力について自分なりの視点を持ち、学生生活を有意義なものにできる ・フィールドワークを通して、情報収集と整理の方法、人間関係のつくり方を身に付ける				
授業計画	1. オリエンテーション 授業計画及び成績評価方法の説明、履修上の注意				
	2. 環境・文化への好奇心から地域観光研究へ 都市型エコツーリズム研究の方法				
	3. 共同フィールドワーク① 妙法寺門前通り商店街をあるく・みる・きく				
	4. フィールドワークの振り返り 課題の共有 研究テーマの決定(個人・グループ)				
	5. 地域資源の発掘 文献調査(他地域の事例・地域史) 個別フィールドワーク①				
	6. 中間発表 再発見した地域の魅力とそれを高めるための方策(個人・グループ)				
	7. 共同フィールドワーク② 杉並文学館・和田堀公園をあるく・みる・きく				
	8. フィールドワークの振り返り エコまち歩きのコンセプト決定・プログラムの検討				
	9. エコまち歩きプログラムの確定 個別フィールドワーク②				
	10. 口頭発表に向けた準備				
	11. 口頭発表				
	12. 発表の振り返り 地域への還元に向けた課題整理				
	13. 個人レポートの発表				
	14. 共同レポートの作成				
	15. まとめ				
評価方法	個人レポート(25%)、発表(25%)、フィールドワークへの参加状況(50%)等の総合評価で判断します。なお個人レポートの提出を求めるので、グループで調査研究を進める人もグループ全体としてではなく、自分オリジナルの考えをまとめておく必要があります。				
テキスト ※必ず購入	なし				
参考書 ※必要に応じ購入	茶谷幸治『「まち歩き」をしかける:コミュニティ・ツーリズムの手ほどき』学芸出版社、2012年				
受講条件 ルール等	通常の授業時間以外にも作業することが多いので、主体的に率先して取り組めることが条件です。なお地域や行政、他大学等と連携する形で、実際のプロジェクトに参画する機会を設けることもあります。単位さえ取得できればよいという安易な気持ちで受講しないこと。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	「書をもって、まちへ出よう」が合言葉。授業内外で計4回実施するフィールドワークでは、事前の準備と事後の取りまとめが必要です。また、研究成果の発表方法について、事前にアナウンスしますので、発表の準備をしておいてください。				

科目名	地域研究 C			Area Studies C	
教員名	有 泉 正 二			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	周辺地域の新しい魅力を発見する				
授業の 概要・目的	小説・映画・アニメなどメディアでの描かれ方をヒントに「高円寺」周辺地域のフィールドワークを実施し、多くの写真に記録することで自分たちの手で地域の特徴を見つけ出す。				
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を利用したフィールドワークの方法を身につけることができる ・身近な土地、場所について理解を深めることができる ・自分でテーマを探して地域の特徴を見つけ出すことができる 				
授業計画	1. 地域研究のためのガイダンス				
	2. 地域を知るためのメディア分析の仕方				
	3. メディアの中の「高円寺」 ―事例報告①―				
	4. メディアの中の「高円寺」 ―事例報告②―				
	5. メディアの中の「高円寺」 ―フィールドワーク調査―				
	6. メディアの中の「高円寺」 ―調査報告―				
	7. 地域を発見するための歩き方				
	8. 地域をコレクションする ―企画づくり―				
	9. 地域をコレクションする ―フィールドワーク調査―				
	10. 地域をコレクションする ―調査報告―				
	11. 地域をコレクションする ―フィールドワーク再調査―				
	12. 地域を作品化する ―作品企画づくり―				
	13. 地域を作品化する ―制作①―				
	14. 地域を作品化する ―制作②―				
	15. 地域を作品化する ―発表―				
評価方法	事例報告・調査報告の内容、共同作業への参加姿勢 報告書・作品づくりへの貢献度 個別の作業レポート				
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。必要に応じて参考資料を配付する。				
参考書 ※必要に応じ購入	西加奈子『炎上する君』角川文庫, 2012 年. 又井健太『阿佐ヶ谷ラブソディ』ハルキ文庫, 2013 年. 赤坂真理『東京プリズン』河出文庫, 2014 年.				
受講条件 ルール等	後期・地域研究 D を受講するには、この地域研究 C を履修していなければならない。文化祭で展示する作品づくりのために時間延長や時間外活動もありうる。受講者の相互協力と自発的な取り組みが不可欠となるので、自分の都合を優先したい人には向かない。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークを欠席した人は、次週までに必ず自分で調査に行くこと ・写真撮影をしたときには、必ず後で全ての画像を見返しておくこと ・毎回授業後に、地図で高円寺地域の位置関係を確認しておくこと 				

科目名	地域研究 D			Area Studies D	
教員名	有 泉 正 二			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	周辺地域の中でコミュニケーションについて考える				
授業の 概要・目的	過去の研究で発見された「落書き文化」の地域的特徴を踏まえつつ、調査対象を拡大して杉並区内のコミュニケーションの流れ(断絶)をつかみ、地域活動に活かす。				
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけたフィールドワークの方法を応用することができる ・地域の人とコミュニケーションをとることができる ・地域の変化を記録することができる 				
授業計画	1. 地域研究を深化させるためのガイダンス				
	2. 地域研究活動報告(文化祭発表)				
	3. 「落書き」(グラフィティ)の地域的特徴 ―海外・国内・高円寺の比較―				
	4. 「落書き」調査対象・地域の選定				
	5. 「落書き」フィールドワーク				
	6. 「落書き」調査報告／調査分析				
	7. 地域の中のコミュニケーションを考えるために				
	8. 地域の中のコミュニケーションを知る①				
	9. 地域の中のコミュニケーションを知る②				
	10. 地域の中のコミュニケーションを知る③				
	11. 地域の中のコミュニケーションを知る④				
	12. 地域の中でコミュニケーション活動を生み出す①				
	13. 地域の中でコミュニケーション活動を生み出す②				
	14. 地域の中でコミュニケーション活動を生み出す③				
	15. 地域の中でコミュニケーション活動を生み出す④				
評価方法	調査報告・分析の内容、共同作業への参加姿勢 レポート発表への貢献度 個別の作業レポート				
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。必要に応じて参考資料を配付する。				
参考書 ※必要に応じ購入	ジョシュア・ディヴィッド他著『HIGH LINE』アメリカン・ブック&シネマ社, 2013 年. 加藤文俊・木村健世・木村亜維子『つながるカレー』フィルムアート社, 2014 年. 大山エンリコサム『アゲインスト・リテラシー グラフィティ文化論』LIXIL 出版, 2015 年.				
受講条件 ルール等	前期・地域研究 C の受講を条件とする(フィールドワーク経験を必要とするため)。学習成果発表会を視野に入れて授業を進める上で、時間延長や時間外活動もありうる。また、受講者にチーム活動をしてもらうこともあるので、チームに迷惑のかかる欠席は認めない。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークを欠席した人は、次週までに必ず自分で調査に行くこと ・写真撮影や活動の後には、必ず取材メモを作成しておくこと ・街歩きをした後はその都度地図で自分が訪れた場所を確認しておくこと 				

科目名	キャリアデザインA				Career Design A	
教員名	梅村慶嗣			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					○
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	志望する未来をつかむためのサポートコース					
授業の概要	自分の将来像を掴む。そのために、過去そして現在の自分を見つめる。自己分析をとおして志す未来を目指し、社会人として必要なコミュニケーション能力、知識、そして就職、編入準備に必要な、履歴書やエントリーシートの書き方などを習得。					
授業の 到達目標	卒業後を含めた自分の進むべき進路を仮決定する					
授業計画	1. 「納得できる進路選択」について考える					
	2. 自己理解①～自己を理解する意義～					
	3. 自己理解②～「働く」を考える～					
	4. 自己理解③～自分の強みを見つける(その1)～					
	5. 自己理解④～自分の強みを見つける(その2)～					
	6. 自己理解⑤～進路を選択する“自分視点”を見つける～					
	7. 業界・企業の理解①～様々な職種を知る～					
	8. 業界・企業の理解②～様々な企業を知る(その1)～					
	9. 業界・企業の理解③～様々な企業を知る(その2)～					
	10. 業界・企業の理解④～様々な業界を知る(その1)～					
	11. 業界・企業の理解⑤～様々な業界を知る(その2)～					
	12. 自己PR文の作成(その1)～					
	13. 自己PR文の作成(その2)～					
	14. 模擬面接					
	15. 総まとめ					
評価方法	PDCA 目標シート・社会人インタビュー・履歴書等の課題作成、授業への参加状況による総合評価					
テキスト ※必ず購入	『テストセンター対応・これが本当のSPI3 だ! 【2016 年度版】』洋泉社 (その他については必要な資料を授業ごとに配布する)					
参考書 ※必要に応じ購入	必要な資料を授業ごとに配布する。					
受講条件 ルール等	【社会人のマナーを身につけるため、以下を守ること】遅刻の禁止／あいさつをする／音楽プレイヤー等のイヤホンははずして入室／飲食禁止／携帯電話はマナーモードにして使用不可／私語・居眠り禁止／教室内では、上着や帽子を脱ぐ など					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	社会人インタビューなど課題作成の為の事前調査や学習が必要となる。詳細については授業内で別途指示する。					

科目名	キャリアデザインB				Career Design B	
教員名	梅村慶嗣			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	2年次前期	単位数	1単位	選択・必修	必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	志望する未来をつかむためのサポートコースⅡ					
授業の概要	自分の将来像をより具体的に掴む。そのために、過去そして現在の自分を見つめる。卒業後の進路決定を目指し、社会人として必要なコミュニケーション能力、知識、履歴書やエントリーシートの書き方などを習得する。					
授業の 到達目標	就職活動・進学準備の行動化によって納得のいく進路選択をする。					
授業計画	1. 「納得できる進路選択」について考える					
	2. 就職活動・社会人のマナーを理解する					
	3. 自己分析①～自分の強みを見つける～					
	4. 自己PRの作成					
	5. 自己分析②～企業を選ぶ“自分視点”を見つける～					
	6. 業界・企業の理解①～業界の見方～					
	7. 業界・企業の理解②～企業・仕事の見方～					
	8. 志望動機の作成					
	9. 自己PR・志望動機のブラッシュアップ					
	10. 履歴書の作成					
	11. 模擬面接①					
	12. 模擬面接②					
	13. 模擬グループディスカッション					
	14. 履歴書の完成					
	15. 総まとめ					
評価方法	応募書類の記入、演習などの活動状況、授業への参加状況により総合的に評価する。					
テキスト ※必ず購入	『テストセンター対応・これが本当のSPI3だ!【2016年度版】』洋泉社 (一年次に購入済み)					
参考書 ※必要に応じ購入	必要な資料を授業ごとに配布する。					
受講条件 ルール等	【社会人のマナーを身につけるため、以下を守ること】遅刻の禁止／あいさつをする／音楽プレイヤー等のイヤホンははずして入室／飲食禁止／携帯電話はマナーモードにして使用不可／私語・居眠り禁止／教室内では、上着や帽子を脱ぐ など					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業内で配布するシートの作成を行うこと。就職部主催、紹介の就職支援講座、セミナーや説明会へ積極的に参加すること。詳細は授業内で別途指示する。					

科目名	キャリアデザインB Career Design B			
教員名	弘 中 貴 子		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	志望する未来をつかむためのサポートコース II			
授業の 概要・目的	自らの将来、生き方を考え設計する。その実現のために、卒業後の進路先の決定を目指し、就職・編入試験に必要な実践的なコミュニケーション力、自己表現力、マナーなどの知識と技能を習得する。			
授業の 到達目標	将来の生き方や生活を含めた人生設計を行う。 就職・編入試験に必要な知識と技能を身につけ、自らの進路先の選択と実質的な就職活動に取り組む。			
授業計画	1. オリエンテーション、自己紹介			
	2. 社会の動向や採用状況、就職活動の現状やスケジュールを再確認する。			
	3. 就職活動(セミナー、企業説明会)のマナーを確認する。			
	4. 就職情報の収集、活用方法を学ぶ。			
	5. 応募書類(履歴書、エントリーシート)の重要性と採用側の視点を理解する。			
	6. 応募書類(履歴書、エントリーシート)を記入する。			
	7. 進路選択に向けた業界、企業、職種について理解する。			
	8. 進路選択に向けて業界・企業・職種研究を行う。			
	9. 就職情報の収集、応募書類の作成など個別学習を行う。			
	10. 面接試験の種類とそれぞれの面接試験の採用側の視点を理解する。			
	11. 面接時のマナーを確認する。			
	12. 個人面接、グループ面接を体験する。			
	13. グループディスカッション面接を体験する。			
	14. 就職情報の収集、応募書類の作成など個別学習を行う。			
	15. 講義のまとめ			
評価方法	応募書類の記入、演習などの活動状況、授業への参加状況により総合的に評価する。			
テキスト ※必ず購入	これが本当の SPI3 だ!2016 年度版(一年次購入済み)			
参考書 ※必要に応じ購入	授業中に適宜紹介する。			
受講条件 ルール等	特になし。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業内で配布するシートの作成を行うこと。 就職部主催、紹介の就職支援講座、セミナーや説明会へ積極的に参加すること。			

科目名	キャリアデザインB				Career Design B	
教員名	飯田・東			授業区分	〈現〉基礎教育科目	
年次配当	2 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	必修	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	四年制大学編入学に必要な知識を身につける					
授業の 概要・目的	このクラスは、就職以外の進路を希望する学生が対象である。とりわけ授業では、四年制大学編入学に必要な学習を行います。めざす大学によって、必要となる学習内容が異なるので、必要に応じて個別指導も実施します。					
授業の 到達目標	各自の志望校を選択し、志望校に適した学力を身につける。					
授業計画	1. オリエンテーション(基礎学力試験)・進路アンケート					
	2. 進路の確認と個別面談					
	3. 個別指導(英語、心理学、経済学、小論文など)					
	4. 個別指導(英語、心理学、経済学、小論文など)					
	5. 個別指導(英語、心理学、経済学、小論文など)					
	6. 中間まとめ(学力チェック、志望校確認)					
	7. 志望校の編入学試験情報のリサーチ					
	8. 個別指導(英語、心理学、経済学、小論文など)					
	9. 個別指導(英語、心理学、経済学、小論文など)					
	10. 個別指導(英語、心理学、経済学、小論文など)					
	11. 志望校、進路の確認、指導					
	12. 志望理由書の書き方					
	13. 模擬面接					
	14. 全体まとめ 1					
	15. 全体まとめ 2					
評価方法	授業への参加状況および課題作成状況による総合評価					
テキスト ※必ず購入	なし(必要に応じて個別に提示します)					
参考書 ※必要に応じ購入	適宜紹介します					
受講条件 ルール等	個別指導時は、必要に応じて、PC 室、図書館などに場所を移します。毎回最初に、一人ひとりの授業内容を確認してから場所を移るので、遅刻しないように注意してください。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	① 自宅学習用の課題・資料を配布します。翌週までに自宅で仕上げておいてください (毎日 30 分程度) ② 志望校の過去問を入手し、自宅で学習のうえ持参してください。					

科目名	心理学概論A General Psychology A			
教員名	飯 田 宮 子		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	心理学の基礎知識			
授業の 概要・目的	心理学の基礎的な知識を学ぶことを目標にする。各領域における専門用語、代表的な人名、代表的な実験とその内容を学ぶ。			
授業の 到達目標	心理用語を学ぶ。			
授業計画	1. 心理学とは			
	2. 心理学の歴史			
	3. 心理学の方法(実験法、調査、検査、事例研究等)			
	4. 感覚(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚、有機感覚等)			
	5. 感覚(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚、有機感覚等)			
	6. 知覚(ゲシュタルト心理学)			
	7. 知覚(ゲシュタルト心理学)			
	8. 知覚(ゲシュタルト心理学)			
	9. 学習(古典的条件付け学習)			
	10. 学習(古典的条件付け学習)			
	11. 学習(古典的条件付け学習)			
	12. 学習(オペラント条件付け学習)			
	13. 学習(オペラント条件付け学習)			
	14. 学習(オペラント条件付け学習)			
	15. 学習(観察学習と社会的学習)			
評価方法	通常の学習態度(出席状況と授業参加態度)および筆記試験により評価する。			
テキスト ※必ず購入	『心理学 心と行動のメカニズムを探る』越智啓太編著 樹村房			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	出席重視			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業内容(キーワード)を復習する。 前回の授業内容を小テストにて確認する。			

科目名	心理学概論B General Psychology B			
教員名	飯 田 宮 子		授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	心理学の基礎知識			
授業の 概要・目的	心理学の基礎的な知識を学ぶことを目標にする。各領域における専門用語、代表的な人名、代表的な実験とその内容を学ぶ。			
授業の 到達目標	心理用語を学ぶ。			
授業計画	1. 知覚の復習			
	2. 学習の復習			
	3. 記憶(記憶の研究:エビングハウス)			
	4. 記憶(記憶の時間的プロセスと種類:二重貯蔵モデル)			
	5. 記憶(記憶と脳:頭で覚える記憶と体で覚える記憶)			
	6. 記憶(忘却についての諸説)			
	7. 思考と言語(ピアジェとヴィゴツキー)			
	8. 思考と言語(知能検査)			
	9. 思考と言語(創造性)			
	10. 動機づけ(基本的動機と社会的動機)			
	11. 動機づけ(さまざまな動機のメカニズム)			
	12. 動機づけ(マスローの成長動機、欲求不満)			
	13. 情動(ジェームズ・ランゲ説)			
	14. 情動(情動と脳)			
	15. 情動(自律神経:交感神経と副交感神経と心身症)			
評価方法	通常の学習態度(出席状況と授業参加態度)および筆記試験により評価する。			
テキスト ※必ず購入	『心理学 心と行動のメカニズムを探る』 越智啓太編著 樹村房			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	出席重視			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業内容(キーワード)を復習する。 前回の授業内容を小テストにて確認する。			

科目名	心理学史 History of Psychology			
教員名	飯 田 宮 子		授業区分	〈現〉専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	心理学の歴史			
授業の 概要・目的	構成心理学、ゲシュタルト心理学、学習心理学、精神分析的心理学、カウンセリング心理学などの基本的考え方と歴史的背景について学ぶ。			
授業の 到達目標	心理学諸説に関する歴史的背景を学ぶ。			
授業計画	1. ギリシャ神話の“プシケー”			
	2. ソクラテス、プラトン、アリストテレスの研究：心理学の起源			
	3. デカルト、ロック、カントの研究：連合主義と理性主義			
	4. ヒポクラテス、レオナルド、ガルの研究：脳の心理学			
	5. ニュートン、ゲーテ、ヘルムホルツの研究：色の心理学			
	6. ウェーバー、フェヒナーの研究：精神物理学			
	7. ヴントの研究：構成主義心理学			
	8. ウェルトハイマーの研究：ゲシュタルト心理学			
	9. ジェームスの研究：機能主義心理学			
	10. ホールの研究：発達心理学			
	11. ワトソンの研究：学習心理学			
	12. フロイトの研究：精神分析的心理学			
	13. ロジャーズの研究：カウンセリング心理学			
	14. 総合学習			
	15. 総合学習			
評価方法	通常の学習態度（出席状況と授業参加態度）および筆記試験により評価する。			
テキスト ※必ず購入	参考文献コピーを配布する。			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	出席重視			
準備学習の （予習・復習） 内容と分量	授業内容（キーワード）を復習する。 前回の授業内容を小テストにて確認する			

科目名	人間関係の心理学 Psychology of Interpersonal Relation			
教員名	飯 田 宮 子		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	好きと嫌いの心理学			
授業の 概要・目的	授業前半では、社会心理学における対人魅力の研究について理解し、授業後半では、対人魅力における非言語コミュニケーションについて学びます。			
授業の 到達目標	好きと嫌いの心理学について学ぶ。			
授業計画	1. 対人魅力			
	2. 身体的魅力の要因			
	3. 近接の要因			
	4. 近接の要因			
	5. 類似の要因			
	6. 類似の要因			
	7. 承認の要因			
	8. 承認の要因			
	9. 相補の要因			
	10. 相補の要因			
	11. 非言語コミュニケーション			
	12. 非言語コミュニケーション			
	13. 非言語コミュニケーション			
	14. 総合学習			
	15. 総合学習			
評価方法	通常の学習態度(出席状況と授業参加態度)および筆記試験により評価する。			
テキスト ※必ず購入	参考文献コピーを配布する。			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	出席重視			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業内容(キーワード)を復習する。 前回の授業内容を小テストにて確認する			

科目名	発達心理学 Psychology of Development			
教員名	飯田 宮 子		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	こころの発達			
授業の 概要・目的	人は有機体として生から死という時間的プロセスのなかで変化し続ける。心理学ではこの変化を発達と呼ぶ。この授業では子どもが大人になるまでの心身の変化について学ぶ。			
授業の 到達目標	こころの発達について学ぶ。			
授業計画	1. 発達心理学の歴史			
	2. 発達の定義			
	3. 発達の特徴			
	4. 刷り込みと臨界期			
	5. 愛着と母性			
	6. 社会化のプロセス			
	7. 発達段階と発達課題			
	8. ピアジェの認知発達理論(1)			
	9. ピアジェの認知発達理論(2)			
	10. ピアジェの認知発達理論(3)			
	11. エリクソンの心理社会的発達理論(1)			
	12. エリクソンの心理社会的発達理論(2)			
	13. エリクソンの心理社会的発達理論(3)			
	14. 総合学習			
	15. 総合学習			
評価方法	通常の学習態度(出席状況と授業参加態度)および筆記試験により評価する。			
テキスト ※必ず購入	参考文献コピーを配布する。			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	出席重視			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業内容(キーワード)を復習する。 前回の授業内容を小テストにて確認する			

科目名	パーソナリティの心理 Psychology of Personality			
教員名	長 澤 里 絵		授業区分	〈現〉専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	パーソナリティ形成の心理学			
授業の 概要・目的	日常生活の中で上るパーソナリティに関する話題が、心理学ではどのように考えられているかを考えます。理論や検査法を学んだ上で、身近な諸問題についても学びます。			
授業の 到達目標	パーソナリティ形成を学ぶことで、「人とは何か」について考えを深めることができる。			
授業計画	1. オリエンテーション パーソナリティとは			
	2. パーソナリティ形成に働く要因			
	3. パーソナリティ理論(1) 類型論			
	4. パーソナリティ理論(2) 特性論			
	5. パーソナリティ理論(3) 精神分析理論(1)			
	6. パーソナリティ理論(4) 精神分析理論(2)			
	7. パーソナリティ理論(5) ロジャーズ			
	8. 発達とパーソナリティ			
	9. 心理アセスメント			
	10. 心理検査(1) YG性格検査 他			
	11. 心理検査(2) エゴグラム 他			
	12. 心理検査(3) P-F スタディ			
	13. 攻撃性と甘えのパーソナリティ(1)			
	14. 攻撃性と甘えのパーソナリティ(2)			
	15. まとめ			
評価方法	定期試験および積極的に授業に取り組む姿勢により総合的に評価します。 ただし、2/3 以上出席しなければ成績評価できません。			
テキスト ※必ず購入	『パーソナリティの心理学 ベーシック現代心理学5』 岡田康伸, 藤原勝紀, 山下一夫, 皆藤 章, 竹内健児 著 有斐閣 ISBN: 978-4-641-07244-2			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	授業時の私話は授業妨害となるので厳禁とします。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じます。なおその場合は欠席となります。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業で取り上げた重要な理論の基本的な考え方, 重要な概念や用語について復習しておくこと。			

科目名	社会行動の心理 Psychology of Social Behavior			
教員名	長 澤 里 絵		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	集団の中の個人			
授業の 概要・目的	集団の中での個人の考え・感情・行動の変化と、個人としてのアイデンティティを築くプロセスの学習を通して、人間の社会的側面について学びます。			
授業の 到達目標	自分と他者、そして社会との関わり方を学びながら、日常生活でも応用できる社会心理学の知識を取得できる。 集団の中の一個人としての自分を知ること、自分への理解を深めることができる。			
授業計画	1. オリエンテーション 社会行動とは			
	2. 社会心理学の歴史			
	3. 社会的促進と社会的手抜き			
	4. フット・イン・ザ・ドア			
	5. 没個性化			
	6. 援助行動			
	7. 攻撃行動			
	8. 同調行動(1)			
	9. 同調行動(2)			
	10. 権力への服従(1)			
	11. 権力への服従(2)			
	12. 権力への服従(3)			
	13. 集団意思決定(1)			
	14. 集団意思決定(2)			
	15. まとめ			
評価方法	定期試験、レポートおよび積極的に授業に取り組む姿勢により総合的に評価します。 ただし、2/3 以上出席しなければ成績評価できません。			
テキスト ※必ず購入	適宜資料を配布します。			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	授業時の私語は授業妨害となるので厳禁とします。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じます。なおその場合は欠席となります。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業で取り上げた重要な理論の基本的な考え方、重要な概念や用語について復習しておくこと。また、実社会においてこれらがどのような形で表れているのか、その都度身の回りの事象と照らし合わせてみること。			

科目名	人間関係の心理学 Psychology of Interpersonal Relation			
教員名	飯 田 宮 子		授業区分	〈専〉 専攻科
年次配当	専攻科後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	好きと嫌いの心理学			
授業の 概要・目的	授業前半では、社会心理学における対人魅力の研究について理解し、授業後半では、対人魅力における非言語コミュニケーションについて学びます。			
授業の 到達目標	好きと嫌いの心理学について学ぶ。			
授業計画	1. 対人魅力			
	2. 身体的魅力の要因			
	3. 近接の要因			
	4. 近接の要因			
	5. 類似の要因			
	6. 類似の要因			
	7. 承認の要因			
	8. 承認の要因			
	9. 相補の要因			
	10. 相補の要因			
	11. 非言語コミュニケーション			
	12. 非言語コミュニケーション			
	13. 非言語コミュニケーション			
	14. 総合学習			
	15. 総合学習			
評価方法	通常の学習態度(出席状況と授業参加態度)および筆記試験により評価する。			
テキスト ※必ず購入	参考文献コピーを配布する。			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	出席重視			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業内容(キーワード)を復習する。 前回の授業内容を小テストにて確認する			

科目名	臨床心理の基礎A Introduction to Clinical Psychology A			
教員名	横 尾 瑞 恵		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	臨床心理学			
授業の 概要・目的	心の問題とその症状の現れ方、心の状態を把握する方法について学びます。基本的に講義形式で進め、テーマに応じてワークを行います。毎回の授業終了時には考察や疑問点を簡単にまとめて提出してもらい、次回の授業で解説します。			
授業の 到達目標	心の問題とその診断方法に関する基礎的な知識を習得する。心の在り様は人それぞれで異なることを理解し、自分の心を見つめ、心の問題について自分の頭で考え表現する姿勢を持てるようになることを目指す。			
授業計画	1. オリエンテーション			
	2. ストレスとは何か			
	3. 性格の捉え方			
	4. 心はどのように発達するのか			
	5. 心に現れる症状:統合失調症			
	6. 心に現れる症状:気分障害			
	7. 心に現れる症状:摂食障害			
	8. 心に現れる症状:自閉症スペクトラム(自閉性障害)			
	9. 心に現れる症状:自閉症スペクトラム(AD/HD)			
	10. 心の状態を把握する方法:心理アセスメントとは			
	11. 心の状態を把握する方法:質問紙法			
	12. 心の状態を把握する方法:作業法			
	13. 心の状態を把握する方法:投影法			
	14. 現代社会における心の問題			
	15. まとめ			
評価方法	授業への参加態度、定期試験の結果により、総合的に評価する。			
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。			
参考書 ※必要に応じ購入	「図解雑学 臨床心理学」 松原達哉 編著 ナツメ社 2002 年			
受講条件 ルール等	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	毎回の授業で配布した資料を整理し、まとめること。			

科目名	臨床心理の基礎B Introduction to Clinical Psychology B			
教員名	横 尾 瑞 恵		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	臨床心理学			
授業の 概要・目的	心の問題の治療法や心理臨床現場での援助の在り方を学びます。 基本的に講義形式で進め、テーマに応じてワークを行います。毎回の授業終了時には考察や疑問点を簡単にまとめて提出してもらい、次回の授業で解説します。			
授業の 到達目標	心の問題とその援助方法に関する基礎的な知識を習得する。心の在り様は人それぞれで異なることを理解し、自分の心を見つめ、心の問題について自分の頭で考え表現する姿勢を持てるようになることを目指す。			
授業計画	1. オリエンテーション			
	2. カウンセラーの役割			
	3. 心の問題を扱う現場:教育領域			
	4. 心の問題を扱う現場:産業領域			
	5. 心の問題を扱う現場:医療領域			
	6. 心の問題を扱う現場:福祉領域			
	7. 心の問題を解決する治療法:心理療法とは何か			
	8. 心の問題を解決する治療法:精神分析			
	9. 心の問題を解決する治療法:来談者中心療法			
	10. 心の問題を解決する治療法:行動療法			
	11. 心の問題を解決する治療法:認知行動療法			
	12. 心の問題を解決する治療法:芸術療法			
	13. 心の問題を解決する治療法:家族療法			
	14. 臨床心理学の研究法			
	15. まとめ			
評価方法	授業への参加態度、定期試験の結果により、総合的に評価する。			
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。			
参考書 ※必要に応じ購入	「図解雑学 臨床心理学」 松原達哉 編著 ナツメ社 2002 年			
受講条件 ルール等	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	毎回の授業で配布した資料を整理し、まとめること。			

科目名	ビジネス心理総論 Business Psychology			
教員名	音 山 若 穂		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	ビジネス場面で知ってトクする心理学(Business Psychology)			
授業の 概要・目的	本授業では対人社会心理学をベースに、簡単な実験やデモンストレーションの紹介を交えながら、ビジネス場面で役立つ心理学を学ぶ。ビジネスのさまざまな局面において、自ら課題を発見し、解決策を検討するための、基礎的な力を養うことが目的である。			
授業の 到達目標	対人社会心理学の基本的な知識を身に着けるとともに、心理学的なものの見方、考え方の基礎を習得することができる。			
授業計画	1. イントロダクション ビジネスと心理学の関係			
	2. 社会的影響のプロセス(1)			
	3. 社会的影響のプロセス(2)			
	4. 対人魅力と対人欲求(1)			
	5. 対人魅力と対人欲求(2)			
	6. 自己呈示と印象管理(1)			
	7. 自己呈示と印象管理(2)			
	8. 説得的コミュニケーション(1)			
	9. 説得的コミュニケーション(2)			
	10. 環境文化と社会化の心理(1)			
	11. 環境文化と社会化の心理(2)			
	12. 組織と職場の心理学(1)			
	13. 組織と職場の心理学(2)			
	14. 身の回りの出来事をビジネス心理の視点で考える(期末レポート課題の検討)			
	15. 全体のまとめ ビジネス心理を活かして社会人基礎力を養う			
評価方法	毎時間の授業中に提示される課題(60%)、および期末レポート(40%)			
テキスト ※必ず購入	使用しない			
参考書 ※必要に応じ購入	授業中に指示			
受講条件 ルール等	特になし			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	毎回、配布資料をもとに授業を進める。そのため、前回の授業において配布した資料を読んで概略を理解する予習と(各回2時間)、授業での解説やデモンストレーションをもとに、文献の内容を振り返る復習(各回2時間)とが必要。			

科目名	ビジネス心理演習 Seminar in Business Psychology			
教員名	音 山 若 穂		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	ビジネス場面に応用できる心理演習(Seminar in Business Psychology)			
授業の 概要・目的	グループまたは個人で、調査・実験の計画から、データ収集、分析、まとめまでを演習する。簡単な調査や実験を通して人々の心理や行動に影響を与える要因を探る方法を習得することが目的である。			
授業の 到達目標	ビジネス場面において、人々の心理や行動に影響を与える要因を探る心理学的な方法を知ることができる。調査・実験の計画から、データ収集、分析、まとめまでの流れをつかむことができる。			
授業計画	1. イントロダクション ビジネス場面と心理学 説得力をもつ証拠とは			
	2. 演習(1) 対比較による好悪の尺度化 実験の進め方・手順の解説			
	3. 演習(1) お互いに被験者となって実験			
	4. 演習(1) 結果の処理と分析・考察			
	5. 演習(2) セマンティック・ディファレンシャル法			
	6. 演習(2) 結果の処理と簡単な統計処理			
	7. 演習(2) 分析結果の考察			
	8. 演習(3) ターゲットセレクション(チャート式チェックリスト) 作成			
	9. 演習(3) お互いに被験者となって実験			
	10. 演習(3) 結果の考察			
	11. 演習(4) 実験テーマの決定(受講者の関心に合わせて決定) 実験計画と準備			
	12. 演習(4) 実験実施			
	13. 演習(4) 結果の処理と分析			
	14. 演習のまとめとリフレクション(期末レポート課題の検討)			
	15. 全体のまとめ 心理学研究に向けて			
評価方法	毎時間の授業中に提示される課題(60%)、および期末レポート(40%)			
テキスト ※必ず購入	使用しない			
参考書 ※必要に応じ購入	授業中に指示			
受講条件 ルール等	毎時間、グループを作りお互いに協力してデータを取ったり、実験や分析を行ったりするので、積極的に参加し、協力することが求められます。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	お互いに実験者や被験者となつての実験や調査を行う。そのための準備やデータ収集(各回2時間)、および事後の振り返り(各回2時間)が必要。			

科目名	カウンセリング入門			Introduction to Counseling	
教員名	音 山 若 穂			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	お互いにサポートしあう「絆づくり」について学ぶ				
授業の 概要・目的	心理教育的集団アプローチをベースとしてカウンセリングの基礎を学ぶ。特にカウンセリングの前提となる対人関係形成能力やリーダーシップについて演習を通し理解を深めることを目的とする。				
授業の 到達目標	自己理解・他者理解、基礎的なコミュニケーションスキル、リーダーシップスキルトレーニングを理解するとともに、仲間どうしでお互いにサポートしあう「絆づくり」のプロセスを体得することができる。				
授業計画	1. イントロダクション 心理教育的集団アプローチとは				
	2. 関係づくりのワーク(1) アイスブレイク				
	3. 関係づくりのワーク(2) チームワークスキル				
	4. 関係づくりのワーク(3) ネイチャーゲーム、など				
	5. 自己・他者とコミュニケーション(1)		紹介スキル、取扱説明書等から		
	6. 自己・他者とコミュニケーション(2)		受講者の特性に合わせて決定		
	7. 自己・他者とコミュニケーション(3)		(授業中に指示)		
	8. 集団による課題解決ワーク (1)		集団での課題解決、伝達スキル等から		
	9. 集団による課題解決ワーク (2)		受講者に合わせて決定		
	10. 集団による課題解決ワーク (3)		(授業中に指示)		
	11. 対話アプローチ(1)		方法と基本的な考え方		
	12. 対話アプローチ(2)		対話手法の体験(AI ミニインタビュー他から決定)		
	13. 対話アプローチ(3)		(授業中に指示)		
	14. ワークのまとめとリフレクション(期末レポート課題の検討)				
	15. まとめと解説 よき「リーダー」となるために必要なこと				
評価方法	毎時間の授業中に提示される課題(60%)、および期末レポート(40%)				
テキスト ※必ず購入	使用しない				
参考書 ※必要に応じ購入	授業中に指示				
受講条件 ルール等	原則として全員参加のグループワークを行うので、積極的に授業に参加し、お互いに協力してワークを進める態度が 必須 です。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	毎回、全員で取り組む、体験型のワークを取り入れている。そのため、それぞれのワークに必要な準備(各回2時間)や、事後の振り返り(各回2時間)が必要。				

科目名	音楽療法の基礎			Introduction to Music Therapy	
教員名	長 坂 希 望			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	音楽療法概論				
授業の 概要・目的	① 音楽療法の基礎知識、臨床心理学用語の学習 ② 心理や音楽療法の技法を活かしたコミュニケーション方法の習得				
授業の 到達目標	① 音楽療法の手順、効果、方法を説明できるようになること ② 様々な障害、病気、心理学用語について理解し、使用できるようになること ③ 人間と音楽の関わり、音楽の役割や作用を考察し、セルフケアにいかせるようになること				
授業計画	1. オリエンテーション、音楽療法の定義と手順(教科書p12－60、p127－134)				
	2. 子どもの身体発達と音楽活動（参考書②・②）p128－140)				
	3. 子どものこころを育てる関わり方（参考書①p8－52)				
	4. 子どものための音楽療法（教科書 p135－141、参考書②②）p116－128)				
	5. 精神科領域の音楽療法（教科書 p116－126、DVD「17 歳のカルテ」)				
	6. 精神科領域の音楽療法（DVD「17 歳のカルテ」)				
	7. 精神科領域の音楽療法（DVD「17 歳のカルテ」)				
	8. 精神科領域の音楽療法（教科書 p98－103)				
	9. 高齢者のための音楽療法（教科書p110－116)				
	10. 高齢者のための音楽療法				
	11. 緩和ケア・ホスピスでの音楽療法（教科書 p142－147)				
	12. 緩和ケア・ホスピスでの音楽療法(教科書 p104－109)				
	13. ウェルネス音楽療法（教科書p150－176)				
	14. 対象者別音楽療法のまとめ				
	15. 対象者別音楽療法のまとめ				
評価方法	レポート課題(40%) 筆記試験(60%)				
テキスト ※必ず購入	「音楽療法士」（新水社・ISBN4883851494）				
参考書 ※必要に応じ購入	① 「子どもたちの感情を育てる教師のかかわり」（明治図書出版・ISBN9784181411268） ② 「障害児の発達臨床 感覚と運動の高次化による発達臨床の実際②」 宇佐川浩著 学苑社 ③ DVD 「17 歳のカルテ」				
受講条件 ルール等	誤字、脱字、文章技法については厳しく指導、減点対象とする。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	・授業計画に記された教科書や参考書を使用し、予習、復習を行なうこと。 ・その他必要に応じて授業内で予習、復習の課題が追加されることもある。 ・希望者は校外学習として臨床現場で体験見学をすることも可能である。				

科目名	心理学統計法 Statistics for Psychology			
教員名	山 田 竜 平		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	データの特徴をわかりやすく表現する			
授業の 概要・目的	心理学の基本的なデータ処理について理解を深める			
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学で扱う心理学統計を理解する ・データの特徴をわかりやすく表現する技術を習得する ・数値を扱うことになれる 			
授業計画	1. 心理学統計とは？(心理学でなぜ統計が必要なのか)			
	2. 変数と尺度			
	3. 母集団と標本			
	4. 得点と度数			
	5. データの扱いと表現の仕方(データの図表化)			
	6. 基準による比較の仕方			
	7. 2つの関係の表現			
	8. 統計的仮説検定の発想			
	9. 2つの平均値を比較する			
	10. 計算実習(t検定)			
	11. 3つ以上の平均値を比較する(1要因分散分析)			
	12. 計算実習(分散分析)			
	13. 度数を比較する			
	14. 総合学習			
	15. 全体のまとめと解説			
評価方法	授業内課題および授業への取り組み姿勢とテストにより評価する			
テキスト ※必ず購入	使用しない			
参考書 ※必要に応じ購入	心理統計法入門 Ver.2 松田 文子, 三宅 幹子, 橋本 優花里 北大路書房			
受講条件 ルール等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業初回時に受講者の理解度を測るため初回時には必ず参加してほしい ・心理系大学編入希望者の受講が望ましい ・パソコンや統計ソフトを用いるため、わからないことをそのままにせず、積極的に質問をするなど、きちんと解決できる学生の受講を望む 			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業で扱う内容を適時指示するため、指定の内容について予習を行うこと ・授業で扱った内容について、課題作成とあわせ4時間以上の時間外学習をすることが必要となる 			

科目名	心理学研究法 Research Methods in Psychology			
教員名	山 田 竜 平		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	心理学の基本的な研究法を理解する			
授業の 概要・目的	心理学の基本的研究法としての実験・検査・調査について理解を深める			
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の基礎となる科学的側面を、理論的かつ実践的に知ることができる ・様々な心理検査や調査について知識や技法を身につける ・理論と実践のバランスを考えた研究方法を検討する力を身につける 			
授業計画	1. 科学としての心理学			
	2. 心理学の歴史と研究方法			
	3. 研究の手順			
	4. 実験による研究			
	5. 社会心理学研究から見る実験			
	6. 認知心理学研究から見る実験			
	7. 実験研究に必要な知識			
	8. 検査による研究			
	9. 質問紙検査			
	10. 投影法検査			
	11. 調査による研究			
	12. 観察による研究			
	13. 面接による研究			
	14. 総合学習			
	15. 全体のまとめと解説			
評価方法	授業への取り組み姿勢とテストにより評価する			
テキスト ※必ず購入	使用しない			
参考書 ※必要に応じ購入	『心理学研究法入門―調査・実験から実践まで』(2001) 南風原 朝和, 下山 晴彦, 市川 伸一(編) 東京大学出版会			
受講条件 ルール等	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の基礎科目の既修が望ましい ・授業に積極的に参加する意欲のある学生を望む ・受講者の人数によっては柔軟にトピックを変更することも考えます 			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業で扱う内容を適時指示するため、指定の内容について予習を行うこと ・授業で扱った内容について、課題作成とあわせ4時間以上の時間外学習をすることが必要となる 			

科目名	心理学基礎実験 I			Experiments in Psychology I	
教員名	山 田 竜 平			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	心理学の実験を実際に体感する				
授業の 概要・目的	心理学の基本的な研究方法である実験について知識と理解を深める				
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学における実験とはどのようなものか体験する ・実験の手順・分析の方法・レポートの書き方を身につける 				
授業計画	1. オリエンテーション				
	2. 心理学の研究の手順(資料の収集)				
	3. 心理学の研究の手順(プレゼンテーション)				
	4. レポートの書き方について				
	5. 実験(1)のインストラクション(ミュラーリヤー錯視実験)				
	6. 実験の実施				
	7. データ整理				
	8. データの処理・分析				
	9. 図表の作成				
	10. 実験(1)とレポートの解説				
	11. レポートの講評				
	12. 実験のインストラクション・実験の実施(認知的葛藤実験)				
	13. データ整理・分析				
	14. 図表の作成・まとめ				
	15. レポートの講評				
評価方法	実験への参加姿勢、実験レポートにより評価する				
テキスト ※必ず購入	使用しない				
参考書 ※必要に応じ購入	『心理学のための実験マニュアル―入門から基礎・発展へ』(1993) 利島 保, 生和 秀敏(編著) 北大路書房				
受講条件 ルール等	<ul style="list-style-type: none"> ・実験が中心の授業ため、欠席は基本的に認められない ・心理統計学と心理学の基礎科目、パソコンの基礎知識があることを前提とする ・学生同士の協力的な姿勢だけでなく、わからないことを質問できる学生を望む 				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・実験で扱う統計学及び心理学の分野についてきちんと予備知識を入れておくこと ・授業内容について、課題作成とあわせ4時間以上の時間外学習をすることが必要となる 				

科目名	心理学基礎実験Ⅱ			Experiments in Psychology II	
教員名	山 田 竜 平			授業区分	〈現〉専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	さまざまな心理学の実験を実施しレポートにまとめる				
授業の 概要・目的	心理学の基本的な研究方法である実験を実践する				
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の実験を体験することにより心理学の研究方法を理解する ・実験の実施方法、データ処理の仕方、レポートの書き方を身につける 				
授業計画	1. オリエンテーション				
	2. 実験(1)のインストラクション(ストップディスタンス法)				
	3. 実験の実施				
	4. データ整理				
	5. データの処理・分析				
	6. 実験(1)とレポートの解説				
	7. レポートの講評				
	8. 実験(2)のインストラクション(両側性転移実験)				
	9. 実験の実施				
	10. データ整理				
	11. データの処理・分析				
	12. 実験(2)とレポートの解説				
	13. レポートの講評				
	14. 総合学習				
	15. 全体のまとめと解説				
評価方法	実験への参加姿勢、実験レポートにより評価する				
テキスト ※必ず購入	使用しない				
参考書 ※必要に応じ購入	『心理学 実験・研究レポートの書き方―学生のための初歩から卒論まで』(1996) フィンドレイ 北大路書房				
受講条件 ルール等	<ul style="list-style-type: none"> ・実験が中心の授業ため、欠席は基本的に認められない ・心理統計学と心理学の基礎科目、パソコンの基礎知識があることを前提とする ・学生同士の協力的な姿勢だけでなく、わからないことを質問できる学生を望む 				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・実験で扱う統計学及び心理学の分野についてきちんと予備知識を入れておくこと ・授業内容について、課題作成とあわせ4時間以上の時間外学習をすることが必要となる 				
科目名	秘書学概論			Introduction to Secretarial Study	

教員名	辻 恭 子			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	就職活動に必要な「秘書検定3級」合格の実力をつける(検定試験:6月)。				
授業の 概要・目的	① 秘書検定3級対策をとおり、ビジネスマナーの基本を身につける ② 社会人の土台である態度・振る舞い・話し方などのコミュニケーション力・ホスピタリティを理解する				
授業の 到達目標	① 就職活動に必要な秘書検定3級以上を取得する ② 日常生活で不可欠な冠婚葬祭マナーの基本を理解する				
授業計画	1. 授業ガイダンス 秘書検定3級概略 秘書検定3級過去問解説①				
	2. ビジネスパーソンとしての資質・職務知識・一般知識 秘書検定3級過去問解説②				
	3. マナー・接遇 秘書検定3級過去問解説③				
	4. グラフおよびビジネス文書作成 秘書検定3級過去問解説④				
	5. 秘書検定3級のまとめ 本試験6月実施、会場:本学				
	6. あいさつ～マナーと基本の言葉～、話し方～10のポイント～				
	7. お辞儀～身につけたい4種類～、身だしなみ～5つのポイント～				
	8. 態度がよいとは？				
	9. 笑顔～効用とエネルギー				
	10. 電話応対① ビジネス電話の受け方、伝言メモを作成する				
	11. 電話応対② ビジネス電話のかけ方、				
	12. 電子メール				
	13. 慶事のマナー				
	14. 弔事のマナー、年中行事				
	15. まとめ				
評価方法	① 定期試験100%による評価です。 ② 授業や秘書検定の取り組み態度でプラス・マイナスαをする場合があります。 ③ 2/3 以上出席しなければ成績評価はできません。				
テキスト ※必ず購入	「秘書検定 3 級 2015 年度版 実問題集」/早稲田出版、「魅力行動学ビジネス講座～マナー・コミュニケーション・キャリア」/学文社、「グループワークで学ぶオフィス実務」/西文社				
参考書 ※必要に応じ購入					
受講条件 ルール等	① 授業中の、私語、飲食、携帯電話使用は厳禁です(受講生と授業の迷惑になるので)。 ② 授業態度によっては退室を命じます。その場合は欠席扱いです。 ③ 秘書検定3級取得を目指し過去問題に取り組むので遅刻はしないように努めて下さい。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	① 秘書検定試験までは毎回実問題集1回分以上の予習が必要です。 ② 秘書検定試験までは毎回、間違えた問題の復習が必要です。				

科目名	秘書実務			Secretary Business	
教員名	辻 恭 子			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	就職活動に必要な「秘書検定2級」合格の実力をつける(検定試験:11月)。				
授業の 概要・目的	① 秘書検定2級対策をとおり、人柄育成を目指す ② ビジネスパーソンに求められるビジネスマナー・コミュニケーション力・ホスピタリティを身につける				
授業の 到達目標	① 就職活動に有利な秘書検定2級を取得する ② 「めげない」「くさらない」「にげない」態度を実践し、豊かなキャリア形成を目指す				
授業計画	1. 授業ガイダンス 秘書検定2級概略 秘書検定2級過去問解説①				
	2. ビジネスパーソンとしての資質・職務知識・一般知識 秘書検定2級過去問解説②				
	3. マナー・接遇 秘書検定2級過去問解説③				
	4. ビジネス文書作成 秘書検定2級過去問解説④				
	5. 秘書検定2級のまとめ 本試験11月実施、会場:本学				
	6. エチケットとは？マナーとは？語源と日本のマナーの現状、マナーの国際比較				
	7. 立食パーティのマナー ～目的と心得～				
	8. 洋食のマナー ～ナイフとフォークの使い方～				
	9. 和食のマナー				
	10. 中国料理のマナー				
	11. 懇親会と酒席でのマナー				
	12. 電話応対、携帯電話のマナー～守りたいマナー～				
	13. 英語による電話応対～覚えてたい決まり文句～				
	14. 手紙～書き方の基礎知識～				
	15. まとめ				
評価方法	① 定期試験100%による評価です。 ② 授業や秘書検定の取り組み態度でプラス・マイナスαをすることがあります。 ③ 2/3 以上出席しなければ成績評価はできません。				
テキスト ※必ず購入	「秘書検定 2 級 2015 年度版 実問題集」/早稲田出版、「魅力行動学ビジネス講座～マナー・コミュニケーション・キャリア」/学文社、「グループワークで学ぶオフィス実務」/西文社				
参考書 ※必要に応じ購入					
受講条件 ルール等	① 秘書学概論(前期)を受講していること。 ② 就職に有利な秘書検定2級合格を目指していること。 ③ 授業中の、私語・飲食・携帯電話使用は厳禁です(受講生と授業の迷惑になるので)。 ④ 秘書検定2級取得を目指し過去問題に取り組むので遅刻はしないように努めて下さい。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	① 秘書検定試験までは毎回実問題集1回分以上の予習が必要です。 ② 秘書検定試験までは毎回、間違えた問題の復習が必要です。				

科目名	ビジネスマナー概論				Intoroduction to Business Manner	
教員名	畑 邦 恵			授業区分	〈現〉 専門教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	社会に必要なビジネスマナーの基本知識					
授業の 概要・目的	ビジネスマナーとコミュニケーションの基本を学び、社会での必要な知識とスキルを総合的に身につける					
授業の 到達目標	①社会人としての基本的なマナーを身につける ②社会人としてのコミュニケーション能力を見つける					
授業計画	1. 授業ガイダンス					
	2. ビジネスマナーの基本・接遇の 5 原則					
	3. 敬語					
	4. ビジネスマナーとルール					
	5. 報告・連絡・相談(ホウレンソウ)の基本					
	6. 電話対応マナー					
	7. 来客対応マナー (1)					
	8. 来客対応マナー (2)					
	9. ビジネス文書の書き方					
	10. ビジネスメール ・ ビジネス用語					
	11. 冠婚葬祭マナー (1)					
	12. 冠婚葬祭マナー (2)					
	13. 会食の基本マナー (1)					
	14. 会食の基本マナー (2)					
	15. 国際ビジネスマナー (プロトコール)					
評価方法	実技試験、提出物、授業内確認テストの総合により評価します。 ただし、2/3 以上出席しなければ成績評価できません。					
テキスト ※必ず購入	改訂版「ビジネスマナー 基本テキスト」 キャリア総研 著					
参考書 ※必要に応じ購入	特にありません					
受講条件 ルール等	社会人としてのビジネスマナーの基本が身につきます 将来必ず役に立ちますので、積極的に受講をしてください 授業中の携帯電話、私語、飲食は厳しく注意をします					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	テキストを必ず読んでくること 授業後はテキストの理解度チェックを宿題とします					

科目名	ホスピタリティ論				Intoroduction to Hospitality	
教員名	畑 邦 恵			授業区分	〈現〉 専門教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					○
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	相手の立場になって考え、行動する					
授業の 概要・目的	相手の立場になって考え、行動する「ホスピタリティ・マインド」を持ち、その行動の実践と ヒューマンスキルを高めることで自己成長とキャリア観の育成につなげる					
授業の 到達目標	① 相手の立場に立って考え、行動する「ホスピタリティ・マインド」を養う ② 自己を理解し、ヒューマンスキルの力を高める					
授業計画	1. 授業ガイダンス					
	2. ホスピタリティとサービスの違い					
	3. ホスピタリティを実践する 3 つのステップ ①基本マナー					
	4. ホスピタリティを実践する 3 つのステップ ②気配り					
	5. ホスピタリティを実践する 3 つのステップ ③心配り					
	6. ストロール					
	7. 心理ゲーム					
	8. 自己状態 ・ エゴグラム					
	9. 自己理解					
	10. 人生態度					
	11. ホスピタリティ観察					
	12. ホスピタリティのためのケーススタディ					
	13. ホスピタリティ・マインドの育て方					
	14. スピーチ					
	15. まとめとフィードバック					
評価方法	ワークシート、レポート提出、スピーチの総合により評価します。 ただし、2/3以上出席しなければ成績評価できません。					
テキスト ※必ず購入	図解版「ホスピタリティの教科書」あさ出版 林田 正光 監修					
参考書 ※必要に応じ購入	特にありません					
受講条件 ルール等	「ホスピタリティ・マインド」を学び、自己理解することで就職活動に役立ちます。 将来必ず役に立ちますので、積極的に受講してください。 授業中の携帯電話、私語、飲食は厳しく注意します。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業後はテキストを復習してください					

科目名	経済学各論A			Economic Issue A	
教員名	荒 井 智 行			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	日本経済の変容と現実の経済に関わる労働・雇用問題を理解・把握する。				
授業の 概要・目的	皆さんがこれから社会に出るうえで、経済を見る力を鍛えることは必要不可欠です。授業の前半では、戦後の日本経済を広い視点から検討します。その後で、近年の日本経済の変容のされ方を見ていきます。特に、授業の半ばから後半では、今日の経済に関わる労働問題や就職問題など、幅広いテーマを扱います。これらのテーマを扱いながら、経済学には多様な見方があることを学びます。授業では、経済学の諸問題について講義を行うだけでなく、皆さんと一緒に議論する時間も多く取りたいと思います。				
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学におけるさまざまな統計を取り上げますので、統計を読む力を鍛えます。 ・今日の経済の諸問題を理解・把握することにより、現実の経済社会を見る眼を養います。 ・日本の雇用と労働のあり方を学ぶことにより、新聞などの経済問題を広くかつ深く読み解けるようにする。 ・これらの学びを通じて、今日の日本の経済の諸問題について、皆さんが自分の考えや意見をしっかりと持てるようにすることを目標に掲げます。 				
授業計画	1. ガイダンス(評価方法、授業概要)、今日の日本経済の動向				
	2. 戦後日本の経済成長①:戦後～オイルショック				
	3. 戦後日本の経済成長②:高度経済成長期～バブル崩壊まで				
	4. 景気循環:バブルの発生と崩壊(バブルとは何か。失われた 20 年の経済学)				
	5. 日本型雇用慣行:日本の雇用構造と雇用情勢の変化				
	6. 日本の産業構造の変化と企業経営の変容:経済格差と非正規雇用				
	7. 労働と賃金:賃金と労働分配率、就職と採用				
	8. ブラック企業の実態と労働問題				
	9. ブラック企業と政治・経済				
	10. 実際の労働現場に見る労働の質の変容				
	11. 経済学と感情:経済学の多様な考え方				
	12. 経済格差と機会の平等				
	13. 経済格差と民主主義				
	14. 社会関係資本とコミュニティ				
	15. 全体のまとめ				
評価方法	定期試験(70%) レポート(30%)				
テキスト ※必ず購入	なし				
参考書 ※必要に応じ購入	『攻略!!日本経済【改訂版】』(学文社・ISBN:476202497X) 『生活保障——排除しない社会へ——』(岩波新書・ISBN:4004312167) その他、授業中に適宜紹介します。				
受講条件 ルール等	私語厳禁。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、労働問題や雇用問題を多く取り上げますので、各自、新聞の中で、これらのテーマに関する経済面や社会面を注意して読んでおきましょう。 ・授業で配布したプリントは、その翌々週の授業まで必ず持参すること。 				

科目名	経済学各論B			Economic Issue B	
教員名	荒 井 智 行			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				○
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	財政、金融、社会保障、国際経済を理解・把握する。				
授業の 概要・目的	本授業では、経済学を理解するうえで不可欠な、財政、金融、労働経済、社会保障などを取り上げながら、経済学の基本を学びます。その中では、現在の日本経済に見られる重要なトピックである、デフレの克服、アベノミクス、少子高齢化、年金問題などを扱います。また、日本と先進諸国の経済や社会保障のあり方の違いを見るために、国際的な見地から比較・検討したいと思います。そこでは、経済学的な面のみならず、経済システムや社会システムについても、日本と世界の国々との違いを学んでいきます。授業では、皆さんと一緒に議論する時間も多くなりますので、今日の経済や社会の諸問題を解決していく能力や主体性の向上にも努めていきます。				
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学におけるさまざまな統計を取り上げながら、統計を読む力を鍛える。 ・経済学の核となる幅広いテーマを扱いながら、経済学への関心を高めると同時に、経済学の幅広い知識と深い教養を身につける。 ・新聞などの経済問題を広くかつ深く読み解けるようにする。 ・国際比較で日本経済を見ることにより、日本経済の問題点や課題を説明できるようにする。 ・今日の日本の経済の諸問題について、皆さんが自分の考えや意見をしっかりと持てるようにすることを目標に掲げます。 				
授業計画	1. 物価の変動とデフレ：日本経済のデフレと産業政策				
	2. デフレの克服：医療・介護産業を中心に				
	3. 為替：円高と円安、円レートの変動				
	4. 財政：財政の役割、財政再建				
	5. 国債の暴落と金融危機				
	6. 金融：インフレと金融政策				
	7. 金融：金融政策と国際貿易				
	8. 人口構造の変化と日本経済：少子高齢化				
	9. 少子高齢化と社会保障：高齢化と医療				
	10. 年金：年金制度の仕組みと課題				
	11. 低福祉低負担と高福祉高負担の経済学				
	12. イギリス・モデルの経済学				
	13. オランダ・モデルの経済学				
	14. スウェーデン・モデルの経済学				
	15. 全体のまとめ				
評価方法	小レポート(30 点) 大レポート(70 点)				
テキスト ※必ず購入	なし				
参考書 ※必要に応じ購入	『攻略！！日本経済【改訂版】』（学文社・ISBN: 476202497X） 『最新日本経済入門【第4版】』（日本評論社・ISBN: 4535556652）				
受講条件 ルール等	私語厳禁。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業において、次回の授業で扱うキーワードを発表しますので、各自、それを予習しておくこと。 ・各自、自分が好む経済ないし経済学の入門書を手に入れることをお勧めする。もしくは、図書館で、授業で扱ったテーマの文献を必要に応じてコピーをするなど、工夫を求めたい。どの文献が良いかについては、いつでも相談に応じる。 ・授業で配布したプリントは、その翌々週の授業まで必ず持参すること。 				

科目名	エアター・ビジネス論				Airline Business	
教員名	畑 邦 恵			授業区分	〈現〉 専門教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	航空業界を理解し、接客技量を身につける					
授業の 概要・目的	世界の空港・航空会社など、航空業界についての理解、関心を深める また一般的な接客の基本スキルを身につける					
授業の 到達目標	① 航空業界の専門知識の習得 ② 就職に不可欠な接客用語、接客マナーを学ぶ ③ テーブルマナー、食品知識を学ぶ					
授業計画	1. 授業ガイダンス					
	2. 空港の基本 ・ 世界の空港					
	3. 空港で働く人 ・ フライトアテンダントの役割					
	4. LCC					
	5. 接客の基本 (1) 接遇の5原則					
	6. 接客の基本 (2) 接遇用語					
	7. 接客の基本 (3) プロトコール					
	8. 業界知識 (1) ルートインフォメーション					
	9. 業界知識 (2) 世界の時差					
	10. 業界知識 (3) 税関のしくみ					
	11. 業界知識 (4) 旅券・ビザについて					
	12. 業界知識 (5) テーブルマナー					
	13. 業界知識 (6) リカーサービス					
	14. 業界知識 (7) 世界の食事					
	15. まとめとフィードバック					
評価方法	レポート、授業内確認テストの総合により評価します ただし、2/3以上出席しなければ成績評価できません					
テキスト ※必ず購入	使用しません。必要に応じ、参考資料を配布します					
参考書 ※必要に応じ購入	特にありません					
受講条件 ルール等	航空業界に興味があり、将来就職を考えている人は積極的に受講してください。 授業中の携帯電話、私語、飲食は厳しく注意します					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業内で配布したプリント、ノートを自宅で復習してください					

科目名	情報処理演習A1			Computer Literacy A1	
教員名	中 島 智			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	Word 基礎				
授業の 概要・目的	パソコン OS の主流といえる Windows の使い方を基礎から学びます。 特に Word の操作技術を習得し、文書作成の方法を身に付けることを目指します。				
授業の 到達目標	・パソコン初心者や苦手意識をもつ受講生が、生活の中でパソコンを活用できるようになる ・Word による文書作成ができるようになる				
授業計画	1. オリエンテーション 授業計画及び成績評価方法の説明、履修上の注意				
	2. 情報環境を利用する前に 最低限必要になる知識やモラルを身に付ける				
	3. Windows の基本操作				
	4. Word の特徴 準備から画面構成まで				
	5. 小まとめ ローマ字入力に慣れる				
	6. 簡単な文書を作成する				
	7. 案内状を作成し、印刷する				
	8. 文書に書式を設定する(1)				
	9. 文書に書式を設定する(2)				
	10. 文書に表を挿入する(1)				
	11. 文書に表を挿入する(2)				
	12. 文書に画像を挿入する(1)				
	13. 文書に画像を挿入する(2)				
	14. 演習問題(1)				
	15. 演習問題(2)				
評価方法	授業中に課す小レポート(課題作成)の内容及び提出状況、授業態度などにより総合的に評価します。				
テキスト ※必ず購入	『よくわかる Word2013&Excel2013&PowerPoint2013』(FOM 出版) ※情報処理演習 A1、B1、C1 で共通のテキストを使用します(1 冊のみ購入してください)				
参考書 ※必要に応じ購入	『やさしく学べる Word2013 スクール標準教科書1』(日経 BP 社・ISBN4822297225)				
受講条件 ルール等	パソコンを活用した実習が中心となるので、出席して実際に頭も手も動かすことが重要です。初心者や苦手意識をもつ方も積極的に受講してください。なお、授業計画は受講生の人数や理解度等、事情に応じて適宜変更することがあります。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	スキルを高めるためには、語学などと同じように毎日の反復練習が大切です。また、トラブルに巻き込まれたり、引き起こしたりしないようにするためにも、情報環境を利用する上での知識やマナー、引用に関する著作権の考え方などは、確実に身に付けるようにしましょう。				
科目名	情報処理演習A2			Computer Literacy A2	
教員名	東 浩一郎			授業区分	〈現〉 専門教育科目

年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	Word 応用				
授業の 概要・目的	Word の基本操作ができる事を前提に、より高度な機能を学びます。				
授業の 到達目標	① 単なる文字入力・編集ではない高度な機能を使いこなせるようになる。 ② 10 分間に 400 字以上の日本語入力ができるようになる。 ③ MOS に合格する。				
授業計画	1. 授業概要、成績基準の説明、MOS について(検定内容と授業との関係)				
	2. ワードでできること				
	3. 文書の作成と編集①(テンプレートの使用、外部ファイルのインポートほか)				
	4. 文書の作成と編集②(ページ設定、テーマの使用、ヘッダー・フッターほか)				
	5. 文字の書式設定(検索・置換、高度なコピー、ワードアート、特殊文字ほか)				
	6. 段落の書式設定(スタイル、タブとインデント、段組みほか)				
	7. 表の作成と編集(文字列を表に変換する、クイック表作成機能、並べ替え・計算式)				
	8. リストの作成と編集(箇条書き・段落番号、リストのレベル変更)				
	9. 参考資料の適用(脚注、図表番号、引用文献)				
	10. オブジェクト挿入と書式設定(クイックパーツ、テキストボックス、SmartArt、画像)				
	11. 中間まとめ、MOS について(試験実施方法等)				
	12. 検定対策模擬試験①				
	13. 検定対策模擬試験②				
	14. 検定対策模擬試験③				
	15. 検定対策模擬試験④				
評価方法	検定試験結果と毎回作成する課題による総合評価 (検定試験は全員受験しますが、検定合格と単位認定・成績評価がリンクしているわけではありません。)				
テキスト ※必ず購入	『MOS 攻略問題集 Word 2013[第 2 版]』(日経 BP 社)				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介します				
受講条件 ルール等	全員 MOS を受験します。その際、検定料 7,500 円がかかります。 ※MOS に合格すると『共通自由選択』(2 単位)を取得でき(要履修登録)、資格取得奨励金 3,000 円がもらえます。詳しくは最初の授業で説明します。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業の最後に次回の範囲を発表します。次回範囲を読み、分からないことを調べておいてください。				

科目名	情報処理演習B1				Computer Literacy B1	
教員名	横山道史			授業区分	〈現〉専門教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	コンピュータの基礎操作					
授業の 概要・目的	本講義は、Excel(2013)の基礎的な知識・技能の習得を目的としています。したがって、Excel(2013)の初心者を対象とした授業です。MOS(Excel2013)の受験を考えている学生は、その前提となる基礎力を養うために、本講義をぜひ受講してください。					
授業の 到達目標	1. Excel2013 に関する基礎的な知識・技能の習得を目標とする					
授業計画	1. 授業方針と授業の進め方についての説明					
	2. 入力・編集					
	3. 関数・計算					
	4. グラフ					
	5. データベース					
	6. 条件付き書式					
	7. チェックボックス					
	8. 複数条件の合計					
	9. 複数グラフ					
	10. 演習問題 1					
	11. 演習問題 2					
	12. 演習問題 3					
	13. 演習問題 4					
	14. 演習問題 5					
	15. 予備日:総括					
評価方法	試験(70%)および授業内小テスト(30%)により評価します。					
テキスト ※必ず購入	『よくわかる Word2013&Excel2013&PowerPoint2013』(FOM 出版) ※情報処理演習 A1、B1、C1 で共通のテキストを使用します(1 冊のみ購入してください)					
参考書 ※必要に応じ購入	『やさしく学べる Excek2013 スクール標準教科書 1』日経 BP 社 『やさしく学べる Excek2013 スクール標準教科書 2』日経 BP 社 『やさしく学べる Excek2013 スクール標準教科書 3』日経 BP 社					
受講条件 ルール等	私語は授業妨害とみなし減点対象となります。ただし、授業内容に関する質問等はその限りではない。授業第一回目に、受講ルールについて説明するのでその内容に十分に留意し受講を決定すること。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	Excel の個々の機能について解説・操作し、演習課題という手順で学習していく。演習課題の中からランダムに小テストを行う。したがって、前回までの内容を復習しておくことが望まれる。					
科目名	情報処理演習B2				Computer Literacy B2	

教員名	東 浩一郎			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	Excel (エクセル) 応用				
授業の 概要・目的	Excel(エクセル)の表計算機能、グラフ機能、データベース機能を学びます。				
授業の 到達目標	① MOS に合格する ② 就職したら即活用できる Excel 操作能力を身につける				
授業計画	1. 授業概要、成績基準の説明、MOS について(検定内容と授業との関係)				
	2. エクセルでできること				
	3. データを作成、操作する①				
	4. データを作成、操作する②				
	5. データと内容の書式を設定する①				
	6. データと内容の書式を設定する②				
	7. 数式を作成および編集する①				
	8. 数式を作成および編集する②				
	9. データを視覚的に表現する				
	10. データの共有とセキュリティの設定をする				
	11. 中間まとめ、MOS について(試験実施方法等)				
	12. 検定対策模擬試験①				
	13. 検定対策模擬試験②				
	14. 検定対策模擬試験③				
	15. 検定対策模擬試験④				
評価方法	検定試験結果と毎回作成する課題による総合評価 (検定試験は全員受験しますが、検定合格と単位認定・成績評価がリンクしているわけではありません。)				
テキスト ※必ず購入	『MOS 攻略問題集 Excel 2013[第 2 版]』(日経 BP 社)				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介します				
受講条件 ルール等	全員 MOS を受験します。その際、検定料 7,500 円がかかります。 ※MOS に合格すると『共通自由選択』(2 単位)を取得でき(要履修登録)、資格取得奨励金 3,000 円がもらえます。詳しくは最初の授業で説明します。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業の最後に次回の範囲を発表します。次回範囲を読み、分からないことを調べておいてください。				

科目名	情報処理演習C1 Computer Literacy C1			
教員名	東 浩一郎		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	Power Point (パワーポイント) 基礎			
授業の 概要・目的	① プレゼンテーションソフトであるパワーポイントの基本機能について学びます。 ② プレゼンテーションの基本的な知識について学びます。			
授業の 到達目標	① パワーポイントを使って人前で発表することができるようになる ② プレゼンテーションの基礎知識を身につける ③ パワーポイントの視覚効果を有効に活用できる			
授業計画	1. パワーポイントの概要			
	2. パワーポイントの画面構成およびパソコンの基本操作			
	3. プレゼンテーションの作成・編集、文字や段落の書式設定・スライドショーの実行			
	4. 表や図形の作成・編集、グラフの作成・編集			
	5. スマートアートグラフィック・ワードアート等の作成・編集			
	6. 画像の挿入と編集			
	7. アニメーションの設定と編集			
	8. 画面切り替え効果の設定と編集			
	9. スライドショー実行にかかわる諸機能の学習			
	10. プレゼンテーションの基礎知識			
	11. 発表用プレゼンの作成(テーマ設定・全体設計)			
	12. 発表用プレゼンの作成(素材収集・スライド作成)			
	13. 発表用プレゼンの作成(表・図形の作成と編集)			
	14. 発表用プレゼンの作成(視覚的効果)			
	15. スライドショーによるグループ発表			
評価方法	定期試験(70%)、発表作品(30%) ただし、6 回以上欠席した場合は評価がつきません。			
テキスト ※必ず購入	『よくわかる Word2013&Excel2013&PowerPoint2013』(FOM 出版) ※情報処理演習 A1、B1、C1 で共通のテキストを使用します(1 冊のみ購入してください)			
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜紹介します			
受講条件 ルール等	毎回、課題を作成します。遅刻しても改めて最初から説明することはできないので、遅刻しないよう注意してください。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業の最後に次回の範囲を発表します。次回範囲を読み、分からないことを調べておいてください。			
科目名	画像・動画編集と公開			

教員名	東 浩一郎			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	画像・動画の簡単な編集				
授業の 概要・目的	ムービーメーカーや MS オフィスのできる範囲の画像・動画の編集と YouTube への公開方法を学習します。また、撮影テクニックや知的財産権についても取り上げます。				
授業の 到達目標	① 画像・動画の簡単な編集と DVD 作成ができるようになる ② 画像・動画を公開できるようになる ③ 知的財産権についての正しい知識とネット上のマナーを身につける				
授業計画	1. ガイダンス・授業概要と成績評価基準の説明				
	2. 公開までのプロセス(シナリオ作成・撮影・編集・録音・エンコード・公開)				
	3. あらかじめ知っておくべきこと(知的財産権・ネット上のマナー)				
	4. デジカメ・スマホの写真やムービーをパソコンに取り込む方法と注意点				
	5. パワポのできる画像編集				
	6. 写真撮影テクニック(外部講師)				
	7. スライドショー作成①(シナリオ作成と素材集め)				
	8. スライドショー作成②(撮影)(校外授業)				
	9. スライドショー作成③(編集・発表)				
	10. ムービーメーカーの仕組み				
	11. 動画作品作成①(シナリオ作成と素材集め)				
	12. 動画作品作成②(撮影)(校外授業)				
	13. 動画作品作成③(編集・オートムービー機能、BGM の追加など)				
	14. 動画作品作成④(各種効果・保存・エンコード・公開)				
	15. 作品発表・全体まとめ				
評価方法	授業内で作成した作品(50%)、授業への参加状況(50%)				
テキスト ※必ず購入	『今すぐ使える かんたんビデオ編集&DVD 作り』(技術評論社)				
参考書 ※必要に応じ購入	なし				
受講条件 ルール等	ごく初歩の編集と公開の技術を学びます。日常的に YouTube にアップしている方にとっては簡単すぎる内容です。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業の最後に次回テキスト範囲を伝えるので、その範囲を読み、分からない部分があれば調べてきてください。				

科目名	情報リテラシー概論			Outline of Information Literacy	
教員名	横 山 道 史			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	高度情報化社会の諸相				
授業の 概要・目的	コンピュータの基礎知識はもちろん、氾濫する情報に騙されない方法を習得することが目標です。インターネット社会に典型的にみられる情報のパターンを習得することで、情報化社会を生き抜く力を養います。				
授業の 到達目標	1 偽情報の特徴を理解しそのパターンを見抜くことができるようになる 2 情報に流されるのではなく、取捨選択できる主体性を獲得することができる				
授業計画	1. 授業方法および授業方針についての説明				
	2. 注意喚起として広まる流言・デマ 1				
	3. 注意喚起として広まる流言・デマ 2				
	4. 救援を促すためのデマ				
	5. 救援を誇張するデマ				
	6. デマの悪影響を最小化するために				
	7. ウェブ時代の情報リテラシー				
	8. 情報を捨てる技術				
	9. メディア・リテラシーの政治的意味				
	10. 統計のウソ				
	11. ネット群衆の暴走と可能性				
	12. ウェブ炎上のメカニズム				
	13. なぜ人は超常現象を信じるのか1				
	14. なぜ人は超常現象を信じるのか 2				
	15. 予備日：総括				
評価方法	試験(70%)および授業内小テスト(30%)により評価します。				
テキスト ※必ず購入	教科書は特に定めないが、参考文献を適宜紹介する。				
参考書 ※必要に応じ購入	小笠原喜康『議論のウソ』講談社現代新書、2005 『キーワードで理解する情報リテラシー』日経 BP 社、2008 谷岡一郎『社会調査のウソ』文藝春秋、2000				
受講条件 ルール等	私語は授業妨害とみなし減点対象となります。ただし、授業内容に関する質問等はその限りではない。授業第一回目に、受講ルールについて説明するのでその内容に十分に留意し受講を決定すること。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	キーワードについての小テストを授業開始 5 分程度実施するので、それにきちんと回答できるように、授業内容の復讐を 1 時間程度行うことを推奨する。				

科目名	情報の役割と倫理			Functions and Ethics of Information	
教員名	横 山 道 史			授業区分	〈現〉基礎教育科目
年次配当	2 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択必修
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	情報技術の発達と情報倫理				
授業の 概要・目的	コンピュータの発達により、情報技術全般の進歩はもちろん、それは私たちの社会を変え、人間の思考や行動までも変えようとしている。そうした大きな変化に対してどのように対応していくべきなのか、その課題と方法について学びます。				
授業の 到達目標	1. 情報技術に対応する倫理を習得することができる				
授業計画	1. 授業方法および授業方針についての説明				
	2. 責任と情報倫理				
	3. ケータイの情報倫理				
	4. プライバシーと情報化社会				
	5. ハッカーとクラッカー				
	6. 情報倫理と現代モラル				
	7. バーチャルリアリティと身体				
	8. インターネットの発展と道徳の根拠付け				
	9. ゲーム文化と男性性・暴力性・快楽				
	10. サイバーフェミニズム				
	11. ポストモダン性の条件				
	12. 監視社会とポストモダン性				
	13. 高度情報化社会の行方 1				
	14. 高度情報化社会の行方 2				
	15. 予備日：総括				
評価方法	試験(70%)および授業内小テスト(30%)により評価します。				
テキスト ※必ず購入	教科書は特に定めないが、参考文献を適宜紹介する。				
参考書 ※必要に応じ購入	静谷啓樹『情報倫理ケーススタディ』サイエンス社、2008				
受講条件 ルール等	私語は授業妨害とみなし減点対象となります。ただし、授業内容に関する質問等はその限りではない。授業第一回目に、受講ルールについて説明するのでその内容に十分に留意し受講を決定すること。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	キーワードについての小テストを授業開始 5 分程度実施するので、それにきちんと回答できるように、授業内容の復讐を 1 時間程度行うことを推奨する。				

科目名	ビジネス英会話			Business English Conversation	
教員名	Corey Blanc			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				◎
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	Introduction to Business English Conversation				
授業の概要	This class aims to teach business related vocabulary, and understanding of questions and responses in a business related conversation.				
授業の 到達目標	Students will be able to express basic information in English.				
授業計画	1. Introduction to the course				
	2. Introducing yourself				
	3. Introduction speech to a group				
	4. Checking in at the airport				
	5. At the airport security check				
	6. The internet				
	7. Computer problems				
	8. This copier doesn't work				
	9. Take a break				
	10. I can handle the situation				
	11. Meeting times				
	12. Where is it located?				
	13. Address and phone number				
	14. Presentation				
	15. Final presentation				
評価方法	Students will be given a grade based on participation, presentations, and in class quizzes.				
テキスト ※必ず購入	No textbook is assigned. Teacher will provide copies. Material will be selected from various business English texts, and radio English program dialogs.				
参考書 ※必要に応じ購入					
受講条件 ルール等	Attendance is mandatory, and students expected to be punctual.				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	Review previous lesson's words and phrases for an in class quiz each week.				

科目名	ビジネスイングリッシュ Business English			
教員名	Corey Blanc		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			○
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			◎
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	Business English			
授業の概要	Goal of this class will be to write and respond to email in English. Aim of the course is to improve reading and comprehension skills related to reading short passages, and making verbal and written responses.			
授業の 到達目標	Students will be able to respond to email in English			
授業計画	1. Class orientation			
	2. Introducing others, and being introduced			
	3. Vocabulary and phrase building			
	4. More phrase building			
	5. Time zones, telling time			
	6. Comparing products			
	7. Describing what a company makes			
	8. Making inquiries			
	9. Requesting information			
	10. Request for proposal			
	11. Notification of meeting			
	12. Money and numbers			
	13. Making a reservation			
	14. Taking a survey			
	15. Making a presentation			
評価方法	Students will be evaluated on class participation and completion of assigned tasks. Computers will be used in class, and students will be expected to print out and hand in assignments.			
テキスト ※必ず購入	No textbook will be assigned. Material will be selected from various sources.			
参考書 ※必要に応じ購入				
受講条件 ルール等	Attendance is mandatory, and students are expected to be punctual.			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	Weekly quizzes on new phrases and vocabulary.			

科目名	簿記の基礎A				Bookkeeping A	
教員名	前 川 道 生			授業区分	〈現〉 専門教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	個人商店を対象とした簿記システムの理解					
授業の 概要・目的	商店などの日々の営業活動の記録を記した会計帳簿の仕組みを理解する。 講義では、500 年以上前に確立したといわれる複式簿記システムの理解を深める。 全国経理教育協会主催簿記検定 3 級の取得。					
授業の 到達目標	商店の日常の取引を仕訳帳に記帳し、総勘定元帳に転記することができる。 仕訳帳や総勘定元帳の記録をもとに、試算表を作成することができる。 決算手続きを行い、精算表を通じて、貸借対照表・損益計算書を作成することができる。					
授業計画	1. 簿記の概要（意義・目的）					
	2. 個別取引の処理 (1) …現金・預金、商品売買					
	3. 個別取引の処理 (2) …約束手形、為替手形					
	4. 個別取引の処理 (3) …有価証券、有形固定資産					
	5. 個別取引の処理 (4) …貸付金・借入金、未収金・未払金					
	6. 個別取引の処理 (5) …前払金・前受金、仮払金・仮受金					
	7. 個別取引の処理 (6) …立替金・預り金、資本金・引出金、税金					
	8. 試算表の作成、伝票（入金伝票・出金伝票・振替伝票）の記入					
	9. 精算表の作成 (1)					
	10. 精算表の作成 (2)					
	11. 補助簿 (1) …小口現金出納帳・商品有高帳					
	12. 補助簿 (2) …売上帳・仕入帳、受取手形記入帳・支払手形記入帳など					
	13. 財務諸表の作成					
	14. 貸借対照表と損益計算書の関係、売上総利益の計算など					
	15. 総合問題練習					
評価方法	小テスト・課題（30%）・期末試験（70%）により評価。検定試験合格者は、結果も考慮する。ただし、2/3 以上の出席がない場合は成績評価しない。 全国経理教育協会の簿記検定日は、5/24(日)、7/12(日)、11/22(日)、2/21(日)。					
テキスト ※必ず購入	『〔新版〕例解演習基本簿記』（山本孝夫・前川邦生編）創成社 『全経簿記検定試験 PAST 3 級商業簿記』英光社					
参考書 ※必要に応じ購入						
受講条件 ルール等	電卓必携（最初の講義にて、指示する）。 毎回の授業の積み重ねなので、遅刻・欠席をしないこと。復習が重要である。					
準備学習の （予習・復習） 内容と分量	前回の授業内容について、小テストを行うので、各自復習を行っておくこと。 毎日少なくとも 10 分程度の問題練習（復習）を書いて行うのが効果的である。 また、小テストで間違えたところは、繰り返し練習し、提出する。					

科目名	簿記の基礎B				Bookkeeping B	
教員名	前 川 道 生			授業区分	〈現〉 専門教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	株式会社を対象とした簿記システムの理解					
授業の 概要・目的	商店などの日々の営業活動の記録を記した会計帳簿の仕組みを理解する。 講義では、500 年以上前に確立したといわれる複式簿記システムの理解を深める。 全国経理教育協会主催簿記検定 2 級の取得。					
授業の 到達目標	株式会社の日常の取引を仕訳帳に記帳し、総勘定元帳に転記することができる。 決算手続きを行い、精算表を通じて、貸借対照表・損益計算書を作成することができる。 本店・支店間の取引が理解できる。					
授業計画	1. 個別取引の処理 (1) …特殊商品売買（未着品取引、委託販売など）					
	2. 個別取引の処理 (2) …手形取引（手形の裏書、手形の割引、手形の不渡りなど）					
	3. 個別取引の処理 (3) …有価証券・有形固定資産の購入と売却					
	4. 個別取引の処理 (4) …社債・株式の発行、繰延資産					
	5. 個別取引の処理 (5) …法人税等、本支店間取引					
	6. 精算表の作成 (1)					
	7. 精算表の作成 (2)					
	8. 本支店合併損益計算書の作成					
	9. 本支店合併貸借対照表の作成					
	10. 伝票会計 (1)					
	11. 伝票会計 (2)					
	12. 帳簿組織 (1)					
	13. 帳簿組織 (2)					
	14. 貸借対照表と損益計算書の関係					
	15. 総合問題練習					
評価方法	小テスト・課題（30%）・期末試験（70%）により評価。検定試験合格者は、結果も考慮する。ただし、2/3 以上の出席がない場合は成績評価しない。 全国経理教育協会の簿記検定日は、5/24(日)、7/12(日)、11/22(日)、2/21(日)。					
テキスト ※必ず購入	『〔新版〕例解演習基本簿記』（山本孝夫・前川邦生編）創成社 『全経簿記検定試験 PAST 2 級商業簿記』英光社					
参考書 ※必要に応じ購入						
受講条件 ルール等	電卓必携（最初の講義にて、指示する）。 毎回の授業の積み重ねなので、遅刻・欠席をしないこと。復習が重要である。 「簿記の基礎 A」の履修者、または同等の学力を有する学生を前提とする。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	前回の授業内容について、小テストを行うので、各自復習を行っておくこと。 毎日少なくとも 10 分程度の問題練習(復習)を書いて行うのが効果的である。 また、小テストで間違えたところは、繰り返し練習し、提出する。					

科目名	インターンシップ概論			Internship Training	
教員名	牛 山 佳菜代			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	インターンシップ、企業、コミュニケーション、マナー				
授業の 概要・目的	インターンシップ(学生が在学中に、教育の一環として、企業等の指導のもと、一定の期間行う職業体験)の重要性を理解した上で、インターンシップのみならず、就職活動時また社会人として必須となるスキルを実際に身につけることを目指します。				
授業の 到達目標	①社会人としての心構えを理解する、②インターンシップに対する意識と理解を深める、③ビジネス・マナーの基本動作を身につける、④インターンシップや就職活動で、恥ずかしくない行動ができる				
授業計画	1. オリエンテーション: 自己紹介、授業の進め方及びルール等				
	2. インターンシップの目的と意義				
	3. 小テスト、仕事と業界				
	4. 小テスト、企業から見たインターンシップ				
	5. 小テスト、インターンシップ先の探し方				
	6. 小テスト、ビジネス・マナーの基本				
	7. 〔演習〕職場における効果的なコミュニケーション				
	8. 小テスト、インターンシップの実践マナー①敬語				
	9. 小テスト、インターンシップの実践マナー②文書				
	10. 小テスト、インターンシップの実践マナー③訪問及び来客対応				
	11. 小テスト、インターンシップを行う上での留意点				
	12. 小テスト、インターンシップ・就職活動に向けて①エントリーシート等を書いてみる				
	13. 小テスト、インターンシップ・就職活動に向けて②模擬面接を受けてみる				
	14. 小テスト、トラブルへの対応				
	15. 総括: インターンシップの学びをどのように生かすか				
評価方法	毎週の小テスト、授業への参加姿勢(実習への参加姿勢、コメントシート等を含む)、期末レポートを総合的に評価。				
テキスト ※必ず購入	古閑博美編著『インターンシップーキャリア教育としての就業体験』学文社				
参考書 ※必要に応じ購入	渡辺三枝子、久保田慶一著『はじめてのインターンシップ 仕事について考えはじめたあなたへ』アルテスパブリッシング 高橋書店編集部編『さすが!と言われる ビジネス・マナー 完全版』高橋書店				
受講条件 ルール等	本授業は、インターンシップについて真剣に考えている受講者を対象とした内容です。インターンシップに興味のない学生には受講を勧めません。遅刻厳禁、私語は一切認めません。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	〔予習〕①教科書を事前に熟読しておく(場所は事前に指定します) ②参考書や新聞をよく読み、私たちを取り巻く社会環境について理解をするように努める。 〔復習〕①授業で学んだ箇所について自分でノート等に整理し、翌週の小テストの学習をする。				

科目名	観光学概論A(観光学入門)				Outline of Tourism A	
教員名	中 島 智			授業区分	〈現〉 専門教育科目	
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	観光学への扉をひらく					
授業の 概要・目的	観光は 21 世紀の基幹産業といわれる。本授業では歴史・理論・政策等の視点から観光に迫ります。特に観光に関する基礎的理解を深め、将来の仕事に活かせるよう配慮します。					
授業の 到達目標	観光・旅行業、関連産業に進む予定の学生の基礎教養を養う。具体的には、現代観光の動向を把握し、観光形態や旅行者、生活者の意識の変化について理解できるようになる。					
授業計画	1. オリエンテーション 授業計画及び成績評価方法の説明、履修上の注意					
	2. 観光とは何か 観光の定義、世界と日本の観光の現状を知る					
	3. 観光と航空 観光交流における航空輸送業の役割とは					
	4. 観光と鉄道 観光交流における鉄道の役割とは					
	5. 小まとめ 1～4 回までの積み残し部分を解説し、観光を学ぶ意義を再確認する					
	6. マスツーリズムとその時代 大量生産大量消費(大量廃棄)時代の観光とは					
	7. 持続可能な観光の時代へ 「持続可能性」という言葉を手がかりに観光を考えよう					
	8. 多様化する観光対象(1) 観光資源について考えよう					
	9. 多様化する観光対象(2) 観光と食文化					
	10. 発表と議論 わがまちの観光資源					
	11. 観光政策の現状と課題(1) 観光立国を再考しよう					
	12. 観光政策の現状と課題(2) 世界遺産の光と影					
	13. 観光と倫理 観光がもたらす負の影響を予防、解消するための倫理とは					
	14. 観光教育 地域の宝を掘り起し、暮らしを誇れる地域づくりを進めよう					
	15. まとめ これからの観光に向けた展望					
評価方法	毎回の小レポート(50%)＋授業内試験(50%) なお、小レポートは、授業内容の要約と論評が中心。					
テキスト ※必ず購入	白土健・望月義人編『観光を学ぶ』八千代出版、2015 年 (ISBN 9784842916460)					
参考書 ※必要に応じ購入	井口貢編『観光学への扉』学芸出版社、2008 年 (ISBN4761524464)					
受講条件 ルール等	観光学は、まだ手探りの段階にある若い学問です。観光に期待や関心をもっている皆さんと一緒に学んでいきたいと思ひます。なお、受講生の人数や関心、理解度に応じて計画を若干変更する場合があります。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業で紹介した観光を学ぶ上で基本となる用語について、復習しておくこと(毎回小レポートの提出を求める)。その際、ことばを暗記することではなく、その概念を使って事例を説明できることが大切。関連する新聞記事を切り抜き、スクラップ帳を作成することも有用です。					

科目名	観光学概論B(観光の諸相)				Outline of Tourism B	
教員名	中 島 智			授業区分	〈現〉 専門教育科目	
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択	
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得					
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立					◎
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立					
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢					
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮					
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得					
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮					○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得					
授業表題	観光文化を学ぶ					
授業の 概要・目的	文化現象としての現代観光の諸相を考察するとともに、旅や観光について示唆を与える柳田国男、宮沢賢治、宮本常一らの思想を深め、観光が持つ本来の意味を理解することを目指します。					
授業の 到達目標	・旅や観光の意味について自分なりの視点を持ち、自分の言葉で話せるようになる ・地域における観光文化の創造過程について、具体的な事例に基づいて説明できるようになる					
授業計画	1. オリエンテーション 授業計画及び成績評価方法の説明、履修上の注意					
	2. 観光と地域づくり					
	3. 旅と観光の歴史(1) 旅の文化史					
	4. 旅と観光の歴史(2) 近代観光の誕生					
	5. 観光のまなざし ジョン・アーリの提起した「観光のまなざし」概念で観光を読み解く					
	6. 観光文化としての旅行業					
	7. ゆるキャラと B 級グルメ 「ご当地もの」と観光振興					
	8. クール・ジャパンとホット・ローカル					
	9. アニメツーリズム 情報社会と新しい観光					
	10. 柳田国男と現代観光政策					
	11. 宮沢賢治と農民芸術論					
	12. 宮本常一と観光文化論					
	13. 震災復興と観光文化					
	14. オリンピックと観光文化					
	15. 観光文化と地域の将来 14 回の授業を総括し、観光文化と地域の将来を展望する					
評価方法	毎回の小レポート(50%)＋授業内試験(50%) なお、小レポートは、授業内容の要約と論評が中心。					
テキスト ※必ず購入	井口貢編『観光文化と地元学』古今書院、2011 年 (ISBN4772231382)					
参考書 ※必要に応じ購入	白土健・望月義人編『観光を学ぶ』八千代出版、2015 年 (ISBN 9784842916460)					
受講条件 ルール等	観光も学びも自律が基本。教室が主体的な学びの場となるように、希望者を募り、教科書の指定されたページの内容を説明するレジュメを作成して、かつ授業内で発表していただく予定。なお受講生の人数や関心、理解度に応じて計画を若干変更する場合があります。					
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	事前にアナウンスするので、教科書の指定されたページを読み、自分の考えをまとめておいてください(毎回小レポートの提出を求める)。また、(長期)休暇等を利用して極力費用をかけずに、地域の文化や自然、人と出会う旅を楽しむことをお奨めします。					

科目名	観光マネジメント			Tourism Manegiment	
教員名	中 島 智			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	地域観光の理念と政策				
授業の 概要・目的	観光まちづくりの考え方を基本において、グリーン・ツーリズムやエコツーリズムを含む様々な地域観光のあり方を考察し、観光マネジメントについて理解することを目指します。				
授業の 到達目標	・観光とまちづくりの関連性を念頭に置きながら、地域活性化の手法として観光を考えられるようになる ・観光まちづくりの展開過程について具体的な事例に基づいて説明できるようになる				
授業計画	1. オリエンテーション 授業計画及び成績評価方法の説明、履修上の注意				
	2. 地域観光へのアプローチ 旅行スタイルと観光立国の動向				
	3. 観光とまちづくり 観光まちづくり(まちづくり観光)とは				
	4. 杉並における地域観光を考える(Ⅰ)「まわしよみマガジン」				
	5. 観光と環境(1) エコツーリズムとは				
	6. 観光と環境(2) エコツーリズムの事例				
	7. 杉並における地域観光を考える(Ⅱ)「フィールドワーク」				
	8. 観光と農村文化(1) グリーン・ツーリズムとは				
	9. 観光と農村文化(2) グリーン・ツーリズムの事例				
	10. 杉並における地域観光を考える(Ⅲ)「ワークショップ」				
	11. 観光と福祉文化 観光福祉とは				
	12. 観光とミュージアム ミュージアムマネジメントとは				
	13. 発表と議論 地域と観光の関係について具体例を示し、そのマネジメントを考える				
	14. 地域社会と観光の諸問題 発表及び期末レポート講評				
	15. まとめ 地域観光の将来を考える				
評価方法	毎回の小レポート(50%)＋期末レポート(50%) なお、小レポートは、授業内容の要約と論評が中心。				
テキスト ※必ず購入	なし ※適宜プリントを配布します。				
参考書 ※必要に応じ購入	白土健・望月義人編『観光を学ぶ』八千代出版、2015 年 (ISBN 9784842916460) 谷口知司編『観光ビジネス論』ミネルヴァ書房、2010 年 (ISBN 4623056007)				
受講条件 ルール等	授業内外で、受講生が地域や現場の人々と出会える機会をつくっていきたいと考えています。その一環として、ロールモデルとなる現場で活躍する実務家をゲスト講師として迎える予定。なお、授業計画はゲスト講師の予定等、事情に応じて適宜変更することがあります。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業で紹介したキーワードについて復習しましょう(毎回小レポートの提出を求める)。また観光マネジメントは、地域における問題発見とその解決が重要な課題になります。したがって、受講生は積極的に地域に飛び出して資料収集、参与観察を行うことが望まれます。				

科目名	世界遺産と歴史			
教員名	中 島 智		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	世界遺産を通して学ぶ観光と歴史			
授業の 概要・目的	文化財は国家や個人ではなく、人類に属する共通の遺産です。この「世界(文化)遺産」の理念と現実について学ぶとともに、そのことを通して世界の諸地域の歴史と文化、観光への理解を深めることが、本授業の目的です。			
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコの世界遺産制度及び無形文化遺産保護条約のテーマと課題について理解できるようになる ・生物多様性及び文化多様性の重要性について理解できるようになる ・文化遺産管理と観光開発の関係性について具体的な事例を基に説明できるようになる 			
授業計画	1. オリエンテーション 授業計画及び成績評価方法の説明、履修上の注意			
	2. 講義の枠組み 生物多様性と文化多様性 / 遺産保護と観光開発			
	3. 世界遺産の制度史(1)世界遺産とは / ユネスコと世界遺産条約			
	4. 世界遺産の制度史(2)文化財と文化遺産 / 遺産概念の拡大			
	5. 京都(・大津)巡検			
	6. ふりかえり・マップ作り			
	7. 世界遺産と歴史の旅(1)アジアと仏教			
	8. 世界遺産と歴史の旅(2)イスラーム世界			
	9. 世界遺産と歴史の旅(3)ヨーロッパとキリスト教			
	10. 世界遺産と歴史の旅(4)近代という時代			
	11. 近代化と世界遺産 産業遺産とは / 戦争・自然災害と世界遺産			
	12. 自然遺産とは何か 文化としての自然 / 自然保護の再考			
	13. 世界遺産の意義と限界・問題点 危機遺産とは / 文化帝国主義と世界遺産制度			
	14. 発表と議論			
	15. まとめ			
評価方法	毎回、授業中に課す小テストと小レポート(50%)及び発表(50%)			
テキスト ※必ず購入	『くわしく学ぶ世界遺産 300 世界遺産検定 2 級公式テキスト』マイナビ、2013 年			
参考書 ※必要に応じ購入	鷲田清一『京都の平熱: 哲学者の都市案内』(講談社学術文庫)講談社、2013 年 梅棹忠夫『京都の精神』(角川ソフィア文庫)角川学芸出版、2005 年 山村高淑(他著)『世界遺産と地域振興: 中国雲南省・麗江にくらす』世界思想社、2007 年			
受講条件 ルール等	授業では世界遺産の保護と活用の問題を取り上げ、世界の諸地域の歴史と文化、観光について理解することに重点を置きます。京都(・大津)巡検については別途案内しますが、参加できない場合は代替講義を受けることになります。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	授業で紹介したキーワードについて復習しておくこと(授業冒頭に小テストを実施予定)。その際、ことばそれ自体を暗記するのではなく、その意味を説明できることが大切です。なお、検定を受験する方は問題集を併用し、自分の弱点を発見、克服していきましょう。			

科目名	観光英語 Travel English			
教員名	中 岡 典 子		授業区分	〈現〉専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	1 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	海外旅行で役立つ英語			
授業の 概要・目的	海外旅行だけでなく、将来ホテル・トラベル業界でも役立つ実践的な英語力をめざします。 ・空港やホテルなど海外旅行の様々な場面で役立つ表現や語彙の習得 ・国内・海外の観光スポットへの関心の拡大			
授業の 到達目標	観光英語検定試験3級合格相当の実践的な英語力を習得すること			
授業計画	1. ガイダンス			
	2. 空港・税関 ……機内でのやりとり			
	3. 入国審査・税関にて			
	4. ホテル・レストラン…チェックイン			
	5. 注文			
	6. 交通 ……地下鉄に乗る			
	7. 道案内			
	8. レンタカー ……レンタカー			
	9. ガス・ステーション			
	10. ホテル ……予約			
	11. ギフトショップ			
	12. トラブル ……苦情			
	13. 荷物の紛失処理			
	14. 体調不良……事故・病気の表現			
	15. まとめ			
評価方法	次の 2 点を総合的に評価する。 1) 観光英語検定試験 3 級 (6 月末) の試験結果 2) 毎回の授業への積極的参加			
テキスト ※必ず購入	Travel English at Your Fingertips 実用観光英語 島田拓司・Bill Benfield 他著 成美堂出版、2009年 配布プリント:観光英語検定 3 級過去問題			
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜提示			
受講条件 ルール等	受講生は全員、6 月末実施の観光英語検定試験 3 級を受験すること 受講生には全員、課外の直前対策講座への参加を勧めます。 《参考》観光英検 2 級合格者は共通自由選択科目 2 単位 + 報奨金が取得できます。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	次回の Unit の単語の予習。及び、毎回の授業で学習したキーワード、及び海外旅行で役に立つ英文表現の復習をすること。次回の授業のミニテストで確認 観光英語検定 3 級の問題集 (CD 付き) を各自、マイペースで自学学習することを薦めます。			

科目名	観光地理 Geography for Travel			
教員名	白 土 健		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	国内及び海外観光地の基礎的知識の習得			
授業の 概要・目的	先行きの見えない経済状態からやや薄明かりが見え始めた中で、地域活性化の切り札として観光が注目を集めています。本講義では国内外の観光資源の要素を探り、魅力ある観光地の条件について考察します。			
授業の 到達目標	観光産業にとって必要不可欠な国内外の自然・文化・歴史・地理上の知識を習得することを目的とします。 履修生全員の世界遺産検定 3 級合格を目指します。			
授業計画	1. 本授業の進め方ならびに観光地理学と定義			
	2. 自然資源の観光テーマ(自然環境を守り、地域振興に寄与する観光)			
	3. 文化資源の観光テーマ(文化遺産の保護と観光・歴史、文化資源の活用と課題)			
	4. 海洋と大陸			
	5. その他の観光テーマ(世界の気候を知る)②温帯・冷帯・寒帯)			
	6. その他の観光テーマ(世界の気候を知る)②温帯・冷帯・寒帯)			
	7. アメリカ・中南米			
	8. 東南アジア・インド・中東・			
	9. ロシア・中央アジア・ヨーロッパ・アフリカ			
	10. オーストラリア・中国・朝鮮半島			
	11. その他の観光テーマ(世界の気候を知る)①熱帯・乾燥帯)			
	12. 我が国の観光地の特性(北海道)～自然基盤・歴史的背景・観光の特色			
	13. 我が国の観光地の特性(東日本)～自然基盤・歴史的背景・観光の特色			
	14. 我が国の観光地の特性(沖縄)～自然基盤・歴史的背景・観光の特色			
	15. まとめ 今後の観光振興の課題			
評価方法	レポート(40%)、定期試験(60%)を総合して評価します。 尚、欠席が各期講義の 1/3 を超えた受講者は評価の対象から外します。			
テキスト ※必ず購入	旅に出たくなる地図 世界 帝国書院 2520 円 ISBN-13: 978-4807160167 はじめて学ぶ世界遺産100 (株)マイナビ 1300 円 ISBN-978-4-8399-4989-1			
参考書 ※必要に応じ購入	地図帳(高校時代に使用したもので可能)			
受講条件 ルール等	教室には学ぶ姿勢の緊張感が大切です。それを乱すことないよう十分留意してください。 加えて、講義をきっかけとして自分なりに関心や興味を持ったことへの考察を深めてください。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	シラバスを熟読の上、各回の授業計画に該当する国、地域について予習をすること。【90分】 (教科書・参考書・ネット、旅行会社のパンフレット等での情報収集) 受講後は、講義録にタイトル、ならびに受講感を作成すること:講義初回到説明。【90分】			

科目名	ホテルビジネス論 Study of Hotel Management			
教員名	白 土 健		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			◎
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			○
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	ホテルの実務知識を学ぶ			
授業の 概要・目的	ホテル・旅館等宿泊産業の経営特質を考察する。さらに諸外国の事例との比較の中で、それぞれの沿革、制度、現状を詳細に認識した上で、これからのホテルの在り方を示唆したい。具体的にはホテル経営についての概略とホテル産業の現状と将来展望を、実在企業の実例等により分かりやすく解説します。			
授業の 到達目標	観光産業にとって必要不可欠な宿泊産業「ホテルビジネス」の知識を習得することを目的とします。 履修生全員のホテルビジネス検定ベーシックレベル 2 級合格を目指します。			
授業計画	1. 授業の進め方ならびにホテルビジネスと定義			
	2. ホテル産業の社会的な役割 ホテルの商品とは			
	3. ホテルマンについて ホテルとホテルマンの使命			
	4. ホテルの歴史(欧米) (日本)			
	5. ホテルの種類			
	6. 宿泊部門の業務			
	7. 料飲部門の業務			
	8. 宴会部門の業務			
	9. 調理部門の業務			
	10. マーケティング部門の業務			
	11. 総務・人事部門の業務			
	12. 施設管理部門の業務			
	13. 仕入・購買部門の業務			
	14. 経理・会計部門の業務			
	15. まとめ 新しいサービス&ホテル経営のまとめ			
評価方法	レポート(40%)、定期試験(60%)を総合して評価します。 尚、欠席が各期講義の 1/3 を超えた受講者は評価の対象から外します。			
テキスト ※必ず購入	『エクセレント・サービス』(創成社・ISBN:978-4-7944-2368-9) 『観光を学ぶ』(八千代出版・ISBN978-4-8429-1646-0)			
参考書 ※必要に応じ購入	『ホテルビジネス基礎編』(財団法人日本ホテル教育センター・) ホテルビジネス・基礎編 練習問題集 700 選ーベーシックレベル 2 級・1 級準拠問題集ー			
受講条件 ルール等	教室には学ぶ姿勢の緊張感が大切です。それを乱すことないよう十分留意してください。 加えて、講義をきっかけとして自分なりに関心や興味を持ったことへの考察を深めてください。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	シラバスを熟読の上、各講義内容に関する予備知識をテキストを中心に調べておく テレビ等の旅番組、宿泊に関する番組に注視し、極力視聴すること【90分】 講義終了後、講義目録を作成すること(回数・月日・タイトル・講義感)【90分】			

科目名	旅行業務総論(観光プランニング) Study of Travel Business			
教員名	太 田 実		授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次前期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	旅行業を中心とした観光産業の理解			
授業の 概要・目的	観光産業を支えてきたのは、航空、鉄道などの運輸業や、ホテルなどの宿泊業、旅行業などである。本講義では、観光に関する基礎的な知見、産業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を学ぶ。この授業を通して、観光サービス提供者の役割のみならず、よき旅行者としての行動をも知ることができる。			
授業の 到達目標	本講義の目標は、旅行業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を習得することである。本講義で、その基礎となる観光に関わる基礎知識、および、主要産業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を習得できる。			
授業計画	1. オリエンテーション(授業の概要と計画、評価の方法などについて説明)			
	2. 観光とは			
	3. 旅行と旅行産業の歴史(海外)			
	4. 旅行と旅行産業の歴史(日本)			
	5. 旅行産業の基礎知識(1)			
	6. 旅行産業の基礎知識(2)			
	7. 旅行産業の基礎知識(3)			
	8. 旅行産業の基礎知識(4)			
	9. 旅行産業の基礎知識(5)			
	10. 旅行産業の基礎知識(6)			
	11. 旅行マーケティング実務			
	12. 商品企画実務			
	13. カウンターセールス実務			
	14. アウトセールス実務			
	15. 添乗サービス実務			
評価方法	授業中に随時行うミニテスト(50 点)と期末試験(50 点)の合計により評価する。 全授業の 3 分の 2 以上の出席が認められない場合は評価の対象から外れます。 ※評価方法については第 1 回授業(オリエンテーション)にて詳細を説明する。			
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しません。毎回プリントを配布します。			
参考書 ※必要に応じ購入	前田勇編著「新現代観光総論」学文社			
受講条件 ルール等	講義マナー(私語、携帯電話等の使用、遅刻、途中退室など)には厳しく対応します。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	復習のためのプリント(A41 枚程度)を課題として配布することを予定しています。 授業で取り上げたキーワードを復習しておくこと(次回授業時にテストする場合があります)。			

科目名	旅行業務演習(観光プランニング演習) Travel Service Practice			
教員名	太田 実		授業区分	〈現〉専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	2 単位	選択・必修 選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得			
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立			
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立			
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢			◎
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮			
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得			
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮			○
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得			
授業表題	旅行商品を企画する			
授業の 概要・目的	サービス提供側の視点から旅行商品ならびに旅行者を見ることによって、旅行業の全体構造を捉えることができる。この授業では、旅行商品を学生自ら企画していくことによって、豊かな旅行とは何かを理解することができる。			
授業の 到達目標	旅行商品の企画を通じて旅行商品の知識を習得できる。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力を高めることができる。さらに、発表を通じてプレゼンテーション能力を高めることができる。			
授業計画	1. オリエンテーション(授業の概要と計画、評価の方法などについて説明)			
	2. 旅行商品の研究(1)			
	3. 旅行商品の研究(2)			
	4. 旅行商品の研究(3)			
	5. 旅行商品の企画の方法(1)			
	6. 旅行商品の企画の方法(2)			
	7. 旅行商品の企画[グループワーク](1)			
	8. 旅行商品の企画[グループワーク](2)			
	9. 旅行商品の企画[グループワーク](3)			
	10. 中間発表			
	11. 旅行商品の企画[グループワーク](4)			
	12. 旅行商品の企画[グループワーク](5)			
	13. 旅行商品の企画[グループワーク](6)			
	14. 旅行商品企画のコンペティション			
	15. 講評:コンペティション結果の発表と評価について			
評価方法	中間発表 20 点と、旅行商品企画コンペ参加 80 点の合計点にて評価する。 全授業の 3 分の 2 以上の出席が認められない場合は評価の対象から外れます。			
テキスト ※必ず購入	テキストは使用しません。毎回プリントを配布します。			
参考書 ※必要に応じ購入	講義中に適宜紹介する。			
受講条件 ルール等	本講義は演習のためグループワークを行います。 講義マナー(私語、携帯電話等の使用、遅刻、途中退室など)には厳しく対応します。			
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	商品企画作成のために、授業前後の予習復習に多くの時間を割かなければならないことに留意して下さい。また、復習のためのプリント(A41 枚程度)を課題として配布することも予定しています。授業で取り上げたキーワードを復習しておくこと(次回授業時にテストする場合があります)。			
科目名	資格英語B		Preparation Course for TOEIC	

教員名	中 岡 典 子			授業区分	〈現〉 専門教育科目
年次配当	1 年次後期	単位数	1 単位	選択・必修	選択
この授業の 位置づけ	1. 自己を分析して発信できるコミュニケーション能力の修得				◎
	2. 他者との違いを恐れず、社会に安易に流されない価値観の確立				
	3. 異文化を理解し、市民社会を共に生きる姿勢と能力の確立				
	4. 困難に対し自ら原因を追究し行動に活かす姿勢				
	5. 心理学基礎の知識と能力の修得と豊かなコミュニケーション能力の発揮				
	6. 現代社会を理解し、情報処理・秘書学などを通じた実務能力の修得				
	7. 日本と世界の現状・歴史・文化の理解とホスピタリティ能力の発揮				
	8. 子どもを守り育てていくための専門知識・能力の修得				
授業表題	資格試験 TOEIC 対策				
授業の 概要・目的	TOEICは、国際的なビジネス社会や英語圏での生活で国際的に通用する英語のコミュニケーション力を測定する試験です。このクラスでは、トレーニングを通して英語力の向上をめざします。				
授業の 到達目標	TOEIC 500～600 点				
授業計画	1.	ガイダンス	英語学習の仕方		
	2.	模擬テスト問題	+ トレーニング		
	3.	模擬テスト問題	+ トレーニング		
	4.	語彙・文法問題	+ トレーニング		
	5.	語彙・文法問題	+ トレーニング		
	6.	リスニング問題	+ トレーニング		
	7.	リスニング問題	+ トレーニング		
	8.	長文読解問題	+ トレーニング		
	9.	長文読解問題	+ トレーニング		
	10.	リスニング問題	+ トレーニング		
	11.	リスニング問題	+ トレーニング		
	12.	模擬テスト問題			
	13.	模擬テスト問題			
	14.	模擬テスト問題			
	15.	まとめ			
評価方法	1) TOEIC IP テスト(本学にて1月末実施)の試験結果 2) e-learning 教材での学習記録				
テキスト ※必ず購入	1) 『目指せ中級 新 TOEIC Test 実践トレーニング』(黄緑色の表紙) 千田潤一監修 丸善出版 2) e-learning 教材 3) プリント教材配布				
参考書 ※必要に応じ購入	授業内で適宜、紹介。				
受講条件 ルール等	受講生は、全員TOEIC IP テストを受験すること（受験が単位取得の必須条件） TOEIC 500点以上取得者は更に共通自由選択科目2単位＋報奨金が取得できます。 課外のTOEIC テスト直前対策講座への参加を勧めます。				
準備学習の (予習・復習) 内容と分量	1) 授業の復習として、学習した unit のキーセンテンスの音読筆写、及び音読10回、 2) 配布プリント(TOEIC 模擬試験問題)で学習、及び e-learning 教材の利用 3) 各自準備した TOEIC の模擬試験問題集{CD付き}で、マイペースで学習を進める。				